

平成30年度実施

福祉に関する意識・実態調査報告書

—小・中学生、高校生、特別支援学校高等部生、保護者、特別支援学校保護者、教員—

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

福祉教育研究委員会

「福祉に関する意識・実態調査」報告書の刊行にあたって

鳥取県の福祉教育・学習、特に学校で行われる取組みは、長年にわたる実践の蓄積のうえで展開されています。1973年度に米子市社会福祉協議会が「福祉教育モデル指定事業」を開始し、1977年度には鳥取県社会福祉協議会が「福祉の教育研究協力校」の指定を始めます。次第に、「福祉教育」は教育行政でも注目されることとなり、1989年度からは、県教育委員会の学校教育の努力点に位置付けられました。以来、県内の小・中学校、高等学校の全校で、福祉教育＝「福祉の心を育む教育」が実践されてきました。

「福祉の心を育む教育」は、幼い頃から家庭・学校・地域などあらゆる生活の場で、人間尊重の精神を基盤に、ともに幸福を求めて生きる学びの場を通して培われるものです。その育成においては、幼稚園・保育所・認定こども園・学校での「福祉教育」の展開に加え、社会福祉協議会・公民館・社会福祉施設をはじめとした各種の機関や団体などでの「福祉学習」を推進することで、地域社会全体の課題として立体的に取り組んできました。

また、2002年から学習指導要領に基づく「総合的な学習の時間」の内容に「福祉」が盛り込まれてから、児童・生徒が地域社会の中で、様々な人との「ふれあい」や体験、ボランティア活動等に関わることへと広がっていききました。

社会福祉をめぐっても、社会福祉基礎構造改革を起点に、介護保険制度の開始、障がい者の権利保障と自立支援に関わる諸施策の展開、子ども・子育て支援新制度の施行など、従来の福祉制度やその背景にある福祉観などが大きく変貌しています。

このような中で、私たちは、児童・生徒、保護者や教員等が、「福祉」に関してどのような考え方や意識をもっているか、過去4回実施した同様の調査と比較対照しながら、県内の福祉教育・学習実践の積上げの成果及び今後の推進上の課題を把握する調査を実施しました。これは、その結果をまとめたものです。この結果をもとに、今後の更なる福祉教育・学習の推進に向けた取組方針を検討していきたいと考えています。

調査の実施にあたり、関係の皆様へ厚く感謝を申し上げる次第であります。特に、調査に御回答くださった各学校の教員、児童・生徒、保護者の皆様方の御理解と御協力に対して、心から感謝と御礼を申し上げます。

願わくは、この報告書が福祉教育に携わる方々、県民の皆様にも御活用いただき、鳥取県の福祉教育・学習が、鳥取県の福祉が、さらにいっそう進展することを祈るものであります。

なお、この調査は、赤い羽根共同募金の助成金を受けて実施しましたことを付記し、御報告といたします。

平成31年3月
鳥取県社会福祉協議会
福祉教育研究委員会

目 次

報告書の刊行にあたって

研究の目的・趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
〈小・中学生の部〉	
設問毎の集計と解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
前回調査との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
〈高校生の部〉	
設問毎の集計と解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 1
前回調査との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 1
〈特別支援学校生の部〉	
設問毎の集計と解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 9
前回調査との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 9
〈保護者の部〉	
設問毎の集計と解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6 7
前回調査との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6 7
〈特別支援学校保護者の部〉	
設問毎の集計と解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8 1
前回調査との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8 1
〈教員の部〉	
設問毎の集計と解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9 7
前回調査との比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9 7
調査結果(単純集計)の特徴点・・・・・・・・・・・・・・・・	1 0 9
福祉教育研究委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・	1 1 0

研究の目的・趣旨

1 鳥取県における福祉教育の沿革

(1) 学校における「福祉教育」

日本における福祉教育の歴史は古く、終戦直後に、人間性の回復をめざし、子どもたちに社会福祉をとおした教育をという趣旨から始まった。その後、昭和52年に国庫補助事業「学童・生徒のボランティア活動普及事業」が始まり、学校における本格的な取組みが全国各地で展開されるようになった。

鳥取県においては、昭和28年の八頭郡社会福祉協議会による「社会福祉事業普及校設置事業」を先駆けに、昭和48年の米子市「福祉教育モデル指定事業」以降、境港市、東伯町、倉吉市でも福祉教育の取組みが始まっている。

昭和52年からは、鳥取県社会福祉協議会（以下、県社協）が、「福祉の教育研究協力校」の指定を始め、その後、県内の市町村社会福祉協議会（以下、市町村社協）へ急速にして事業が拡大、昭和55年からは、高等学校の指定も始まり、市町村社協では幼稚園、保育所、特別支援学校へと取組みが広がっていった。

このような取組みのなか、福祉教育は教育委員会でも注目されることとなり、平成元年からは鳥取県教育委員会の学校教育の努力点に位置付けられ、その後、平成14年に学習指導要領が改訂（高等学

校は平成15年度）され、新たに創設された「総合的な学習の時間」の内容に「福祉」が盛り込まれたことから、ボランティア活動を含む豊かな社会体験、自然体験活動を、学校教育・社会教育をとおして、学校・家庭・地域が連携して取組むことが推進されてきた。

福祉教育事業の学校指定は、県社協と市町村社協の実施を含めて、昭和52年からの学校指定の累計は、小・中学校、高等学校で100%となっている。現在、市町村社協は継続しており、平成30年度は17市町村社協で幼稚園・保育所・認定こども園（10所）、小学校（73校）、中学校（38校）、高等学校（8校）、特別支援学校（4校）、義務教育学校（1校）の実施となっている。

なお、県社協はこの事業を平成25年度で終了しているが、高等学校を対象とした特別指定校事業は平成9年度から現在にわたり取組んでおり延べ8校を指定している。

(2) 地域における「福祉教育」

県社協は、昭和60年から「ボランティア体験事業」を始め、それまで学校を中心に取組まれてきた福祉教育から、県内の高等学校に通う高校生以上を対象に「ボランティア体験月間（7～8月）」の夏休み期間を中心に社会福祉施設で活動するプログラムへと領域を拡大した。また、市

町村社協の自主事業として、主に小・中学生を対象としたプログラムが用意され、平成30年度は、324プログラムに1,049人の参加があった。

加えて、県社協では、近年、いじめや虐待など子どもたちを取り巻く環境の変化や住民同士の間関係の希薄化が問題視され、地域のなかで社会性を育て“ともに生きる”ことを考える「地域を基盤とした福祉教育」の取組みに関心が高まったことを受け、平成16～27年度にかけて「福祉学習サポーター講座」を実施し、延べ385人のサポーターを養成してきた。また、平成26～28年度は「福祉学習推進ファシリテーター養成講座」、平成29年度からは「福祉学習推進者スキルアップ講座」を実施するなど、地域の福祉・生活課題にふれ福祉の理解を広げる活動を行うとともに、福祉教育・学習の支援者（協力者）の学びを促進している。

また、市町村社協を対象に、平成15年度から「地域で取り組む福祉教育・ボランティア活動推進事業」を延べ21社協が指定事業を受け、地域を基盤とした体験・学習活動の展開を進めている。

（3）指導者等に向けた取組み

昭和52年から実施している「福祉の教育研究協力校事業」とともに「福祉教育実践校研究協議会」を開催し、昭和61年からは「福祉教育研究セミナー」として、

社協、学校、福祉施設、民生委員・児童委員、福祉協力員など福祉教育関係者を中心に福祉教育の推進に向け、関係者の共通理解、共同実践の基盤を提供することを目的に開催している。

また、平成16～20年度にかけて、福祉学習を授業に取入れる際の展開例や演習・グループワークの具体的なヒントをまとめ、学びがよりいっそう豊かなものとなるよう福祉教育読本「ともに生きる」（小学生向け、中学生向け、先生向け）を発行した。さらには、「福祉の心」を育む実践が地域住民を対象とした取組みへと広がるよう平成23～25年度にかけて、ガイドブック「福祉で輝く地域づくり」「福祉で取り組む福祉学習実践ヒント集」「福祉で取り組む福祉学習実践事例集」を発行した。また、高校生向けに、鳥取県にゆかりのある福祉の先人やその考え方、県内で熱心な福祉に関わる取組みの紹介をまとめ、一人ひとりが日常生活のなかで地域の福祉の問題の解決に向けた実践力が高まることを願い、平成27～29年度にかけて福祉教育読本「ともに生きる」シリーズ『福祉の理念編』『福祉の理解編』『福祉の実践編』の3部作を発行した。これらの読本は、学校の授業や地域の福祉学習の場面等で活用いただいている。

2 調査の位置づけ

（1）今回調査のねらい

県社協では、昭和56年、平成2年、平成12年、平成20年に同様の調査を実施している。

昭和56年は「福祉の心を育てる教育」を推進するための指針となる『実践の手引き』を編纂しており、この一環として児童・生徒の福祉への関心や理解度を把握し、また、小・中学生、高校生が日常生活の中でどのように過ごし、感じているかを調査した。この年は、国際障害者年でもあり、この面からも福祉への関心が高まっていた時期でもある。

平成2年は、時代の変遷のもとで児童・生徒等の変化を探るとともに、保護者を対象に加え、家庭への福祉教育への影響も検討することとなった。この年も、前年末に高齢者保健福祉十か年戦略が打ち出され、老人福祉関係八法改正が行われた年であった。

平成12年は、介護保険制度導入直後の調査となり、障がいのある生徒とその保護者を調査対象に加え、ノーマライゼーションを実現する観点から福祉教育の位置づけを検討する資料として調査を実施している。

平成20年は、「障害者自立支援法」が平成18年に施行や、平成19年度に起こった年金記録問題など社会福祉に関する国民の関心が高まっているもとでの実施となった。

今回調査は、日本が平成26年に批准

した「障害者権利条約」、平成28年「障害者差別解消法」施行をはじめ、鳥取県においても平成21年「あいサポート運動」スタート、平成25年「鳥取県手話言語条例」制定、平成29年「あいサポート条例」施行など障がい福祉分野を取り巻く施策が広がっているもとでの実施となった。また、平成28年閣議決定「ニッポン一億総活躍プラン」に地域共生社会の実現が盛り込まれ、平成30年「改正社会福祉法」施行で地域福祉推進の基盤強化が進められるなど、地域課題に住民が主体的に関わる動きが高まっているなかでの実施となった。

今回対象とした児童・生徒は、特別支援学校を変更した以外は、前回同様の学校としている。平成23年以降実施の学習指導要領で「生きる力」の育成の実現や、平成32年から実施の新学習指導要領への移行期間の世代にあたる。過去の調査結果を踏まえた時代の変遷を見ながら、福祉教育の実践の検証と、県社協が平成20年度策定「鳥取県における今後の福祉教育推進体制イメージ」に基づいて進めている地域を基盤とした取組みの成果を探り、今後の更なる事業展開を考察する資料として調査を実施した。

調査の概要

1 調査目的

児童・生徒および教員ならびに保護者の社会福祉に関する考え方などをうかがい、平成20年度に実施した同様の調査結果との比較対照を中心に、県内の福祉教育・学習の取組みの傾向を把握するとともに、地域を基盤とした実践の成果を探り、今後の更なる事業展開を考察する。

2 調査項目

小・中学生の部

- ① 基本的属性
- ② 生活の満足度
- ③ 家庭における仕事の分担
- ④ 高齢者との関わり
- ⑤ 障がい者とのかかわり
- ⑥ 社会福祉
- ⑦ 福祉に関する関心と理解
- ⑧ 募金活動とボランティア活動
- ⑨ 将来の生き方

高校生の部

- ① 基本的属性
- ② 福祉のイメージ
- ③ 募金活動
- ④ 高齢者との関わり
- ⑤ 障がい者とのかかわり
- ⑥ 差別問題
- ⑦ 環境・資源保護
- ⑧ ボランティア活動
- ⑨ 社会福祉の情報源と知識
- ⑩ 将来の生き方

特別支援学校（高等部生）の部

- ① 基本的属性
- ② 福祉のイメージ
- ③ 募金活動
- ④ 高齢者との関わり
- ⑤ 他の高校生とのかかわり
- ⑥ 差別問題
- ⑦ 環境・資源保護
- ⑧ ボランティア活動
- ⑨ 社会福祉の情報源と知識
- ⑩ 将来の生き方

保護者の部

- ① 基本的属性
- ② 福祉のイメージ
- ③ 高齢者との関わり
- ④ 障がい者とのかかわり
- ⑤ 社会道徳
- ⑥ 差別問題
- ⑦ 環境・資源保護
- ⑧ ボランティア活動
- ⑨ 福祉教育への関心
- ⑩ 子どものしつけ
- ⑪ 社会福祉の情報源と知識
- ⑫ 子どもの将来への願い

特別支援学校（高等部）保護者の部

- ① 基本的属性
- ② 福祉のイメージ
- ③ 高齢者との関わり
- ④ 地域の人や子どもとのかかわり
- ⑤ 社会道徳
- ⑥ 差別問題
- ⑦ 環境・資源保護
- ⑧ ボランティア活動
- ⑨ 福祉教育への関心
- ⑩ 子どものしつけ
- ⑪ 社会福祉の情報源と知識
- ⑫ 子どもの将来への願い

教員の部

- ① 基本的属性
- ② 福祉のイメージ
- ③ ボランティア活動
- ④ 福祉の教育
- ⑤ 社会福祉の情報源

小・中学生、高校生、特別支援学校生（高等部生）および教員、保護者、特別支援学校（高等部生）の保護者に関しては、前回調査をベースにアンケート項目を作成する。

小・中学生には、同一の調査票を用い、その成長段階の推移をみる。高校生、特別支援学校生（高等部生）、保護者、特別支援学校（高等部生）の保護者、教員には別種の調査票を作成し、6種類の調査相互に関連をもたせ、比較検討できるように配慮する。

3 調査対象および標本抽出法

【小学生】

県内の小学校の中から、東部、中部、西部および郡部・市部を配慮し、計24校を抽出し、各学校とも6学年1学級を対象とする。また、前回との比較のため前回と同一の学校とする。

【中学生】

小学生と同様の方法で、前回の対象校と同一の16校を抽出し、各学校とも2学年1学級とする。

【高校生】

小・中学生の場合と同様の方法に加えて、公立・私立、普通科、専門学科を配慮して前回と同一の10校を抽出し、各学校とも2年生1学級とする。

【特別支援学校（高等部生）】

特別支援学校（高等部）2年生とする。

【保護者】

小・中学校、高等学校とも、調査対象校の各対象児童・生徒の保護者1名とする。

【特別支援学校（高等部生）の保護者】

調査対象校の各対象高等部生の保護者1名とする。

【教員】

調査対象校の教員で、小学校はその第6学年、中・高等学校は第2学年の学級担任全員（正副担任のある場合は正担任のみ）と学年主任を対象とする。

特別支援学校（高等部）については、その保護者が対象となっている学校の教員を対象とする。

4 調査時期

平成30年10月中旬～平成31年1月中旬

5 調査方法

小・中学生、高校生、特別支援学校高等部生は担任による集合調査方法。

保護者、教員は託送および郵送による配票調査法。

6 調査票回収状況

区 分	配布数	回収数	回収率
小学生	550	520	94.5%
中学生	472	446	94.5%
高校生	355	345	97.2%
特別支援学校高等部生	33	33	100.0%
保護者	1,377	581	42.2%
(小学生)	550	40.9%	40.9%
(中学生)	472	53.2%	53.2%
(高校生)	355	29.6%	29.6%
特別支援学校保護者	189	65	34.4%
教員	259	214	82.6%
(小学生)	70	46	65.7%
(中学生)	75	74	98.7%
(高校生)	74	70	94.6%
(特別支援学校)	40	24	60.0%
合 計	3,235	2,204	68.1%

7 調査協力校

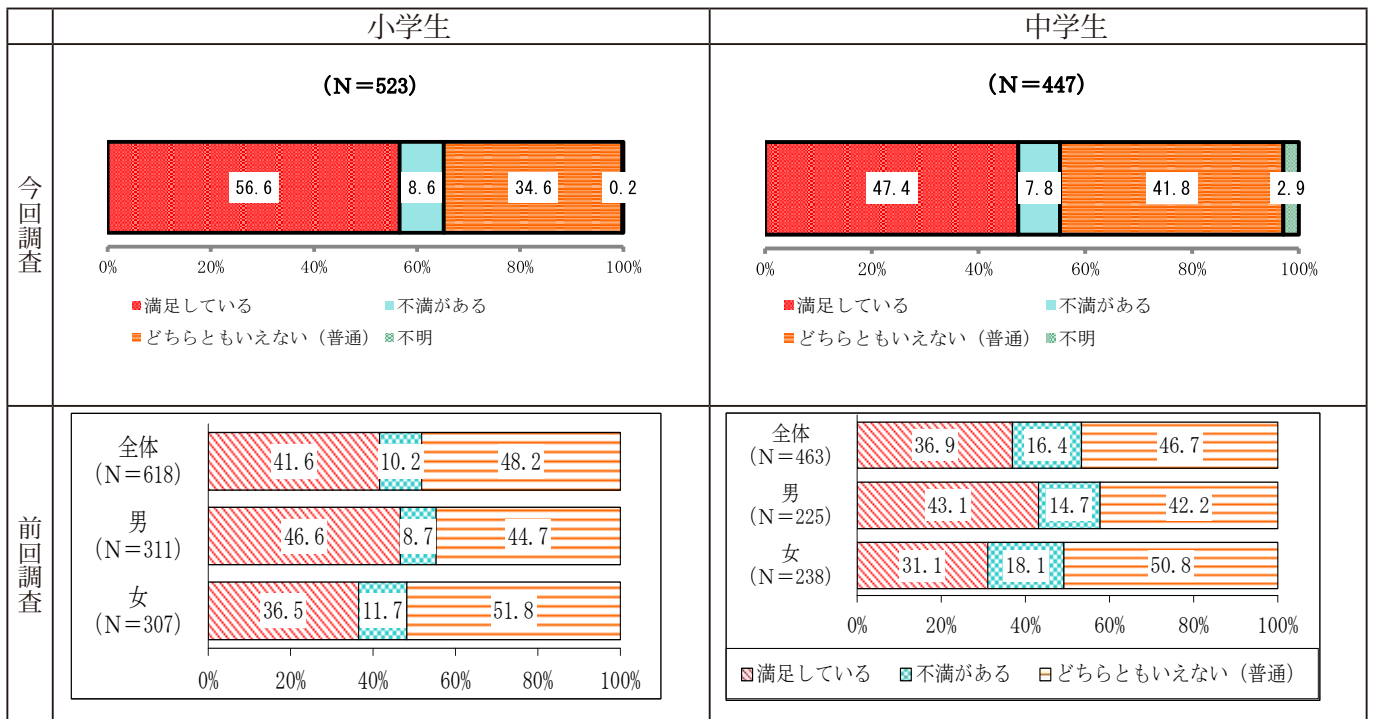
鳥取市立稲葉山小学校	鳥取市立東中学校
鳥取市立美保小学校	鳥取市立西中学校
鳥取市立明德小学校	鳥取市立湖東中学校
鳥取市立湖山小学校	鳥取市立千代南中学校
鳥取市立青谷小学校	鳥取市立青谷中学校
米子市立就将小学校	米子市立福生中学校
米子市立住吉小学校	米子市立加茂中学校
米子市立尚徳小学校	米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校
米子市立彦名小学校	倉吉市立久米中学校
倉吉市立西郷小学校	倉吉市立河北中学校
倉吉市立明倫小学校	倉吉市立鴨川中学校
境港市立外江小学校	境港市立第二中学校
境港市立境小学校	岩美町立岩美中学校
岩美町立岩美北小学校	湯梨浜町立北溟中学校
八頭町立郡家東小学校	大山町立大山中学校
八頭町立八東小学校	江府町立江府中学校
若桜町立若桜学園小学校	
智頭町立智頭小学校	鳥取県立鳥取東高等学校
湯梨浜町立羽合小学校	鳥取県立鳥取湖陵高等学校
琴浦町立聖郷小学校	鳥取県立青谷高等学校
南部町立西伯小学校	鳥取県立倉吉東高等学校
伯耆町立溝口小学校	鳥取県立倉吉総合産業高等学校
大山町立大山小学校	鳥取県立米子東高等学校
日野町立根雨小学校	鳥取県立米子南高等学校
	鳥取県立境港総合技術高等学校
鳥取県立琴の浦高等特別支援学校	私立鳥取城北高等学校
鳥取県立倉吉養護学校	私立米子松蔭高等学校
鳥取県立皆生養護学校	

小・中学生の部

《小・中学生の部》

問1 あなたは、今の学校生活に満足していますか。

1. 満足している 2. 不満がある 3. どちらともいえない（普通）



「満足している」が、小学生で56%、中学生で47%と最も多い回答となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「満足している」が小学生15ポイント上昇、中学生11ポイント上昇している。中学生は「不満がある」のポイントが半減している。

問1-1 [理由:上で1. 満足している と答えた人に、それはなぜですか。2つ以内で教えてください。]

- ア. 勉強が好きだから イ. 友だちがいるから ウ. 給食があるから
エ. 先生が好きだから オ. クラブや課外活動・部活動が好きだから
カ. その他

項目	今回調査		前回調査		小学生%	中学生%
	小学校	中学校	小学校	中学校		
	件数	%	件数	%		
全 体	297	100.0	212	100.0		
ア. 勉強が好きだから	56	18.9	16	7.5	31.1	42.7
イ. 友だちがいるから	269	90.6	191	90.1	13.1	4.0
ウ. 給食があるから	41	13.8	21	9.9	19.7	14.7
エ. 先生が好きだから	40	13.5	10	4.7	21.3	25.3
オ. クラブや課外活動・部活動が好きだから	124	41.8	128	60.4	19.7	30.7
カ. その他	19	6.4	14	6.6	6.6	14.7
不明	1	0.3	1	0.5	34.4	25.3

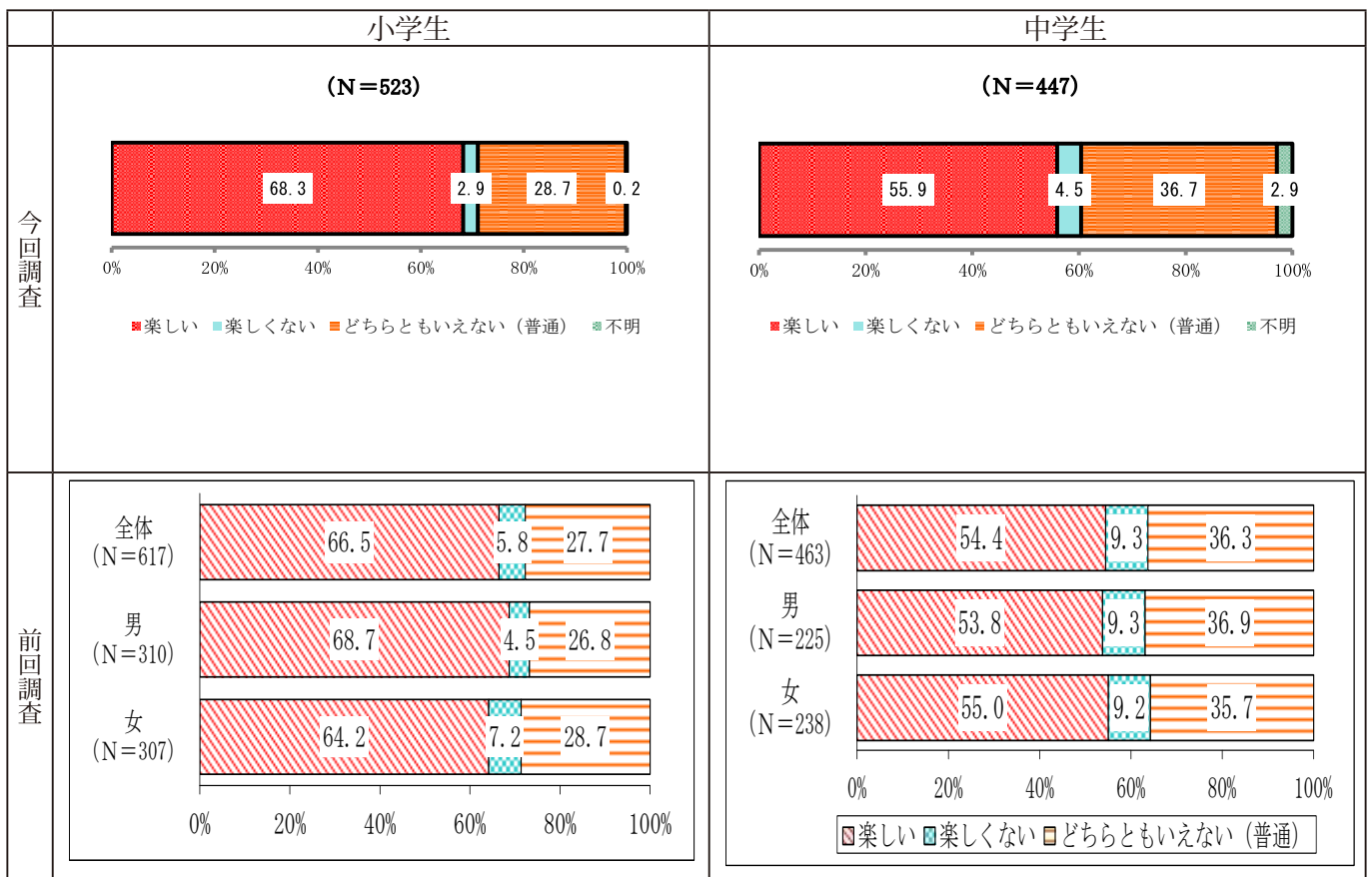
「満足している」理由としては、小・中学生ともに「友だちがいるから」が90%と最も多く、次いで、「クラブ活動や課外活動・部活動が好きだから」となっている。「勉強が好きだから」は小学生が18%に対し、中学生は7%となっている。

前回調査との比較

前回の設問は「不満がある」理由をたずねていたが、「友だちがいないから」「クラブ活動や課題活動・部活動が嫌いだから」と回答した小・中学生の割合は少ないことから、前回と比較して、大きな変化は見られない。

問2 あなたは、今の家庭生活を楽しんでいると感じていますか。

1. 楽しい 2. 楽しくない 3. どちらともいえない（普通）



小・中学生ともに「楽しい」が50%を超えているが、小学生では68%に対して中学生では55%となっており13ポイントの開きが生じている。

前回調査との比較

前回と比較して、「楽しくない」のポイントが低下し、小・中学生ともに半減している。

問2-1 [理由：上で1. 楽しい と答えた人に、それはなぜですか。2つ以内で教えてください。]

- ア. きょうだいの仲が良いから イ. 親子の仲が良いから
 ウ. おじいさん・おばあさん（祖父母）がいるから エ. 自分の居場所があるから オ. その他

今回調査					前回調査		
項目	小学校		中学校		項目	小学校 (%)	中学校 (%)
	件数	%	件数	%			
全体	358	100.0	251	100.0	ア.兄弟姉妹が仲よくないから	37.1	26.8
ア.きょうだいの仲が良いから	119	33.2	88	35.1	イ.親子が仲よくないから	14.3	4.9
イ.親子の仲が良いから	181	50.6	142	56.6	ウ.両親の仲が悪いから	20.0	17.1
ウ.おじいさん・おばあさん(祖父母)がいるから	71	19.8	24	9.6	エ.おじいさん・おばあさん(祖父母)がうるさいから	22.9	14.6
エ.自分の居場所があるから	208	58.1	151	60.2	オ.親がうるさいから	37.1	53.7
オ.その他	53	14.8	28	11.2	カ.病人がいて世話がやけるから	2.9	7.3
不明	4	1.1	2	0.8	キ.自分がかまってもらえないから	25.7	2.4
					ク.家が貧しいから	2.9	12.2
					ケ.その他	8.6	24.4

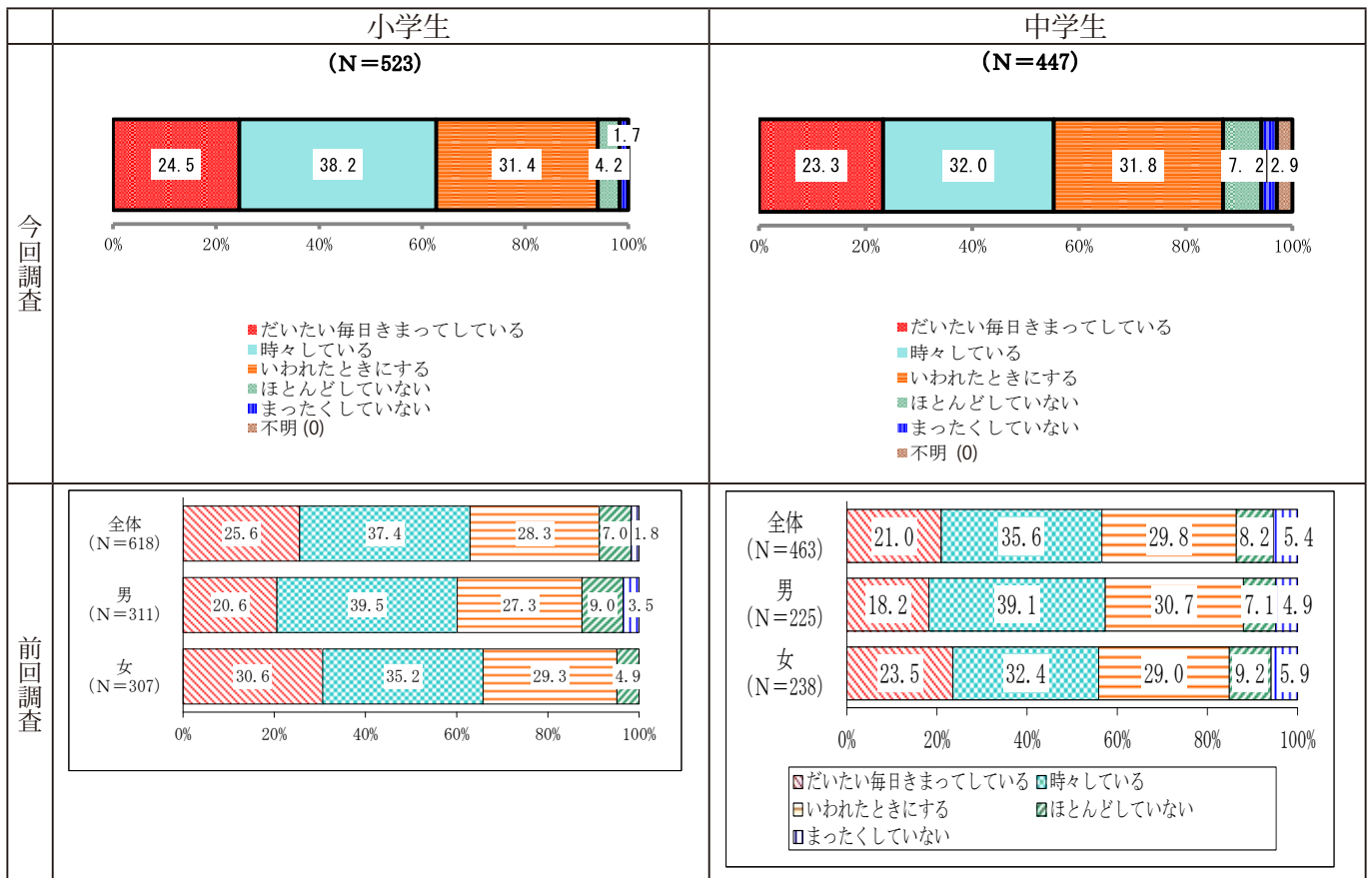
「楽しい」理由としては、小・中学生ともに「自分の居場所があるから」がトップとなっており、次いで、「親子の仲が良いから」「きょうだいの仲が良いから」となっている。

前回調査との比較

前回の設問は「楽しくない」理由をたずね、「親がうるさいから」「兄弟姉妹が仲よくないから」と回答した小・中学生の割合が多かったことから、前回と比較して、良好な家族関係の傾向がうかがえる。

問3 あなたは、家族の一員として何か家の仕事を分担して、お手伝いしていますか。

1. だいたい毎日きまってしている
2. 時々している
3. いわれたときにする
4. ほとんどしていない
5. まったくしていない



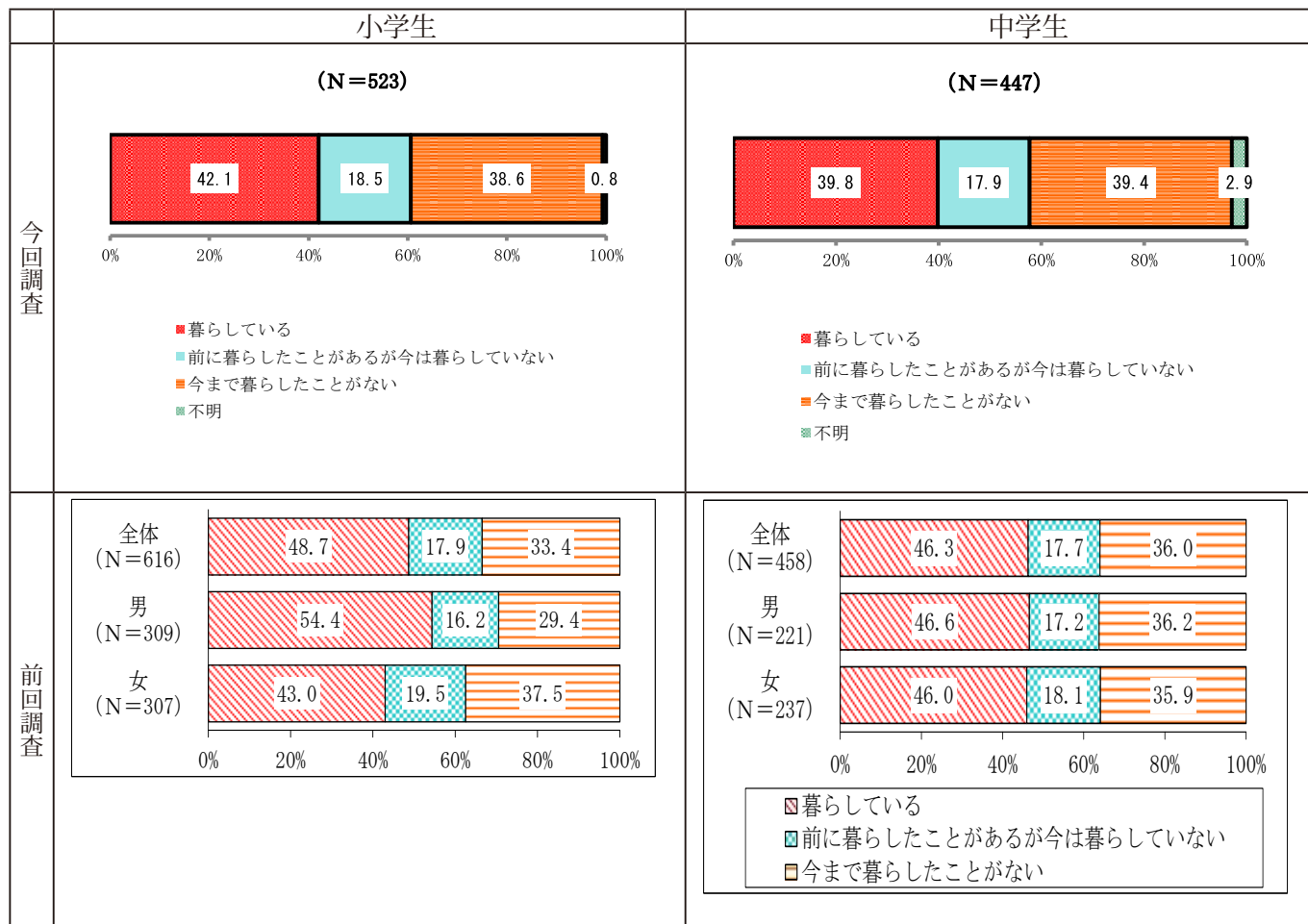
小・中学生ともに「時々している」が30%台と最も多く、「いわれたときにする」を加えると60%台を超えている。小・中学生ともに「だいたい毎日きまってしている」は20%台となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、小・中学生ともに全体的に大きな変化は見られない。

問4 あなたは、おじいさんやおばあさん（祖父母）といっしょに暮らしていますか。

1. 暮らしている
2. 前に暮らしたことがあるが今は暮らしていない
3. 今まで暮らしたことがない



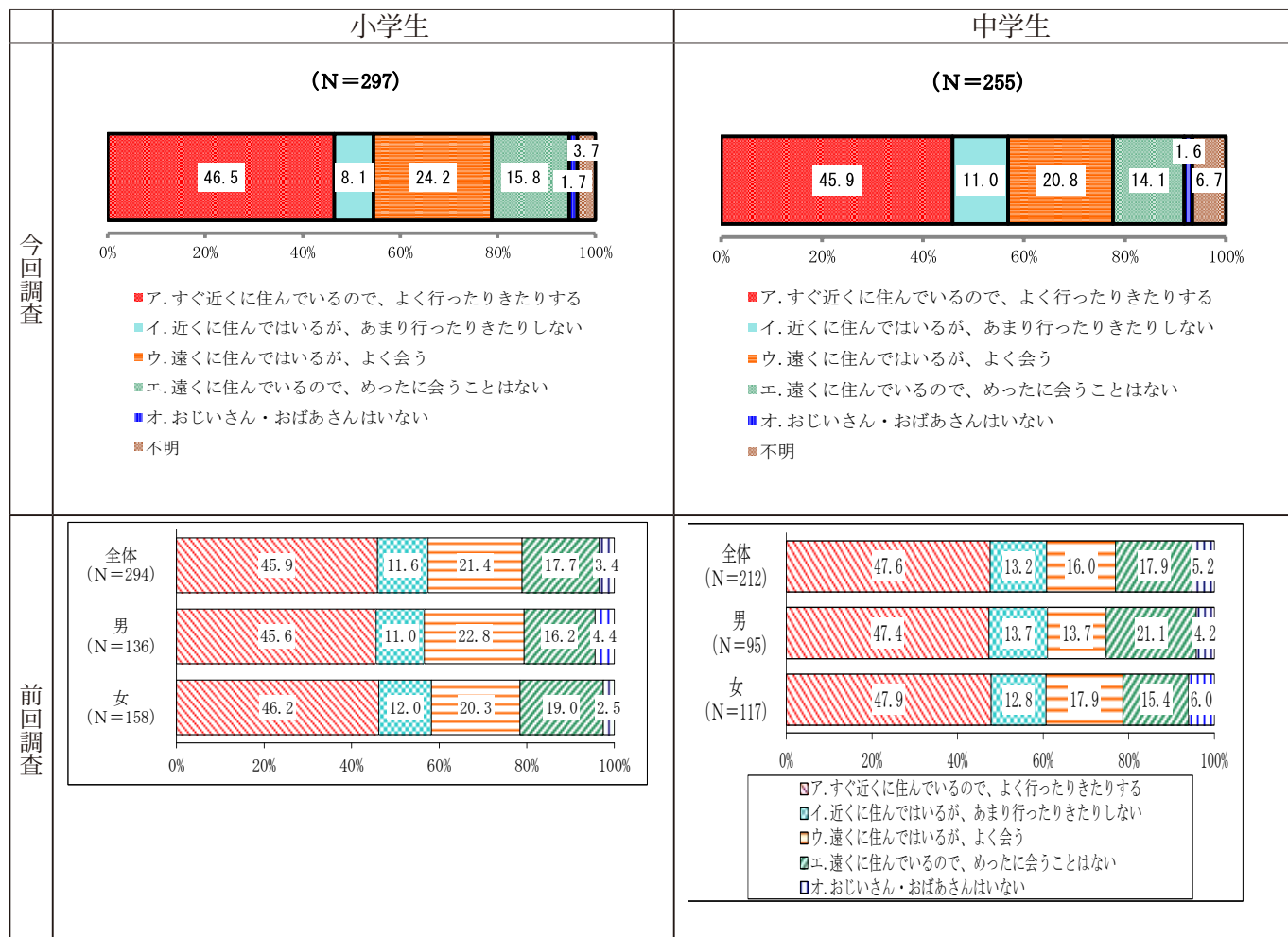
「暮らしている」が小学生42%、中学生39%と最も多い。次いで、小・中学生ともに「今まで暮らしたことがない」が30%強となっている。中学生は「暮らしている」と「今まで暮らしたことがない」が30%強と拮抗している。

前回調査との比較

前回と比較して、小・中学生ともに「暮らしている」「前に暮らしたことがあるが今は暮らしていない」のポイントが低下し、「今まで暮らしたことがない」のポイントが上昇している。

問4-1 [質問：上で2. 前に暮らしたことがあるが今は暮らしていない 3. 今まで暮らしたことがない と答えた人は、次に答えてください。]

- ア. すぐ近くに住んでいるので、よく行ったりきたりする
- イ. 近くに住んではいるが、あまり行ったりきたりしない
- ウ. 遠くに住んではいるが、よく会う
- エ. 遠くに住んでいるので、めったに会うことはない
- オ. おじいさん・おばあさんはいない
- カ. 不明



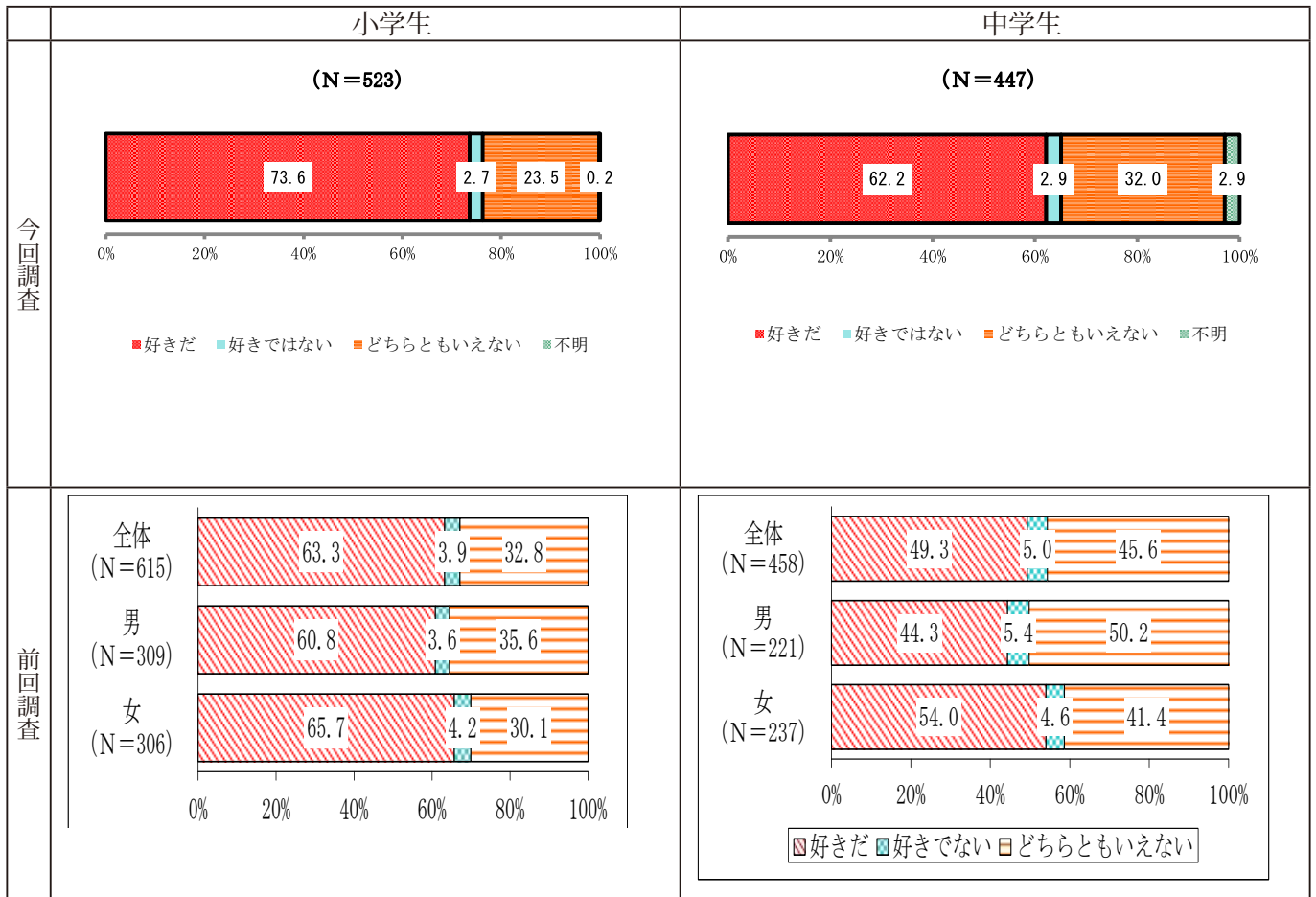
「すぐ近くに住んでいるので、よく行ったりきたりする」と「遠くに住んではいるが、よく会う」を合わせると、小・中学生ともに60%以上が、同居していなくても日ごろから祖父母と接する機会を持っている。

前回調査との比較

前回と比較して、「近くに住んではいるが、あまり行ったりきたりしない」「遠くに住んでいるので、めったに会うことはない」が、小・中学生ともに低下している。

問5 あなたは、おじいさんやおばあさん（祖父母）と話したり、いっしょに何かすることについて、どう思いますか。

1. 好きだ 2. 好きではない 3. どちらともいえない



小学生で73%、中学生で62%が「好きだ」と回答している。次いで、「どちらともいえない」が小学生で23%、中学生で32%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「好きだ」が小学生では10ポイント上昇、中学生で13ポイント上昇している。「好きではない」「どちらともいえない」は低下している。

問5-1 [理由：上で1. 好きだ と答えた人に、それはなぜですか。2つ以内で教えてください。]

- ア. いろいろとやさしく自分のことを世話してくれたり、教えてくれるから
- イ. 昔のおもしろい話を聞かせてくれるから
- エ. お父さんやお母さんの親だから
- カ. いっしょにいとなんとなく楽しいから
- ウ. おこづかいやプレゼントをくれるから
- オ. 長い間、家や世の中のために働いてきたのだから
- キ. その他

今回調査					前回調査		
項目	小学校		中学校		項目	小学校 (%)	中学校 (%)
	件数	%	件数	%			
全体	385	100.0	278	100.0	ア. いろいろとやさしく自分のことを世話してくれたり、教えてくれるから	74.7	64.0
ア. いろいろとやさしく自分のことを世話してくれたり、教えてくれるから	284	73.8	187	67.3	イ. 昔のおもしろい話を聞かせてくれるから	16.8	16.7
イ. 昔のおもしろい話を聞かせてくれるから	50	13.0	51	18.3	ウ. おこづかいやプレゼントをくれるから	26.7	24.8
ウ. おこづかいやプレゼントをくれるから	129	33.5	78	28.1	エ. お父さんやお母さんの親だから	2.7	5.4
エ. お父さんやお母さんの親だから	24	6.2	13	4.7	オ. 長い間、家や世の中のために働いてきたのだから	9.9	6.3
オ. 長い間、家や世の中のために働いてきたのだから	18	4.7	13	4.7	カ. いっしょにいるとなんとなく楽しいから	47.2	53.6
カ. いっしょにいるとなんとなく楽しいから	183	47.5	137	49.3	キ. その他	5.3	3.6
キ. その他	25	6.5	17	6.1			
不明	0	0.0	2	0.7			

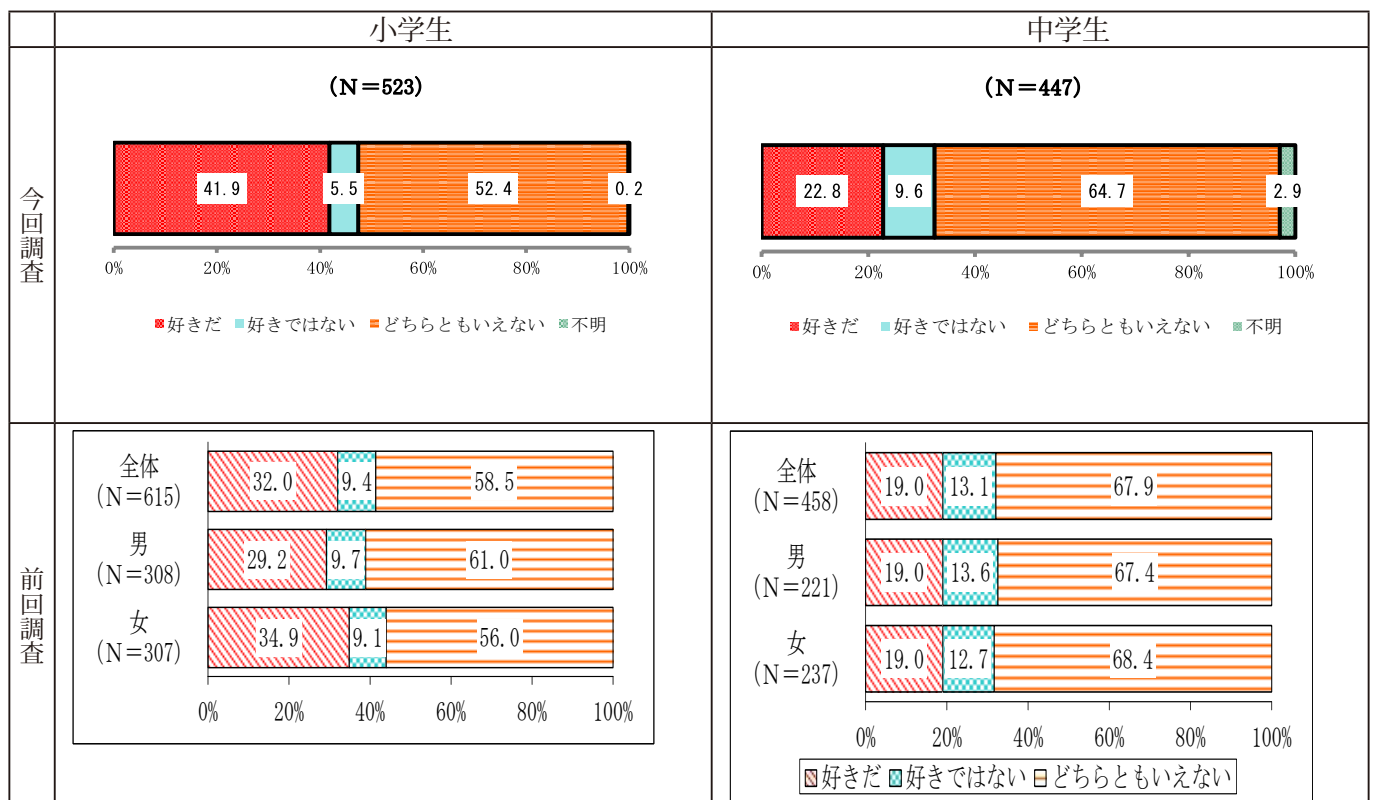
小・中学生ともに「いろいろとやさしく自分のことを世話してくれたり、教えてくれるから」が60%を超えて最も多く、次いで、「一緒にいるとなんとなく楽しいから」「おこづかいやプレゼントをくれるから」「昔のおもしろい話を聞かせてくれるから」の順となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、ほぼ同様の傾向である。

問6 あなたは、近所や地域の高齢者と話したり、いっしょに何かすることについてどう思いますか。

1. 好きだ 2. 好きではない 3. どちらともいえない



小・中学生ともに「どちらともいえない」が最も多く、小学生で52%、中学生で64%となっている。また、小・中学生とも「好きではない」が10%未満となっている。

前回調査との比較

小・中学生ともに「好きだ」が上昇し、「好きではない」が低下している。

問6-1 [理由：上で1. 好きだと答えた人に、それはなぜですか。2つ以内で教えてください。]

- ア. 昔のおもしろい話を聞かせてくれるから
- イ. 親切にしてくれるから
- ウ. 長い間、世の中のために働いてきた人だから
- エ. いっしょにいるとなんとなく楽しいから
- オ. その他

今回調査					前回調査		
項目	小学校		中学校		項目	小学校 (%)	中学校 (%)
	件数	%	件数	%			
全体	219	100.0	102	100.0	ア. 昔のおもしろい話を聞かせてくれるから	31.2	27.1
ア. 昔のおもしろい話を聞かせてくれるから	72	32.9	34	33.3	イ. 親切にしてくれるから	83.9	82.4
イ. 親切にしてくれるから	191	87.2	83	81.4	ウ. 長い間、世の中のために働いてきた人だから	5.9	3.5
ウ. 長い間、世の中のために働いてきた人だから	18	8.2	7	6.9	エ. いっしょにいるとなんとなく楽しいから	33.9	35.3
エ. いっしょにいるとなんとなく楽しいから	78	35.6	41	40.2	オ. その他	7.0	5.9
オ. その他	15	6.8	4	3.9	不明		
不明	3	1.4	1	1.0			

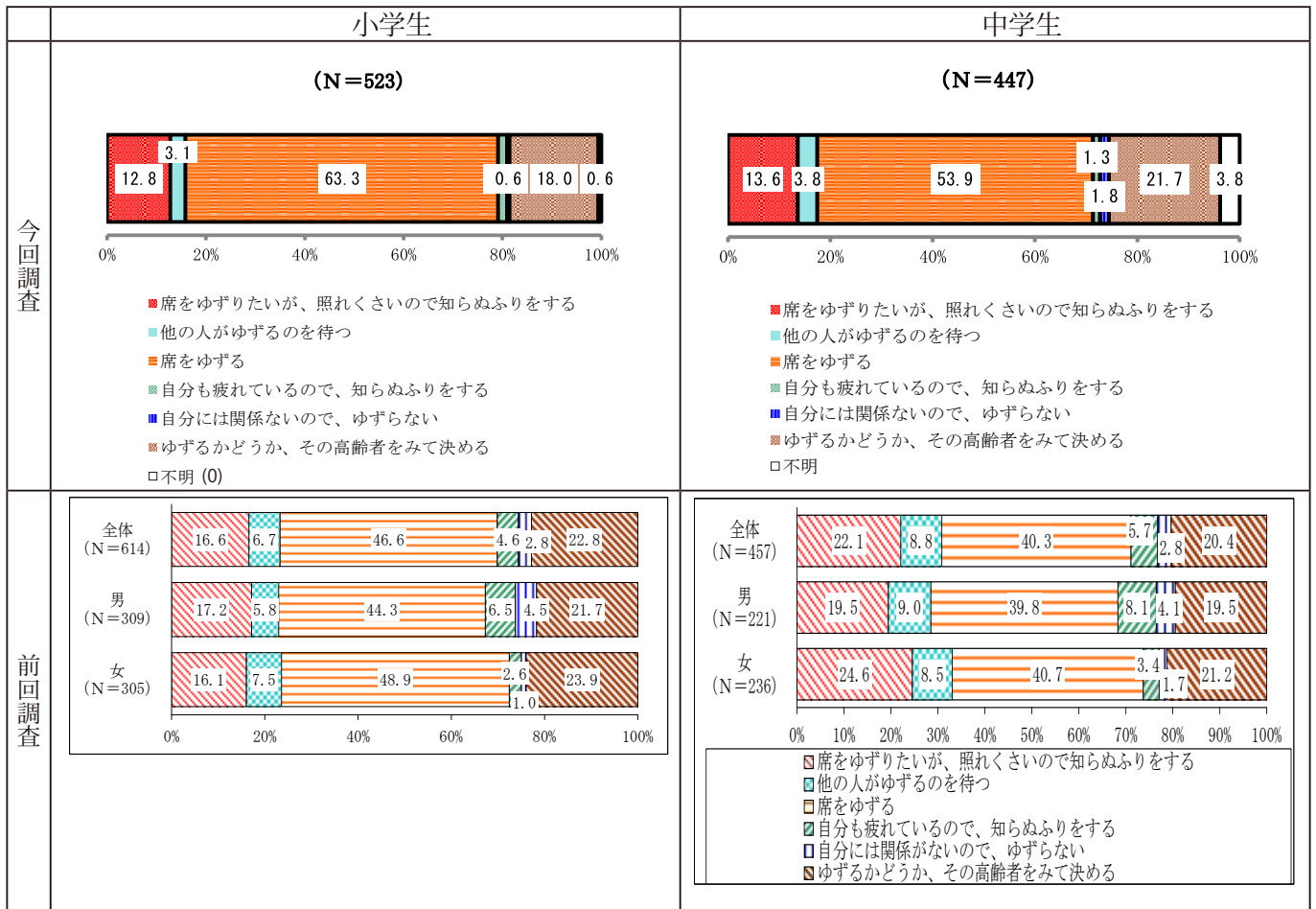
小・中学生ともに「親切にしてくれるから」が80%を超えて最も多く、次いで、「いっしょにいるとなんとなく楽しいから」「昔のおもしろい話を聞かせてくれるから」の順となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、ほぼ同様の傾向である。

問7 あなたが、満席のバスや列車に乗っているとします。その時、高齢者が乗ってきました。あなたはちょっと体が疲れていました。そんな時あなたならどんな行動をしますか。

- 1. 席をゆずりたいが、照れくさいので知らぬふりをする
- 2. 他の人がゆずるのを待つ
- 3. 席をゆずる
- 4. 自分も疲れているので、知らぬふりをする
- 5. 自分には関係ないので、ゆずらない
- 6. ゆずるかどうかわからない、その高齢者をみて決める



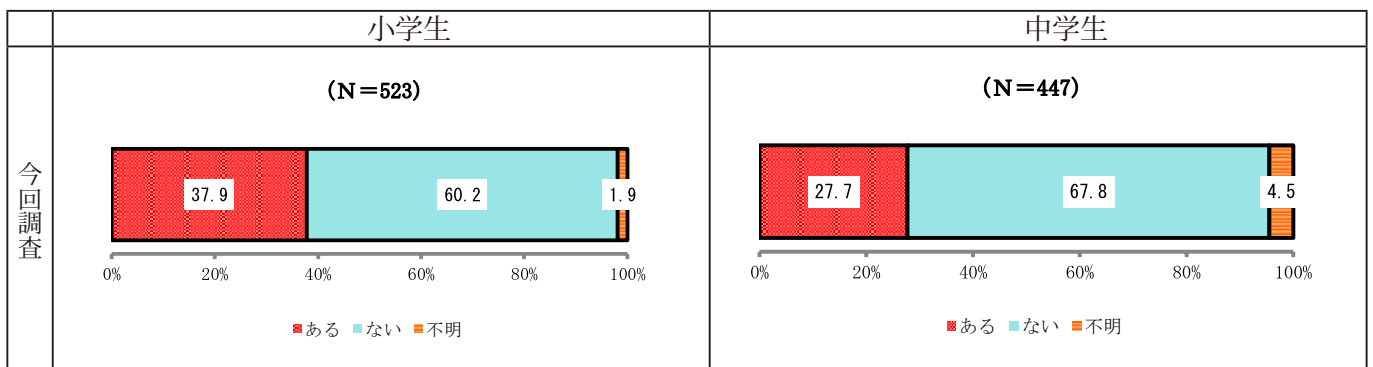
小学生で63%、中学生で53%が「席をゆずる」と回答している。次いで、小・中学生ともに「ゆずるかどうか、その高齢者をみて決める」となっている。

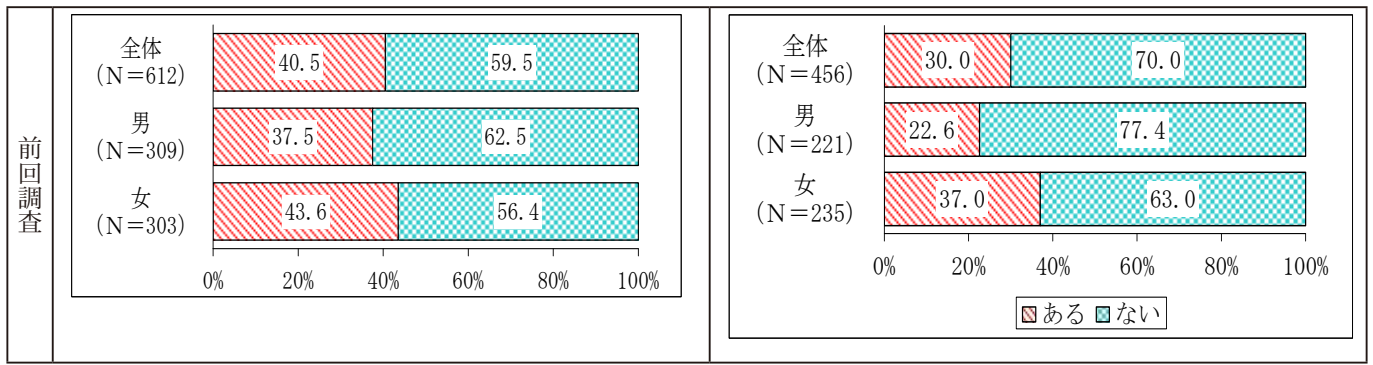
前回調査との比較

前回と比較して、全体的に大きな変化は見らないが、小学生では「席をゆずりたいが、照れくさいので知らぬふりをする」「ゆずるかどうか、その高齢者をみて決める」が低下している。また、中学生では、「席をゆずりたいが、照れくさいので知らぬふりをする」が低下し、「ゆずるかどうか、その高齢者をみて決める」が上昇している。

問8 これまで高齢者（自分の祖父母、近所の高齢者、見知らぬ高齢者）のだれでもいいですから「あなたがしたこと」で、すごくうれしかったことや心に残っていることがありますか。

1. ある 2. ない





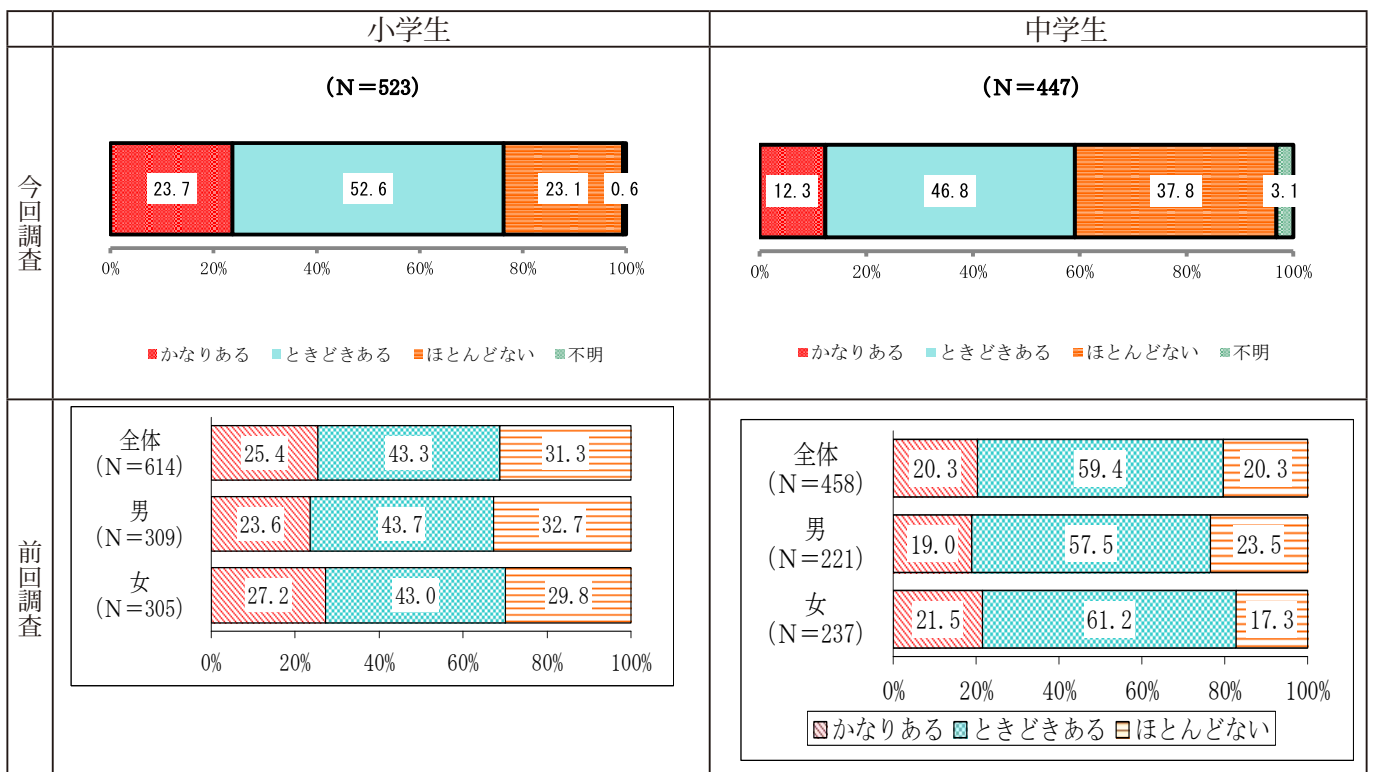
小・中学生ともに「ない」の割合が高いが、小学生で37%、中学生で27%が「ある」と回答している。

前回調査との比較

小・中学生ともに「ある」が低下している。

問9 あなたは、今までに学校や地域で障がいのある人と交流したことがありますか。

1. かなりある 2. ときどきある 3. ほとんどない



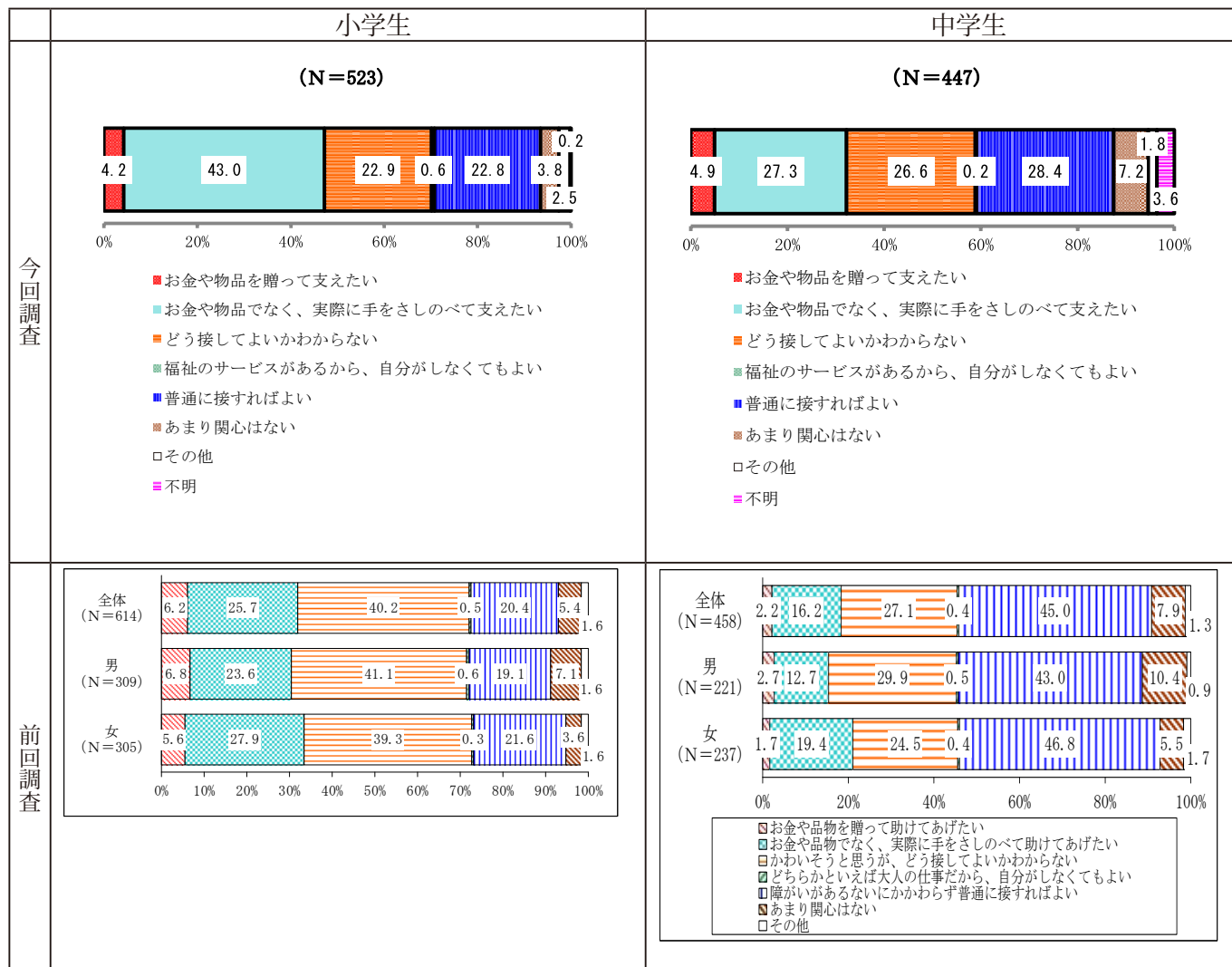
小学生、中学生ともに「ときどきある」が最も多く、小学生で52%、中学生46%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、小学生、中学生ともに「かなりある」が低下している。

問10 あなたは、障がいのある人に対してどう接したいと思いますか。

1. お金や物品を贈って支えたい
2. お金や物品でなく、実際に手をさしのべて支えたい
3. どう接してよいかわからない
4. 福祉のサービスがあるから、自分がしなくてもよい
5. 普通に接すればよい
6. あまり関心はない
7. その他



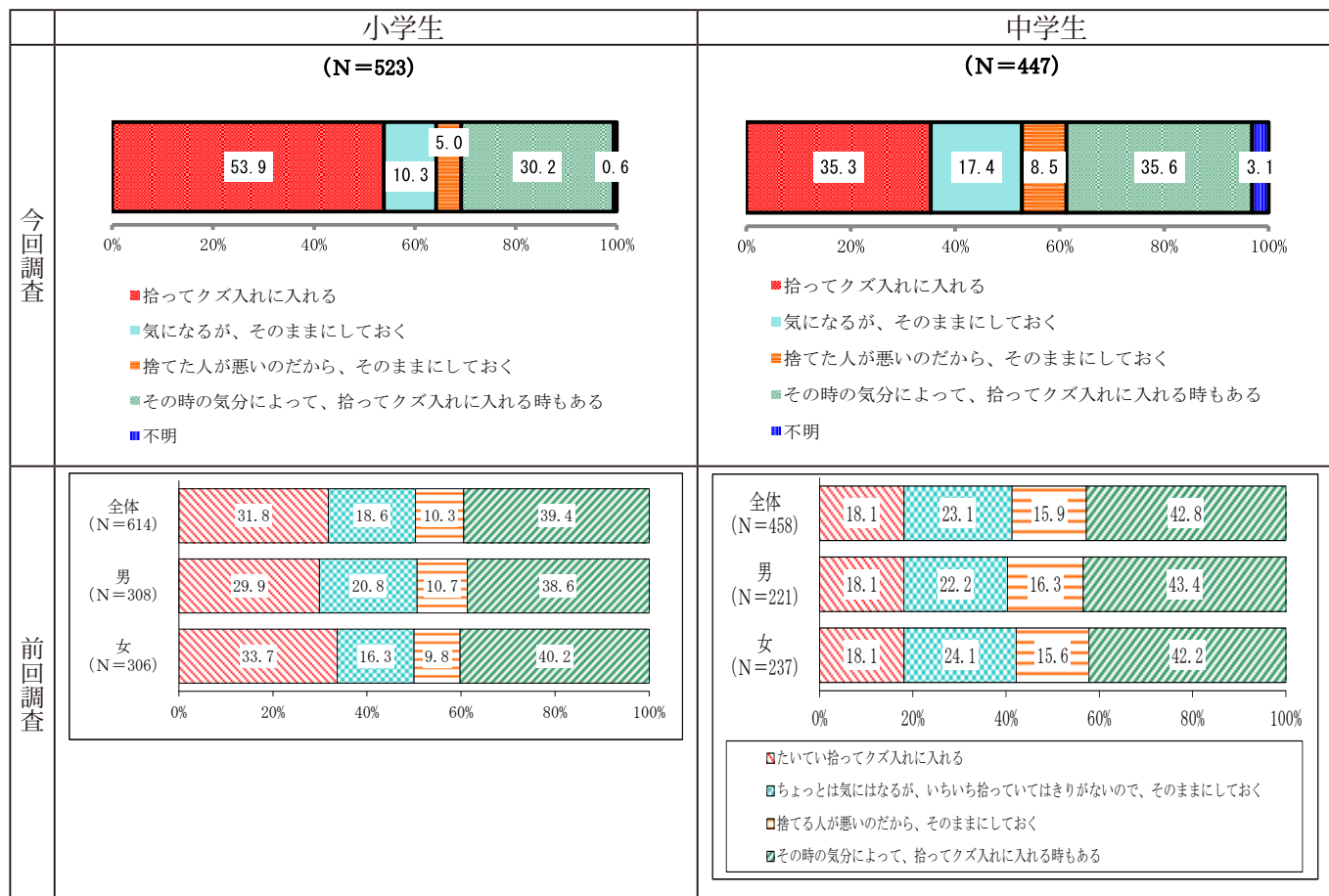
小学生では「お金や物品でなく、実際に手をさしのべて支えたい」が43%と最も多く、次いで、「どう接してよいかわからない」「普通に接すればよい」が22%となっている。中学生では「普通に接すればよい」が28%、「お金や物品でなく、実際に手をさしのべて支えたい」が27%、「どう接してよいかわからない」が26%と拮抗している。

前回調査との比較

前回と比較して、小学生では「お金や物品でなく、実際に手をさしのべて支えたい」が18ポイント上昇し、「どう接してよいかわからない」のポイントが半減している。中学生では「お金や物品でなく、実際に手をさしのべて支えたい」が11ポイント上昇し、「普通に接すればよい」が17ポイント低下している。

問 1 1 公園に行った時に、紙くずが落ちていました。その時、あなたならどうしますか。

1. 拾ってクズ入れに入れる
2. 気になるが、そのままにしておく
3. 捨てた人が悪いのだから、そのままにしておく
4. その時の気分によって、拾ってクズ入れに入れる時もある



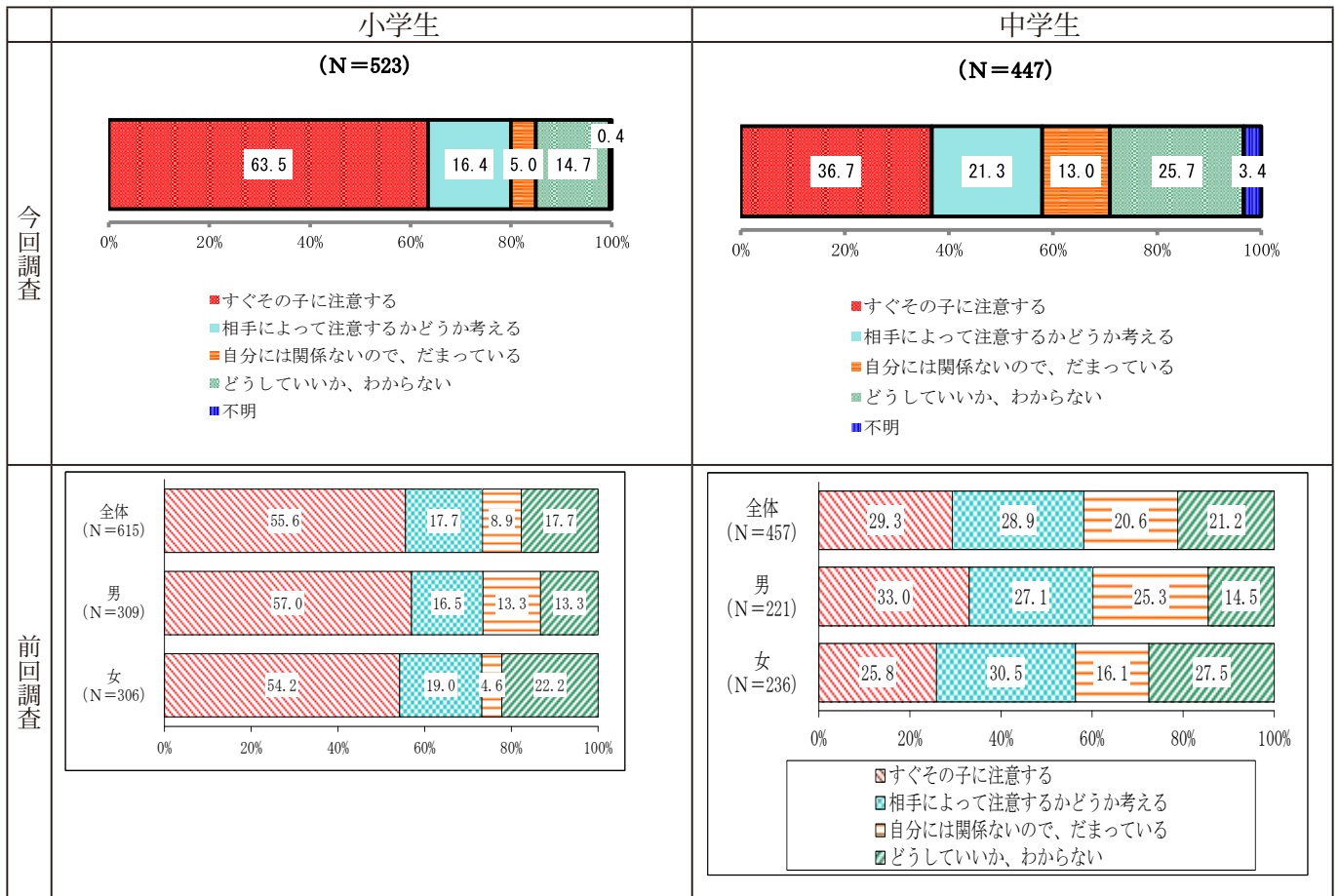
小学生では「拾ってクズ入れに入れる」が53%と最も多く、次いで、「その時の気分によって拾ってクズ入れに入れる時もある」が30%となっている。中学生では「拾ってクズ入れに入れる」「その時の気分によって拾ってクズ入れに入れる時もある」が35%と二分している。

前回調査との比較

前回と比較して、小・中学生ともに「拾ってクズ入れに入れる」が上昇している。また、「捨てた人が悪いのだから、そのままにしておく」が低下し10%未満となっている。

問 1 2 あなたは、公園の花だんに植えてある花を近所の子どもが勝手にとっているのを見かけました。そんな時、あなたならどうしますか。

1. すぐその子に注意する
2. 相手によって注意するかどうか考える
3. 自分には関係ないので、だましている
4. どうしていいか、わからない



小学生では「すぐその子に注意する」が63%存在するのに対し、中学生では36%となっている。また、「自分には関係ないので、だまっている」が小学生は5%なのに対し、中学生では13%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、小・中学生ともに全体的に大きな変化は見られないが、中学生では、「すぐその子に注意する」が7ポイント上昇し、「自分には関係ないので、だまっている」が7ポイント低下している。

問13 もし、あなたの友だちがコンビニエンスストアで、商品をだまってとってしまったのを見たら、あなたならどうしますか。

1. すぐその子に注意する
2. すぐ店の人に言う
3. 家に帰って家の人に言う
4. 学校の先生に言う
5. どうしたらよいか、友だちと相談する
6. だれにも言わないでだまっておく
7. 自分がしたことではないので何もしない
8. どうしていいか、わからない

項目	小学校		中学校	
	件数	%	件数	%
全体	523	100.0	447	100.0
1. すぐその子に注意する	291	55.6	195	43.6
2. すぐ店の人に言う	106	20.3	87	19.5
3. 家に帰って家の人に言う	24	4.6	30	6.7
4. 学校の先生に言う	31	5.9	8	1.8
5. どうしたらよいか、友達と相談する	39	7.5	43	9.6
6. だれにも言わないでだまっておく	8	1.5	9	2.0
7. 自分がしたことではないので何もしない	1	0.2	21	4.7
8. どうしていいか、わからない	22	4.2	40	8.9
不明	1	0.2	14	3.1

項目	小学生		中学生	
	件数	%	件数	%
全体 (N=612)	278	45.4	182	40.9
男 (N=306)	145	47.1	105	34.3
女 (N=306)	133	43.8	77	25.2

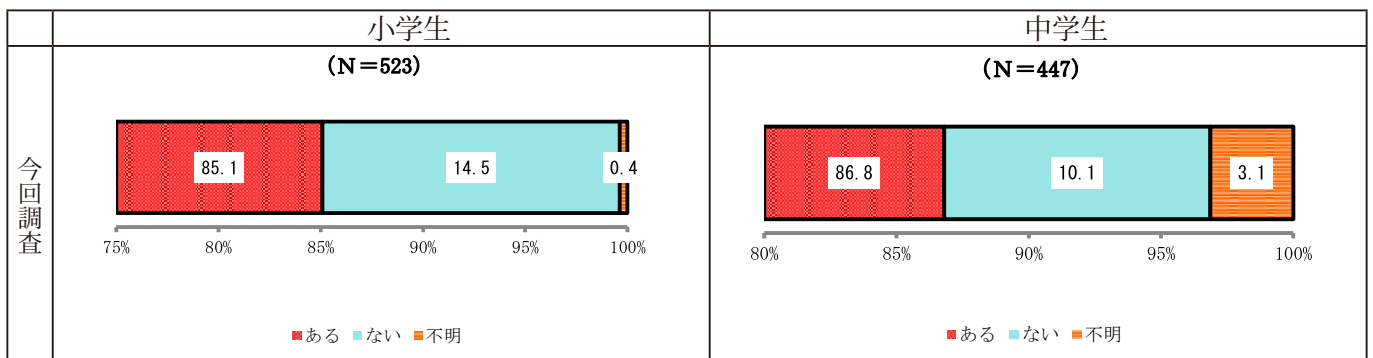
「すぐその子に注意する」が、小学生で55%、中学生で43%であった。また、「自分がしたことではないので何もしない」は小学生が1%未満なのに対し、中学生では4%となっている。

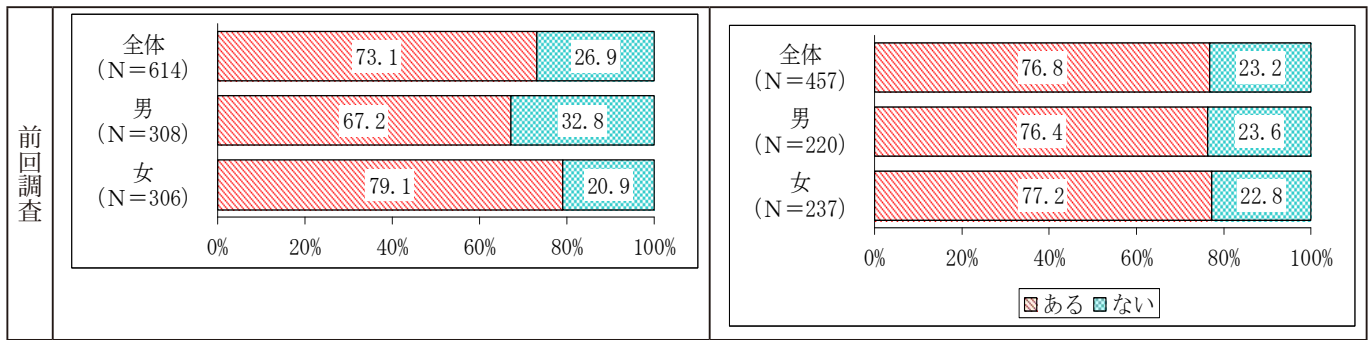
前回調査との比較

前回と比較して、「すぐその子に注意する」が上昇し、「どうしたらよいか、友達と相談する」が低下している。

問14 あなたは、「福祉」という言葉について聞いたことがありますか。

1. ある 2. ない





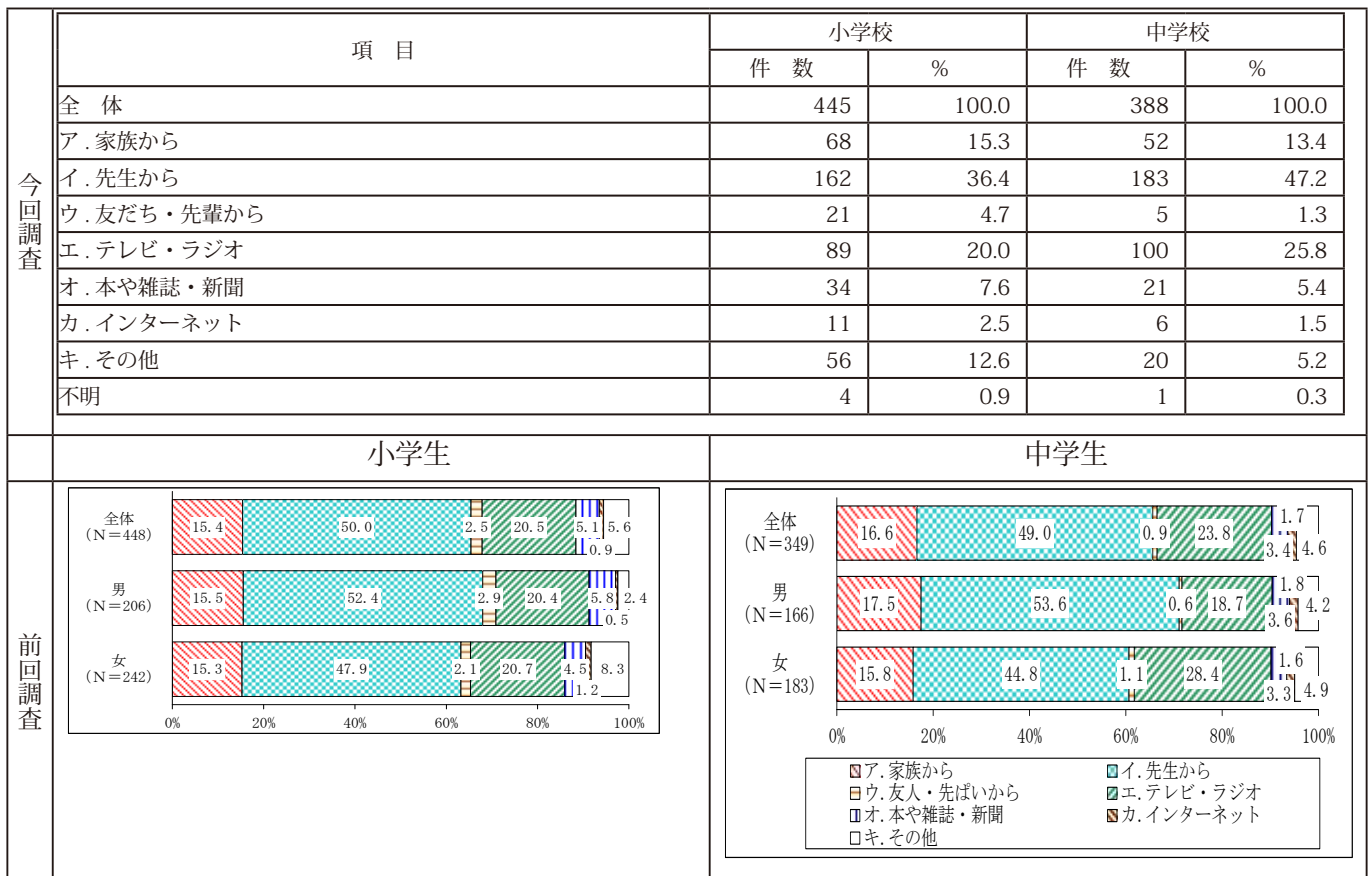
小・中学生ともに「ある」が85%以上となっている。

前回調査との比較

今回は「福祉」という言葉についての質問に変更しているが、前回と比較して、小・中学生ともに「ある」が10ポイント以上上昇している。

問14-1 [質問：上で1. ある と答えた人に、それはおもにだれから（どこから）聞きましたか。]

- ア. 家族から
- イ. 先生から
- ウ. 友だち・先輩から
- エ. テレビ・ラジオ
- オ. 本や雑誌・新聞
- カ. インターネット
- キ. その他



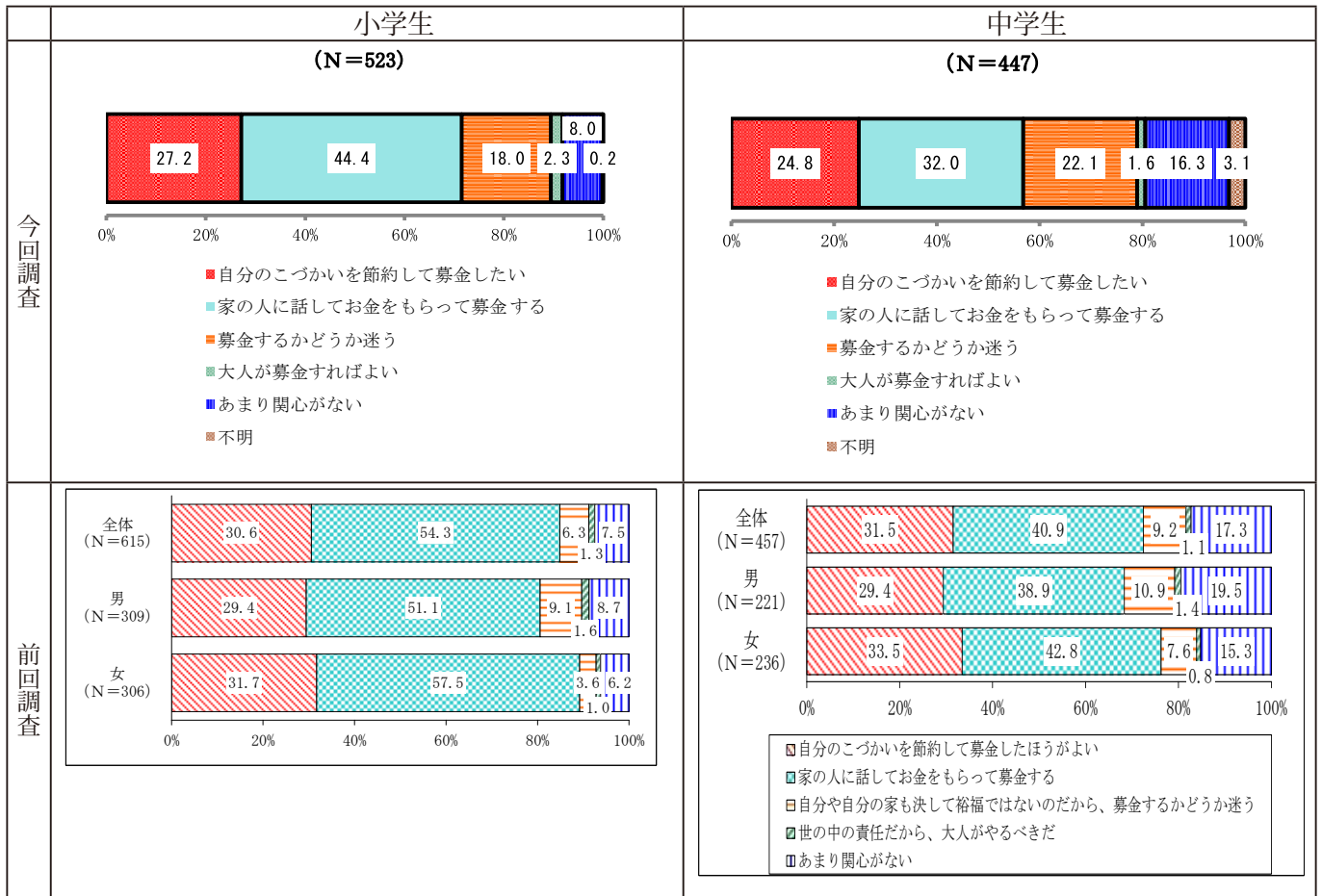
小・中学生ともに「先生から」が最も多く、次いで、「テレビ・ラジオ」「家族から」の順となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、全体の割合に大きな変化はないが、小学生は「先生から」が13ポイント低下し、「その他」が7ポイント上昇し12%となっている。「その他」として「学校（委員会）」「学校の授業」などが挙げられる。また、中学生は、ほぼ同様の傾向である。

問15 あなたは、「赤い羽根共同募金」「緑の募金」などの募金活動についてどう思いますか。

1. 自分のこづかいを節約して募金したい
2. 家の人に話してお金をもらって募金する
3. 募金するかどうか迷う
4. 大人が募金すればよい
5. あまり関心がない



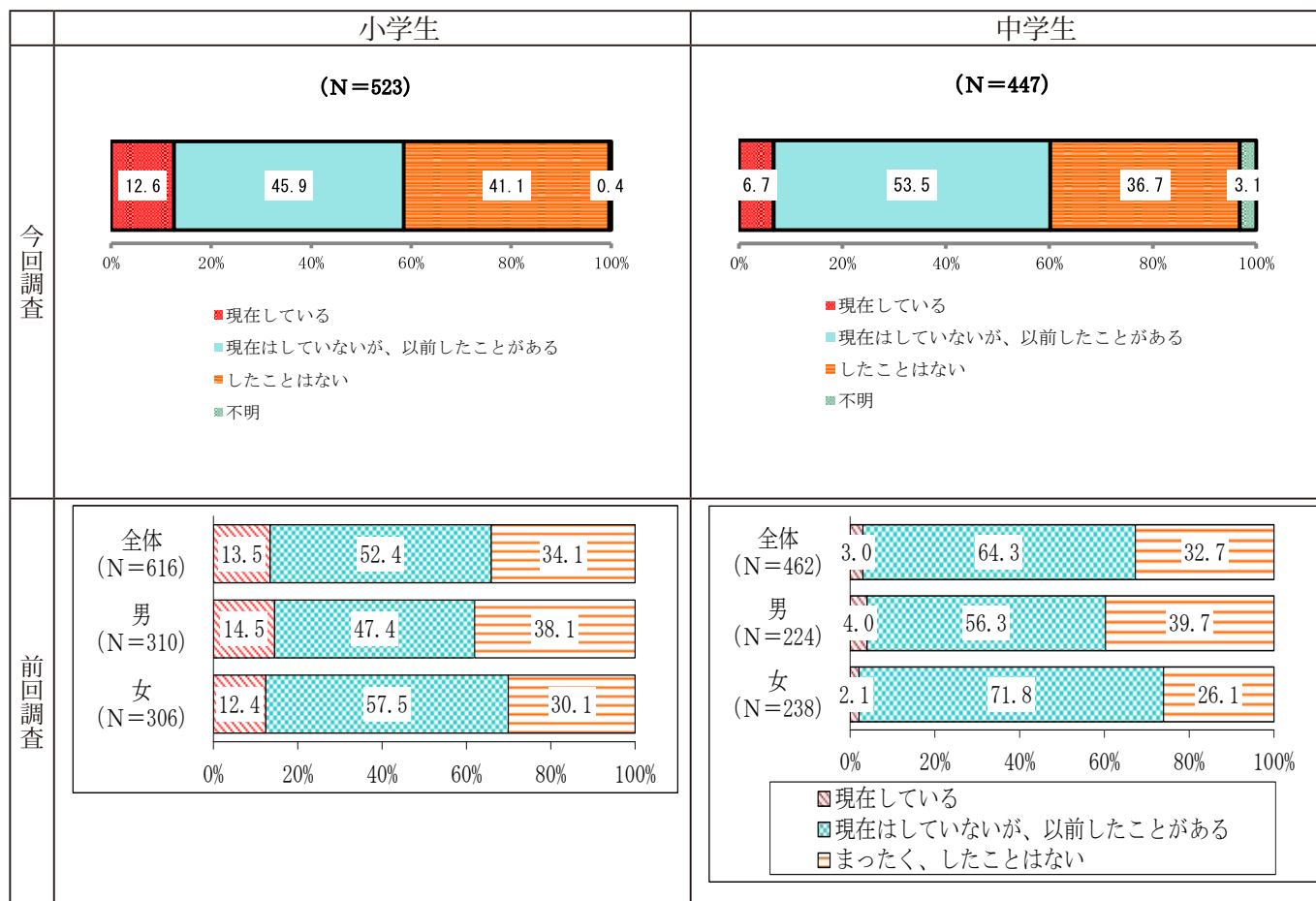
「家の人に話してお金をもらって募金する」が小学生で44%、中学生で32%となっている。一方で、「あまり関心がない」は中学生は16%であり、その割合は小学生の2倍となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、小・中学生ともに「自分のこづかいを節約して募金したい」が低下し、「募金するかどうか迷う」が上昇している。

問16 あなたは、「ボランティア活動」をしたことがありますか。

1. 現在している
2. 現在はしていないが、以前したことがある
3. したことはない



小学生、中学生ともに「現在している」「現在はしていないが、以前したことがある」を合わせて60%前後となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、中学生は「現在している」のポイントが2倍となっている。一方で、「したことはない」が小学生、中学生ともに上昇している。

問16-1 [質問：上で1. 現在している 2. 現在はしていないが、以前したことがある と答えた人に、それはどんな活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。]

- ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）
- イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動
- ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動
- エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動
- オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動
- カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動
- キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動
- ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動
- ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動
- コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動
- サ. その他

今回調査					前回調査		
項目	小学校		中学校		項目	小学生 (%)	中学生 (%)
	件数	%	件数	%			
全 体	306	100.0	270	100.0	ア. 社会福祉施設や病院での活動 (美化、話し相手、介助、訪問、学 習、交流など)	37.9	41.1
ア. 社会福祉施設や病院での活動 (美化、話し相手、介助、訪問、学 習、交流など)	81	26.5	63	23.3	イ. 高齢者や障がい児(者)・病人 のいる家庭での支援・訪問活動	10.5	8.6
イ. 高齢者や障がい児(者)・病人 のいる家庭での支援・訪問活動	15	4.9	24	8.9	ウ. 手話・点訳・朗読などの専門 技術を通して、障がい児(者)と の支援・交流活動	7.4	9.5
ウ. 手話・点訳・朗読などの専門 技術を通して、障がい児(者)と の支援・交流活動	27	8.8	26	9.6	エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、 地域の防犯活動や町内会活動など、 地域づくりの活動	38.2	40.5
エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、 地域の防犯活動や町内会活動など、 地域づくりの活動	127	41.5	120	44.4	オ. 自然や環境の保全、美化・清 掃などの活動	39.7	52.0
オ. 自然や環境の保全、美化・清 掃などの活動	158	51.6	162	60.0	カ. 趣味やレクリエーション・ス ポーツ等の技術を生かした指導 や援助の活動	5.6	9.9
カ. 趣味やレクリエーション・ス ポーツ等の技術を生かした指導 や援助の活動	13	4.2	26	9.6	キ. チャリティバザー等の福祉財 源づくりや募金などへの協力活動	25.4	21.1
キ. チャリティバザーや募金など への協力活動	100	32.7	81	30.0	ク. 古切手、ベルマーク、ロータ スクーポン、アルミ缶などの収集 活動	46.9	40.8
ク. 古切手、ベルマーク、アルミ 缶などの収集活動	107	35.0	72	26.7	ケ. 国際交流・協力、地域で暮ら す外国人との交流、外国への援助 の活動	12.3	10.2
ケ. 国際交流・協力、地域で暮ら す外国人との交流、外国への援助 の活動	19	6.2	21	7.8	コ. 地震や自然災害による被害の 復興や災害援助の活動	5.4	4.6
コ. 地震や自然災害による被害の 復興や災害援助の活動	29	9.5	25	9.3	サ. その他	11.3	6.9
サ. その他	11	3.6	10	3.7			
不明	10	3.3	2	0.7			

小・中学生ともに「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」が50%以上で最も多く、次いで、「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内活動など、地域づくりの活動」が40%以上となっている。また、「社会福祉施設や病院での活動」は小・中学生ともに30%未満となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、小・中学生ともに「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内活動など、地域づくりの活動」「チャリティバザーや募金などへの協力活動」が上昇している。10%未満の回答の中でも「地震や自然災害による被害の復興や災害援助の活動」のポイントは上昇している。また、「収集活動」「施設や病院の活動」「国際交流、外国人との交流」は、小・中学生ともに低下している。

問17 あなたが、次のことばの中で、知っているものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|----------------------|-----------------|--------------|
| 1. 点字 | 2. 手話 | 3. 特別支援学校（養護学校） | 4. 保育所 |
| 5. 児童養護施設 | 6. 特別養護老人ホーム | 7. 母子生活支援施設 | 8. 障がい者支援施設 |
| 9. 児童相談所 | 10. 福祉事務所 | 11. 社会福祉協議会 | 12. 国民年金 |
| 13. 健康保険 | 14. 生活保護 | 15. 介護保険 | 16. あいサポート運動 |
| 17. インクルージョン | 18. ノーマライゼーション | 19. バリアフリー | |
| 20. UD（ユニバーサルデザイン） | | 21. リハビリテーション | |
| 22. 民生委員・児童委員 | | 23. 老人クラブ | |
| 24. ホームヘルパー（訪問介護員） | | 25. デイサービスセンター | |
| 26. 介護福祉士 | 27. ソーシャルワーカー（社会福祉士） | | 28. ケースワーカー |
| 29. 子どもの権利条約 | 30. 児童憲章 | | |

今回調査					前回調査		
項目	小学校		中学校		項目	小学生 (%)	中学生 (%)
	件数	%	件数	%			
全 体	523	100.0	447	100.0	1. 点字	94.1	97.0
1. 点字	464	88.7	367	82.1	2. 手話	98.4	98.7
2. 手話	514	98.3	427	95.5	3. 特別支援学校（養護学校）	79.0	92.4
3. 特別支援学校（養護学校）	415	79.3	395	88.4	4. 保育所	93.2	93.9
4. 保育所	479	91.6	395	88.4	5. 児童養護施設	54.2	64.3
5. 児童養護施設	348	66.5	327	73.2	6. 特別養護老人ホーム	61.2	64.3
6. 特別養護老人ホーム	251	48.0	236	52.8	7. 授産施設	22.3	18.2
7. 母子生活支援施設	120	22.9	111	24.8	8. 母子生活支援施設（母子寮）	18.6	17.7
8. 障がい者支援施設	285	54.5	293	65.5	9. 障害者更生施設	30.6	32.3
9. 児童相談所	411	78.6	381	85.2	10. 児童相談所	73.1	85.7
10. 福祉事務所	142	27.2	146	32.7	11. 福祉事務所	33.6	33.5
11. 社会福祉協議会	233	44.6	204	45.6	12. 国民年金	84.2	90.0
12. 国民年金	309	59.1	333	74.5	13. 健康保険	76.2	79.2
13. 健康保険	383	73.2	302	67.6	14. 生活保護	54.6	63.0
14. 生活保護	358	68.5	326	72.9	15. 社会福祉協議会	44.5	52.4
15. 介護保険	335	64.1	282	63.1	16. ホームヘルパー（訪問介護員）	61.7	81.4
16. あいサポート運動	151	28.9	118	26.4	17. 民生委員・児童委員	42.3	32.5
17. インクルージョン	30	5.7	16	3.6	18. 老人クラブ	56.5	64.3
18. ノーマライゼーション	19	3.6	14	3.1	19. リハビリテーション	65.0	69.0
19. バリアフリー	364	69.6	334	74.7	20. 児童憲章	11.6	9.1
20. UD（ユニバーサルデザイン）	412	78.8	378	84.6	21. バリアフリー	61.9	88.3
21. リハビリテーション	287	54.9	237	53.0	22. ノーマライゼーション	6.8	17.5
22. 民生委員・児童委員	179	34.2	133	29.8	23. 介護保険	55.4	64.5
23. 老人クラブ	281	53.7	238	53.2	24. デイサービスセンター	48.7	65.8
24. ホームヘルパー（訪問介護員）	186	35.6	220	49.2	25. 介護福祉士	57.5	83.8
25. デイサービスセンター	264	50.5	265	59.3			
26. 介護福祉士	307	58.7	318	71.1			
27. ソーシャルワーカー（社会福祉士）	127	24.3	149	33.3			
28. ケースワーカー	73	14.0	85	19.0			
29. 子どもの権利条約	128	24.5	70	15.7			
30. 児童憲章	76	14.5	53	11.9			
不明	4	0.8	16	3.6			

80%以上が知っているとは回答したものは、小学生で「点字」「手話」「保育所」、中学生で「点字」「手話」「特別支援学校（養護学校）」「保育所」「児童相談所」「UD（ユニバーサルデザイン）」である。一方で、20%未満しか知られていないものは、小・中学生ともに「インクルージョン」「ノーマライゼーション」「ケースワーカー」「児童憲章」であった。また、「子どもの権利条約」は小学生では24%に対し、中学生では15%であった。また、今回新たに選択項目とした「あいサポート運動」は、小・中学生ともに20%強の回答であった。

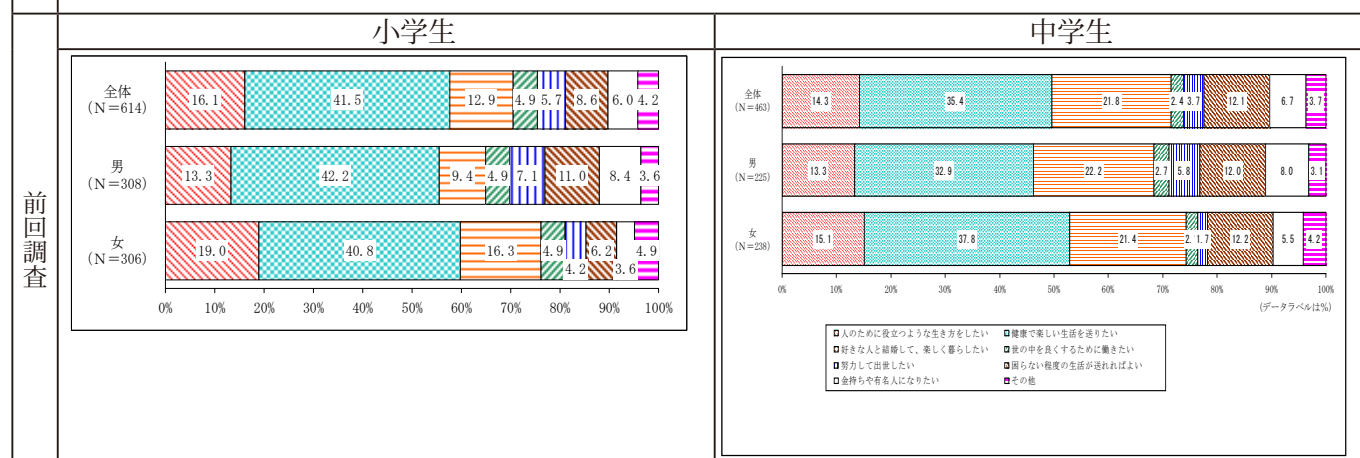
前回調査との比較

前回と比較して、20ポイント以上上昇したものは、小・中学生ともに「障がい者支援施設」である。一方で、「ホームヘルパー」については、小・中学生ともに20ポイント以上低下している。また、小学生では「国民年金」も20ポイント以上低下している。

問18 あなたは、大人になったらどんな暮らしや生き方をしたいと思いますか。あなたの考え方にいちばん近いものを1つだけ選んでください。

1. 人のために役立つような生き方をしたい
2. 健康で楽しい生活を送りたい
3. 好きな人と結婚して、楽しく暮らしたい
4. 世の中を良くするために働きたい
5. 努力して出世したい
6. 困らない程度の生活が送ればよい
7. 金持ちや有名人になりたい
8. その他

項目	小学校		中学校	
	件数	%	件数	%
全体	523	100.0	447	100.0
1. 人のために役立つような生き方をしたい	146	27.9	124	27.7
2. 健康で楽しい生活を送りたい	210	40.2	157	35.1
3. 好きな人と結婚して、楽しく暮らしたい	42	8.0	50	11.2
4. 世の中を良くするために働きたい	19	3.6	4	0.9
5. 努力して出世したい	20	3.8	15	3.4
6. 困らない程度の生活が送ればよい	39	7.5	54	12.1
7. 金持ちや有名人になりたい	21	4.0	14	3.1
8. その他	23	4.4	12	2.7
不明	3	0.6	17	3.8



小・中学生ともに「健康で楽しい生活を送りたい」が最も多く、次いで、「人のために役立つような生き方をしたい」「好きな人と結婚して、楽しく暮らしたい」「困らない程度の生活が送ればよい」が上位を占めている。

前回調査との比較

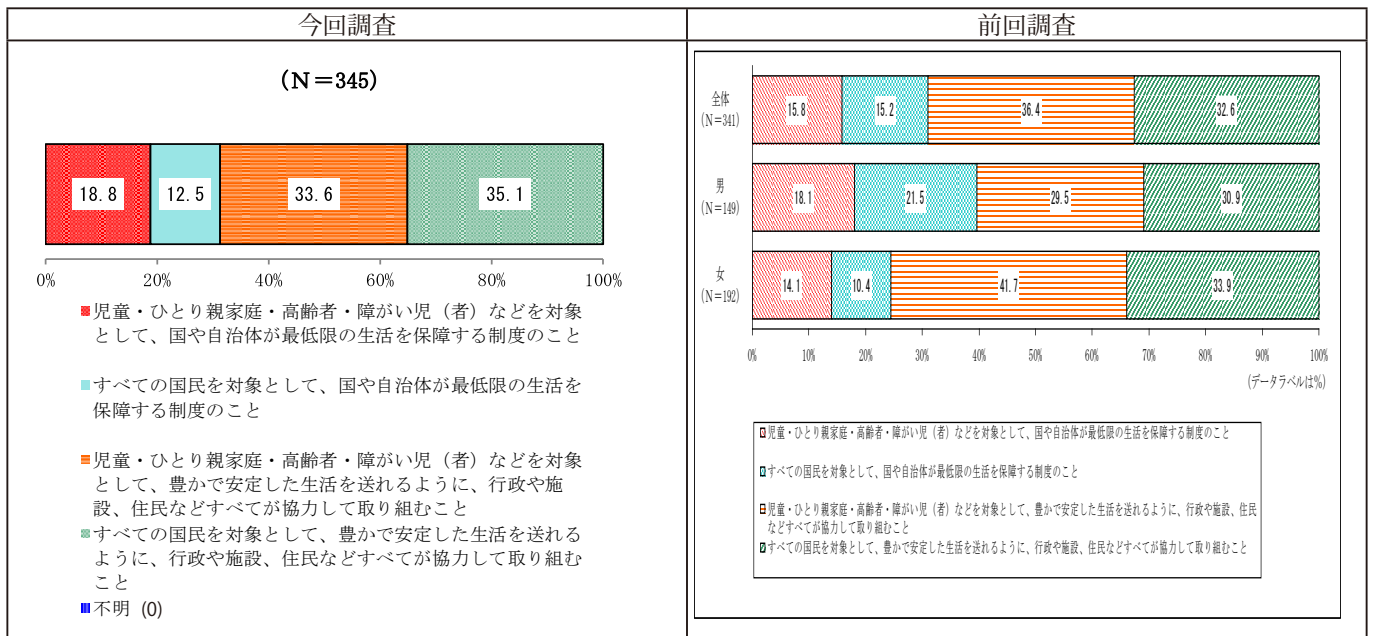
前回と比較して、「人のために役立つような生き方をしたい」が、小・中学生ともに10ポイント以上上昇している。また、「好きな人と結婚して、楽しく暮らしたい」が、小・中学生ともに低下し、中学生のポイントは半減している。

高校生の部

《高校生の部》

問1 あなたは、「福祉」ということばを聞いて、どのようなイメージをもたれますか。いちばん近いものを選んでください。

1. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
2. すべての国民を対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
3. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと
4. すべての国民を対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと



この設問では、「福祉」のイメージを2つのカテゴリーの組み合わせにより、4項目設定している。第1のカテゴリーは福祉対象を「児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）」に限定するのか（選択肢1、3）「すべての国民」として限定しないか（選択肢2、4）というものである。第2のカテゴリーは、福祉主体および福祉サービスを「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」とするか（選択肢1、2）、「行政や施設、住民などすべてが協力して取り組む」（選択肢3、4）とするかというものである。

まず、福祉対象でみると、対象を限定し捉える者が52%、限定しない者が47%と二分され前回と比較しても変化はない。

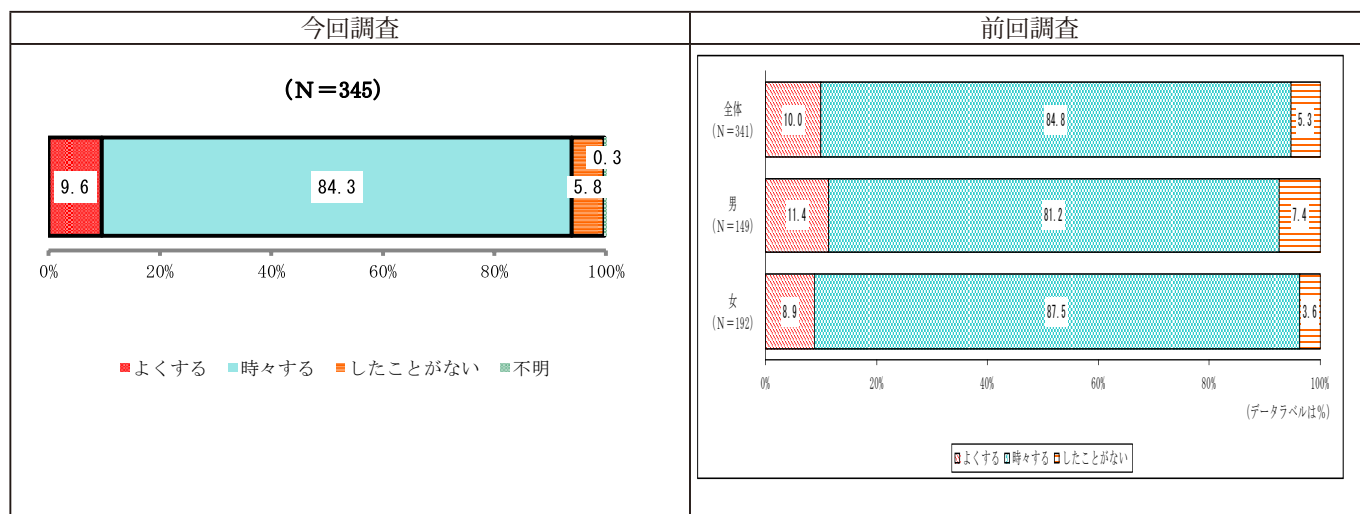
次に、福祉主体および福祉サービスでみると「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」が31%に対して「すべてが協力して取り組む」が69%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、全体的な傾向は大きな変化はみられない。

問2 あなたは、「赤い羽根共同募金」「緑の募金」、障がい児（者）や交通遺児のためなどの募金に協力したことがありますか。

1. よくする 2. 時々する 3. したことがない



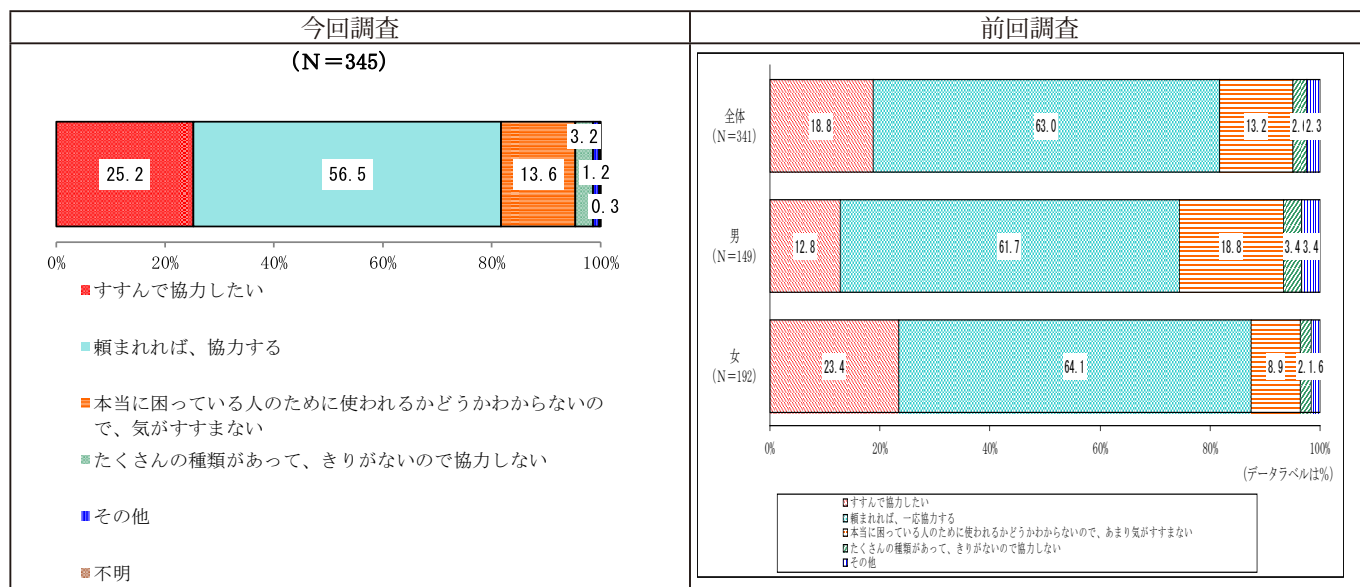
「時々する」が最も多く、80%を超えている。

前回調査との比較

前回と比較して、全体的に大きな変化は見られない。

問3 上記のような募金に対するあなたの気持ちに、いちばん近いのは次のどれですか。

1. すずんで協力したい 2. 頼まれれば協力する
 3. 本当に困っている人のために使われるかどうかわからないので、気がすすまない
 4. たくさんの種類があって、きりがないので協力しない 5. その他



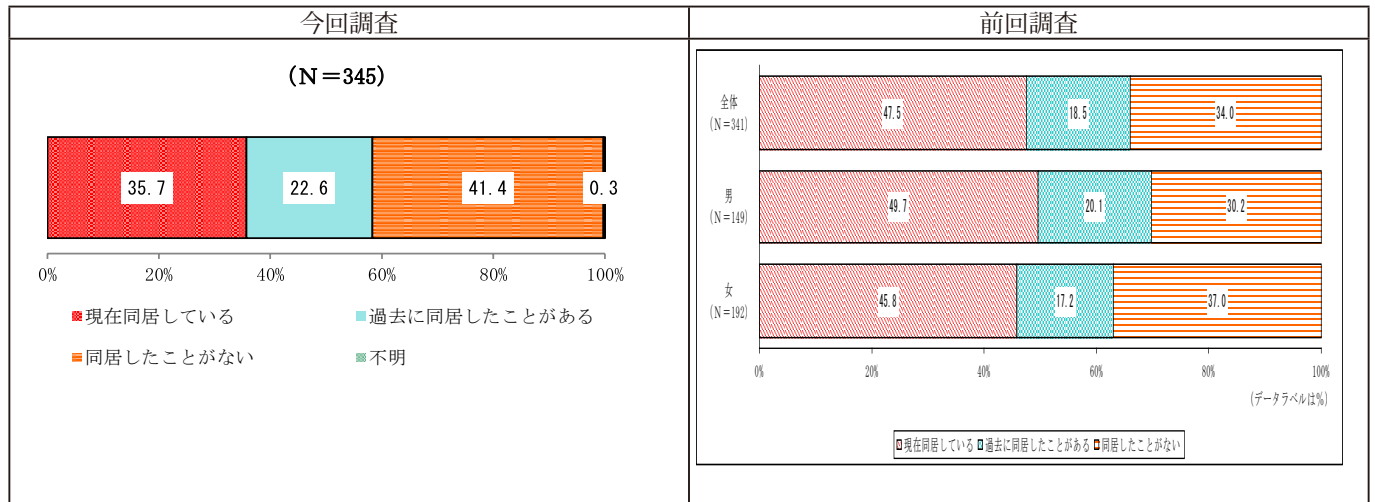
「頼まれれば、協力する」が56%と最も多く、次いで、「すずんで協力したい」が25%となっており、募金に協力的な回答が80%を超えている。

前回調査との比較

前回と比較して、「すすんで協力したい」が6ポイント上昇している。

問4 あなたは、祖父母と同居したことがありますか。

1. 現在同居している 2. 過去に同居したことがある 3. 同居したことがない



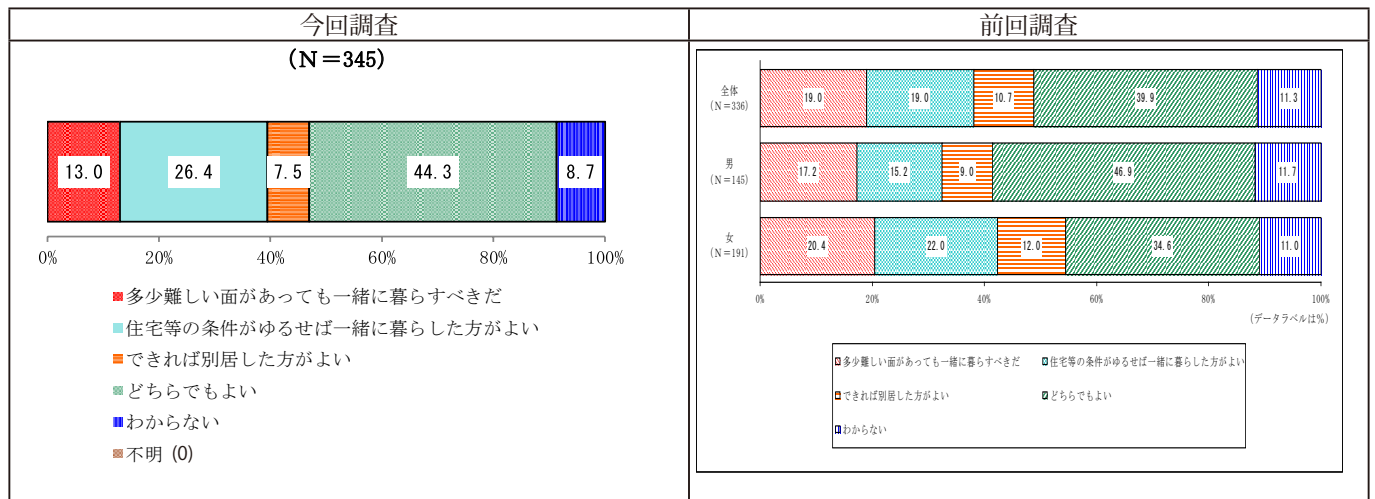
「同居したことがない」が41%と最も多い。「現在同居している」「過去に同居したことがある」を合わせると58%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「同居したことがない」が7ポイント上昇している。一方で、「現在同居している」が11ポイント低下している。

問5 あなたは、あなたの親が祖父母と同居することについてどう考えますか。

1. 多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ 2. 住宅等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい
3. できれば別居した方がよい 4. どちらでもよい
5. わからない



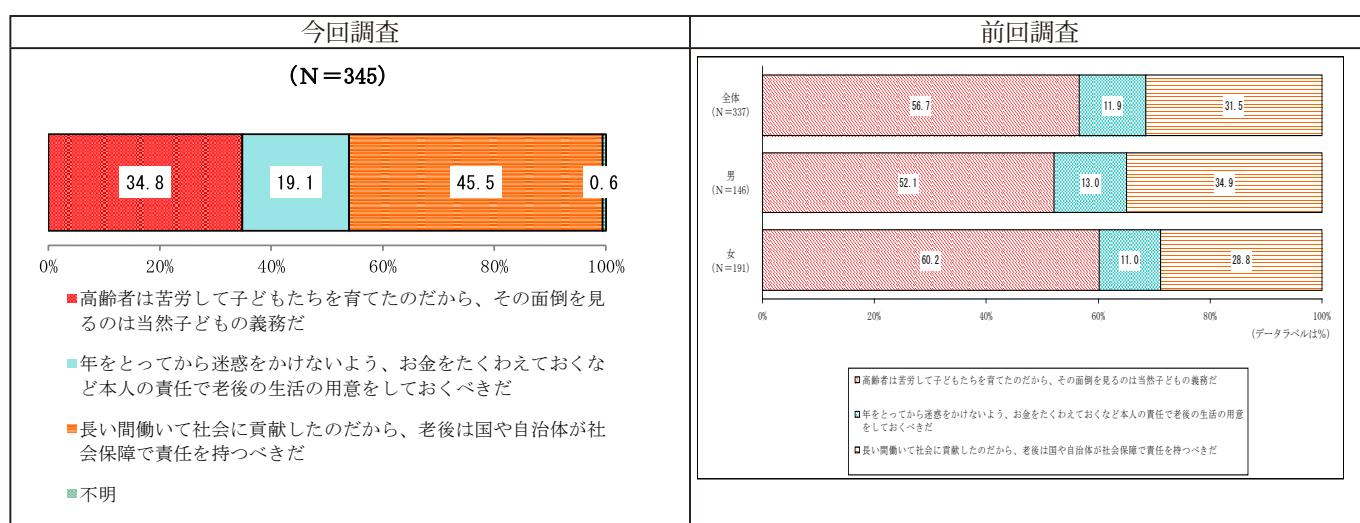
「どちらでもよい」が最も多く44%を占め、次いで、「住宅等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」が26%、「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」は13%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、全体的に大きな変化は見られない。

問6 高齢者をだれが扶養すべきかについていろいろな意見があります。次にあげた意見のうち、あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

1. 高齢者は苦労して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ
2. 年をとってから迷惑をかけないよう、お金をたくわえておくなど本人の責任で老後の生活の用意をしておくべきだ
3. 長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任を持つべきだ



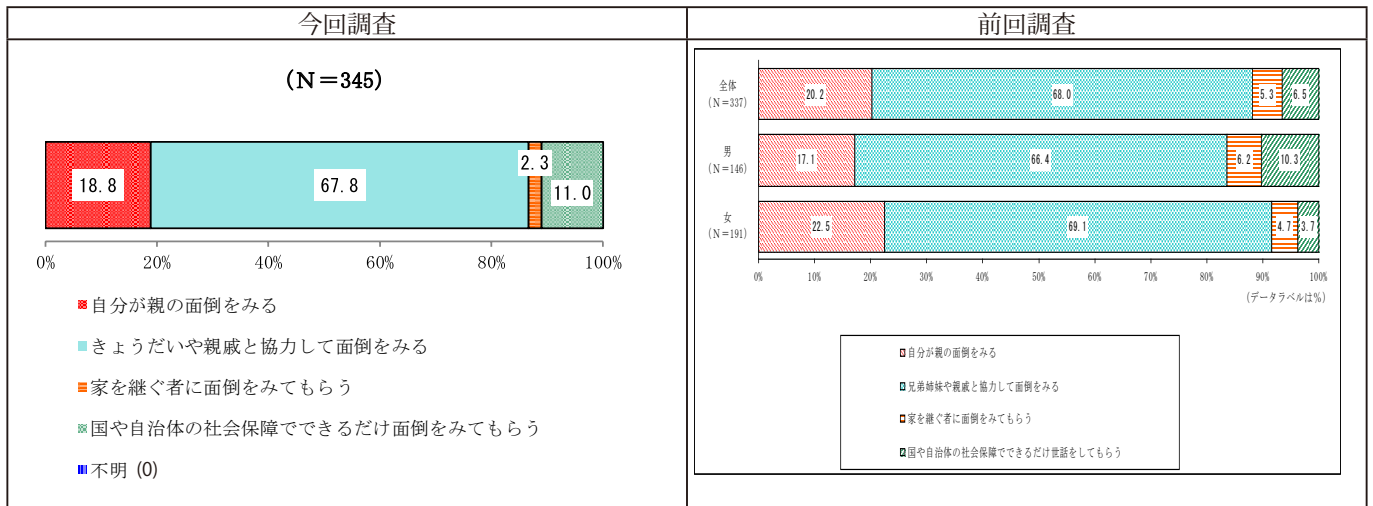
「長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任を持つべきだ」が45%と最も多い。

前回調査との比較

前回と比較して、「長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任を持つべきだ」が14ポイント上昇している。前回の回答で過半数を占めていた「高齢者は苦労して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ」は21ポイント低下している。

問7 将来、仮にあなたの親の扶養が必要になった場合、あなたはどうしたいですか。あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

1. 自分が親の面倒をみる
2. きょうだいや親戚と協力して面倒をみる
3. 家を継ぐ者に面倒をみてもらう
4. 国や自治体の社会保障でできるだけ面倒を見てもらう



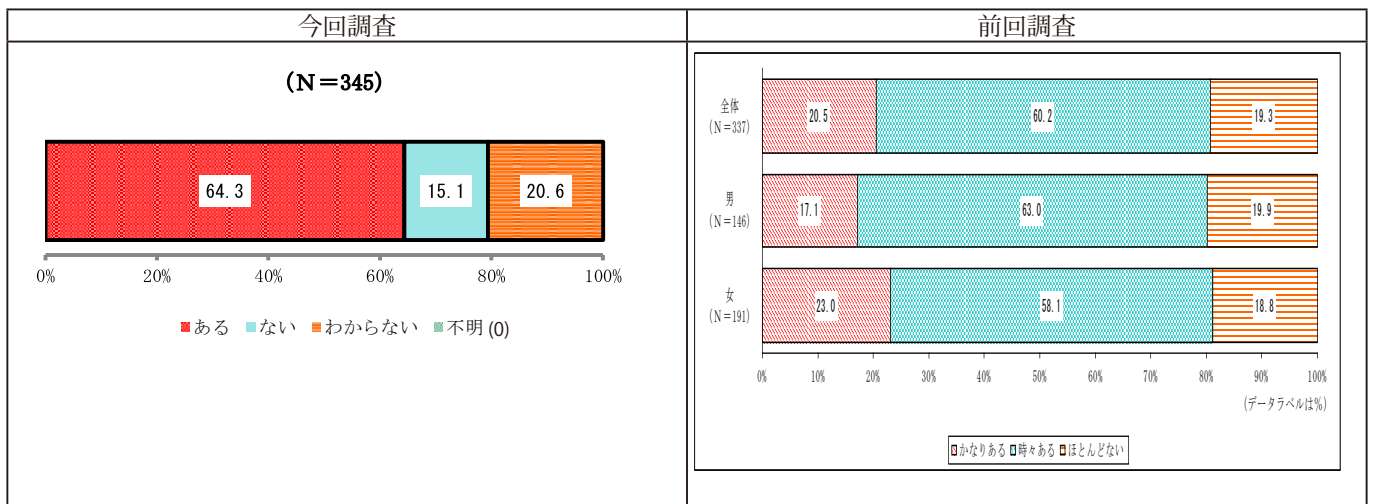
「きょうだいや親戚と協力して面倒をみる」が67%と最も多く、過半数を占めている。「自分が親の面倒をみる」を合わせると86%となり、何らかの形で親の扶養に関わろうとしている。

前回調査との比較

前回と比較して、全体的に大きな変化は見られないが、「国や自治体の社会保障でできるだけ面倒をみてもらう」が4ポイント上昇している。

問8 あなたは、今までに地域で障がいのある人とかかわったことがありますか。

1. ある 2. ない 3. わからない



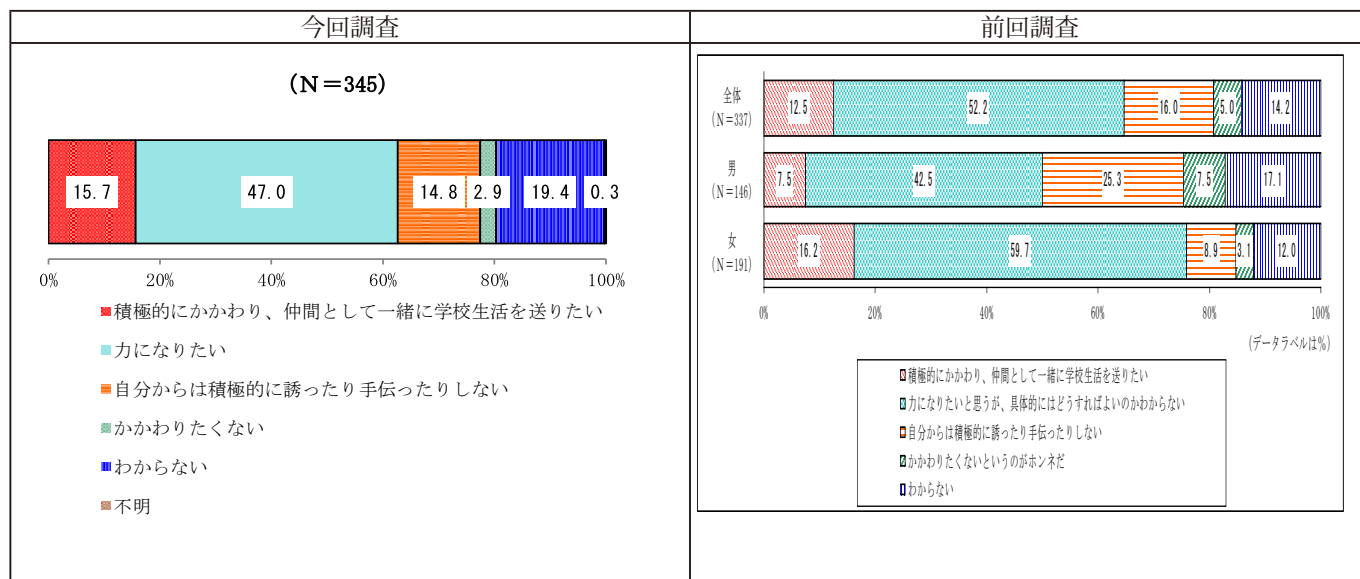
「ある」が64%で最も多い。

前回調査との比較

前回の回答項目と変わっているが、前回の「かなりある」「時々ある」をあわせると80%以上が学校や地域で障がい者のある人と交流したことがあるとしているが、今回は「ある」が16ポイント低下している。

問9 あなたは、障がいのある生徒と一緒に学校生活を送ることについて、どのように感じますか。

1. 積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送りたい
2. 力になりたい
3. 自分からは積極的に誘ったり手伝ったりしない
4. かかわりたくない
5. わからない



「力になりたい」が47%と最も多い。一方で、「自分からは積極的に誘ったり手伝ったりしない」が14%存在している。また、障がいのある生徒とのかかわりに肯定的な「積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送りたい」「力になりたい」を合わせると62%と過半数を超えている。

前回調査との比較

前回と比較して、全体的に大きな変化は見られない。

問10 あなたは、身近に差別を感じたり、見聞きしたことがありますか。該当するものをすべて選んでください。

1. 部落差別
2. 障がい者差別
3. 性による差別
4. 外国人差別
5. 経済的理由による差別
6. その他

今回調査			前回調査	
項 目	件数	%	項 目	%
全 体	345	100.0	1. 部落差別	61.3
1. 部落差別	142	41.2	2. 障がい者差別	74.2
2. 障がい者差別	245	71.0	3. 男女差別	67.9
3. 性による差別	139	40.3	4. 人種差別	47.0
4. 外国人差別	119	34.5	5. 貧富による差別	29.5
5. 経済的理由による差別	61	17.7	6. 職場内差別	26.5
6. その他	10	2.9	7. その他	1.3
不明	44	12.8		

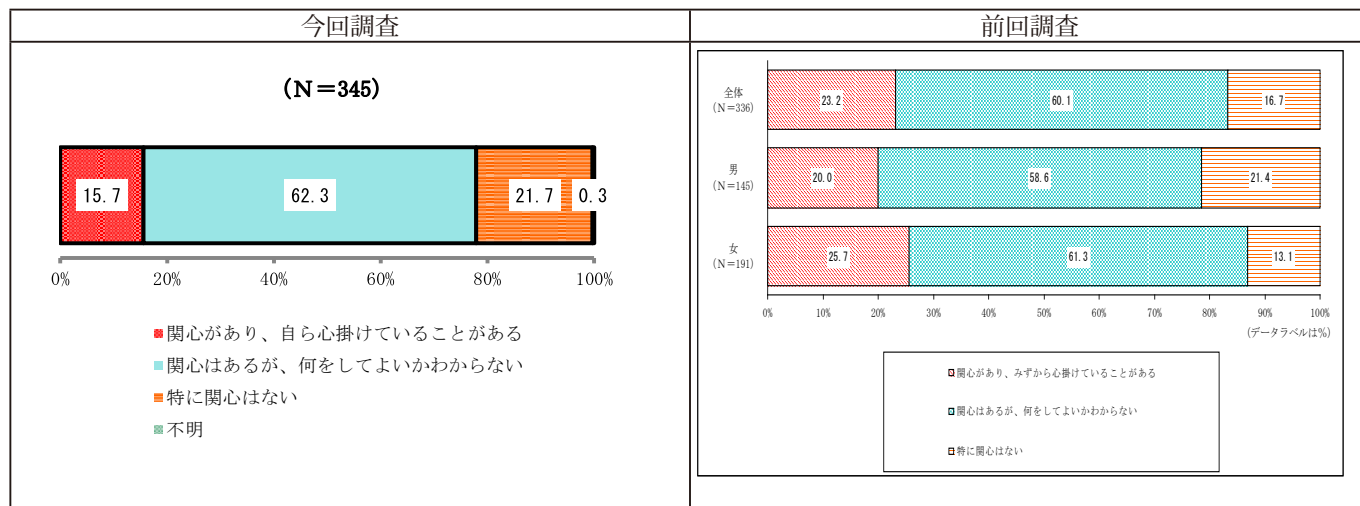
選択率の高いものを挙げると、「障がい者差別」71%となっている。次いで、「部落差別」41%、「性による差別」40%の順となっている。「外国人差別」は34%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「障がい者差別」以外の項目が前回より低下している。

問 1 1 あなたは、地球温暖化や環境汚染、資源やエネルギーの浪費など、環境・資源保護の問題に関心がありますか。

1. 関心があり、自ら心掛けていることがある
2. 関心はあるが、何をしてもよいかわからない
3. 特に関心はない



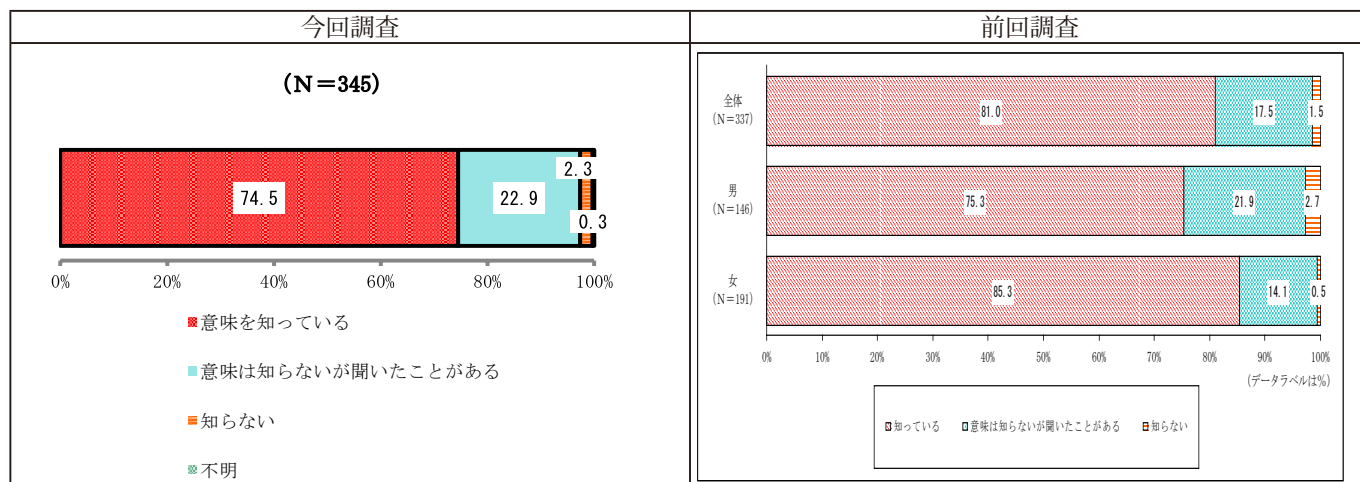
「関心があり、自ら心掛けていることがある」が15%あり、「関心はあるが、何をしてもよいかわからない」と合わせると78%が、環境・資源保護の問題に関心を持っている。

前回調査との比較

前回と比較して、全体的な傾向に変化は見られないが、「関心があり、自ら心掛けていることがある」が7ポイント低下している。

問 1 2 あなたは、「ボランティア」という意味を知っていますか。

1. 意味を知っている
2. 意味は知らないが聞いたことがある
3. 知らない



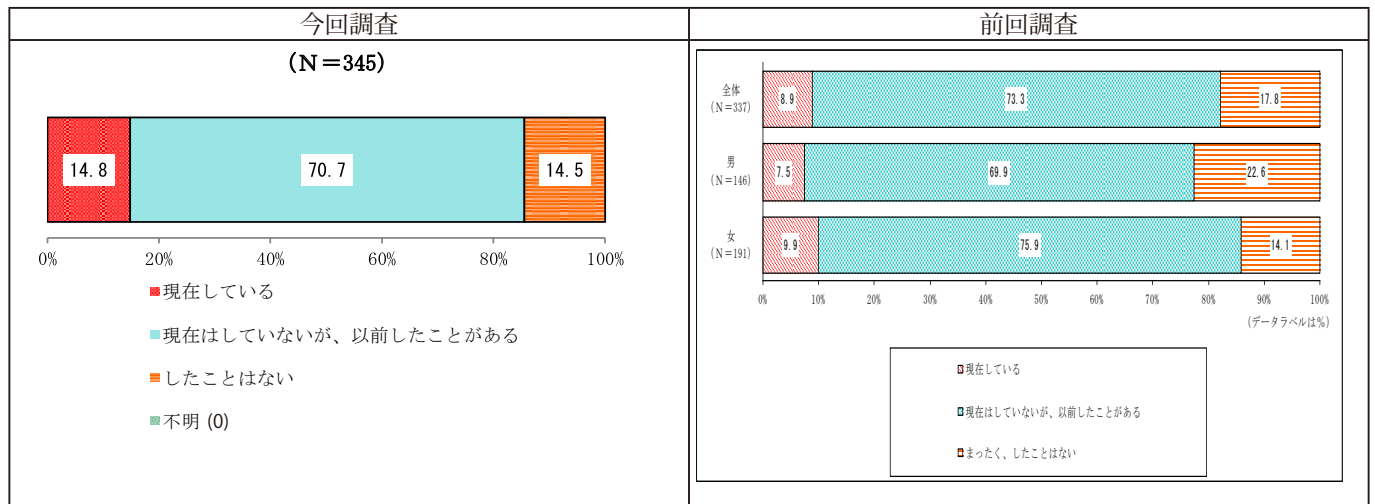
「知っている」が74%と最も多く、「知らない」は2%であった。

前回調査との比較

前回と比較して、「意味は知らないが聞いたことがある」が5ポイント上昇している。

問13 あなたは、「ボランティア活動」をしたことがありますか。

1. 現在している 2. 現在はしていないが、以前したことがある 3. したことはない



「現在はしていないが、以前したことがある」が70%と最も多く、「現在している」は14%存在している。

前回調査との比較

前回と比較して、「現在している」と「現在はしていないが、以前したことがある」を合わせると、活動経験のある回答は85%となり、前回の調査より上昇している。

問13-1 [質問：問13で1. 現在している 2. 現在はしていないが、以前したことがある と答えた人に、それはどんな活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。]

- ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）
- イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動
- ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動
- エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動
- オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動
- カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動
- キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動
- ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動
- ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動
- コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動
- サ. その他

今回調査			前回調査	
項目	件数	%	項目	%
全 体	295	100.0	ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）	48.5
ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）	122	41.4	イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動	14.8
イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動	40	13.6	ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動	10.0
ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動	31	10.5	エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動	42.2
エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動	139	47.1	オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動	60.7
オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動	178	60.3	カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動	10.4
カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動	49	16.6	キ. チャリティバザー等の福祉財源づくりや募金などへの協力活動	16.7
キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動	75	25.4	ク. 古切手、ベルマーク、ロータスクーポン、アルミ缶などの収集活動	43.3
ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動	80	27.1	ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動	10.0
ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動	18	6.1	コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害援助の活動	1.9
コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害援助の活動	21	7.1	サ. その他	4.1
サ. その他	6	2.0		
不明	7	2.4		

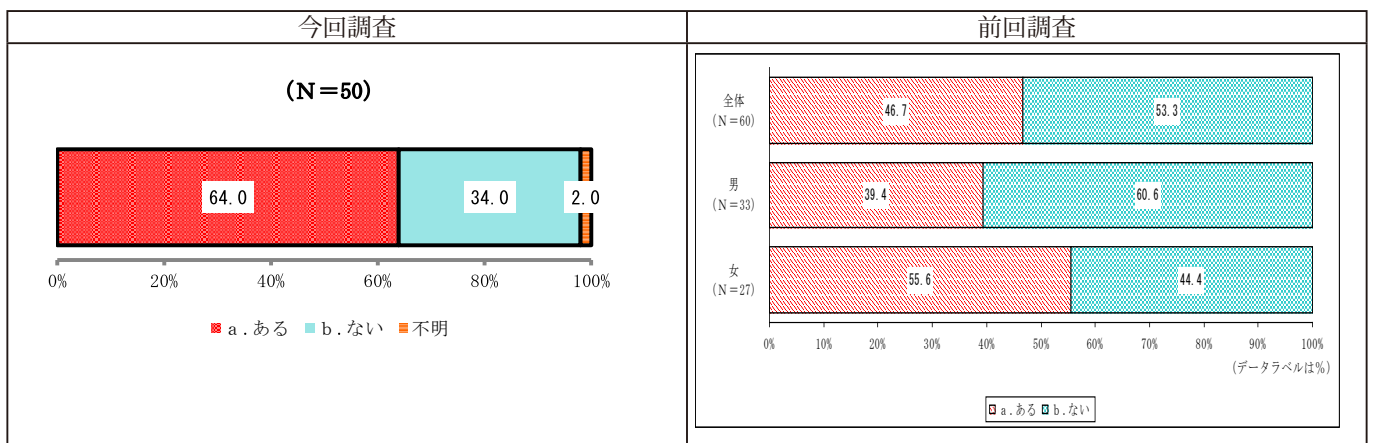
「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」が60%と最も多く、次いで、「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動」「社会福祉施設や病院での活動」の順となっており40%を超えている。

前回調査との比較

前回と比較して、「収集活動」は16ポイント低下している。一方で、「地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動」は5ポイント上昇している。

問13-2 【質問：問13で3. したことはない と答えた人に、将来、ボランティア活動に参加したい気持ちがありますか。】

- a. ある b. ない



「ある」が64%であり、過半数は活動に参加したい気持ちがあることがうかがえる。

前回調査との比較

前回と比較して、「ある」が17ポイント上昇している。

問13-3 [理由:上でb. ない と答えた人に、それはどうしてですか。2つ以内で選んでください。]

- ア. 時間的余裕がないから (勉強、クラブ活動など)
- イ. 家族の同意が得られないから
- ウ. 適当な団体やサークルを知らないので、きっかけが得られないから
- エ. ボランティア活動の内容や方法がわからないから
- オ. これらの仕事は、政治や行政の責任であり、私達がその肩代わりをするのはどうかと思うから
- カ. このようなことに関心がないし、また、あまり好きではないから
- キ. その他

今回調査			前回調査	
項目	件数	%	項目	%
全体	17	100.0	ア. 時間的余裕がないから (勉強、クラブ活動等)	56.3
ア. 時間的余裕がないから (勉強、クラブ活動等)	5	29.4	イ. 家族の同意が得られないから	3.1
イ. 家族の同意が得られないから	0	0.0	ウ. 適当な団体やサークルがないので、きっかけが得られないから	9.4
ウ. 適当な団体やサークルがないので、きっかけが得られないから	4	23.5	エ. ボランティア活動の内容や方法がわからないから	21.9
エ. ボランティア活動の内容や方法がわからないから	4	23.5	オ. これらの仕事は、政治や行政の責任であり、私達がその肩代わりをするのはどうかと思うから	12.5
オ. これらの仕事は、政治や行政の責任であり、私達がその肩代わりをするのはどうかと思うから	5	29.4	カ. このようなことには関心がないし、また、あまり好きではないから	31.3
カ. このようなことには関心がないし、また、あまり好きではないから	8	47.1	キ. その他	3.1
キ. その他	1	5.9		
不明	0	0.0		

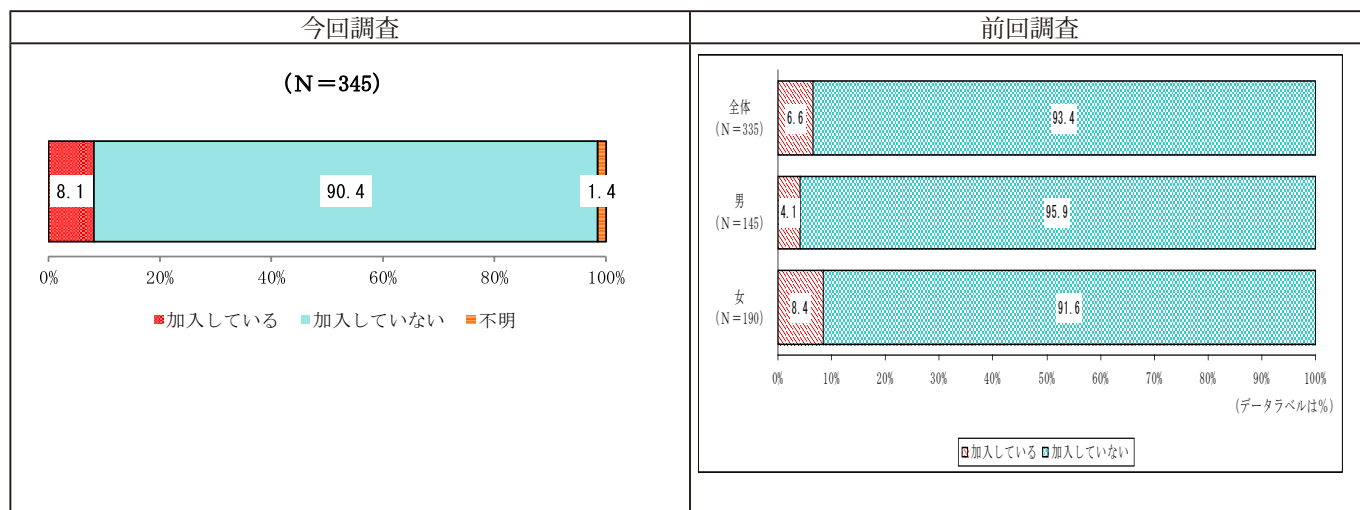
ボランティア活動に参加しない理由として、最も多かったのは「このようなことには関心がないし、また、あまり好きではないから」47%、次いで、「時間的余裕がないから」「これらの仕事は、政治や行政の責任であり、私達がその肩代わりをするのはどうかと思うから」29%、「適当な団体やサークルがないので、きっかけが得られないから」「ボランティア活動の内容や方法がわからないから」23%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、参加の機会や活動内容の情報があれば活動に参加が期待できる回答は47%であり、前回と比べ15ポイント上昇している。また、「適当な団体やサークルがないので、きっかけが得られないから」が14ポイント上昇している。

問14 あなたは、ボランティア活動に取り組む団体・サークル等に入っていますか (学校内のボランティア部、青少年赤十字 (JRC)、インターアクトクラブなども含む)。

- 1. 加入している
- 2. 加入していない



「加入していない」が90%、「加入している」は8%であった。

前回調査との比較

前回と比較して、「加入している」が上昇している。

問15 あなたは、現在の学校生活の中で、福祉に関する情報や知識を主に何で得ていますか。2つ以内で選んでください。

- | | | | |
|------------|--------------|------------|------------|
| 1. 授業のなか | 2. 生徒会活動 | 3. クラブ活動 | 4. 先生の話 |
| 5. 友だち・先輩 | 6. 学校新聞・文集など | 7. テレビ・ラジオ | 8. 本や雑誌・新聞 |
| 9. インターネット | 10. その他 | | |

今回調査			前回調査	
項目	件数	%	項目	%
全 体	345	100.0	1. 授業のなか	42.0
1. 授業のなか	150	43.5	2. 生徒会活動	5.2
2. 生徒会活動	17	4.9	3. クラブ活動	3.4
3. クラブ活動	15	4.3	4. 先生の話	27.6
4. 先生の話	119	34.5	5. 友人・先輩	4.0
5. 友だち・先輩	14	4.1	6. 学校新聞・文集等	7.4
6. 学校新聞・文集など	9	2.6	7. テレビ・ラジオ	42.3
7. テレビ・ラジオ	114	33.0	8. 本や雑誌・新聞	20.6
8. 本や雑誌・新聞	45	13.0	9. インターネット	4.6
9. インターネット	69	20.0	10. その他	3.1
10. その他	6	1.7		
不明	4	1.2		

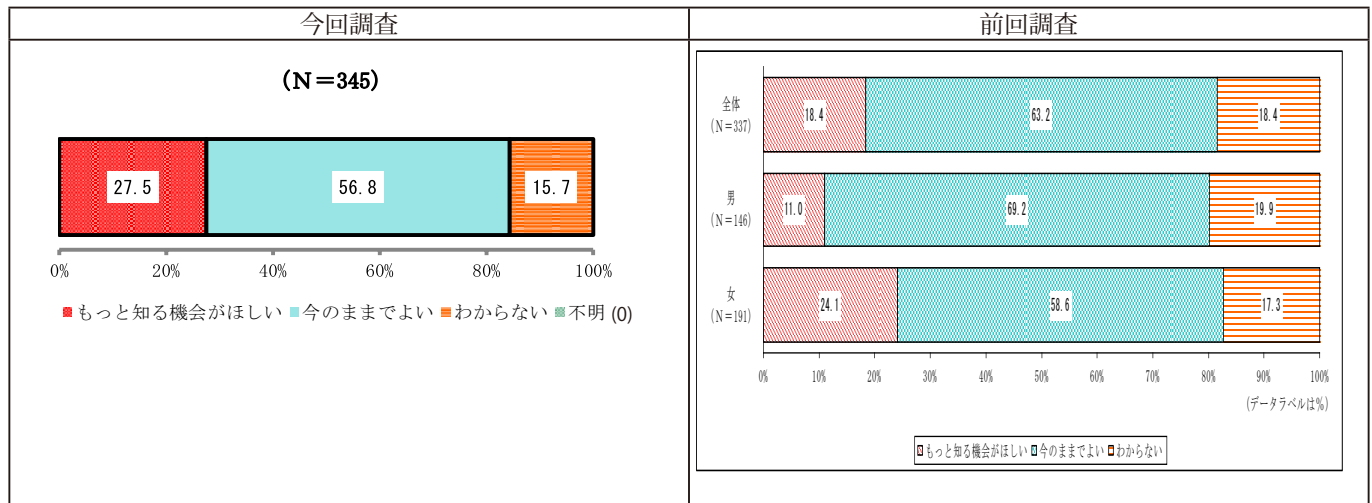
「授業のなか」が43%と多く、次いで、「先生の話」「テレビ・ラジオ」「インターネット」の順となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「インターネット」が15ポイント上昇している。また、「授業のなか」「先生の話」など学校生活のなかで得ている回答が上昇している。

問16 あなたは、学校で福祉について、もっと知る機会があればよいと思いますか。

1. もっと知る機会がほしい 2. 今のままでよい 3. わからない



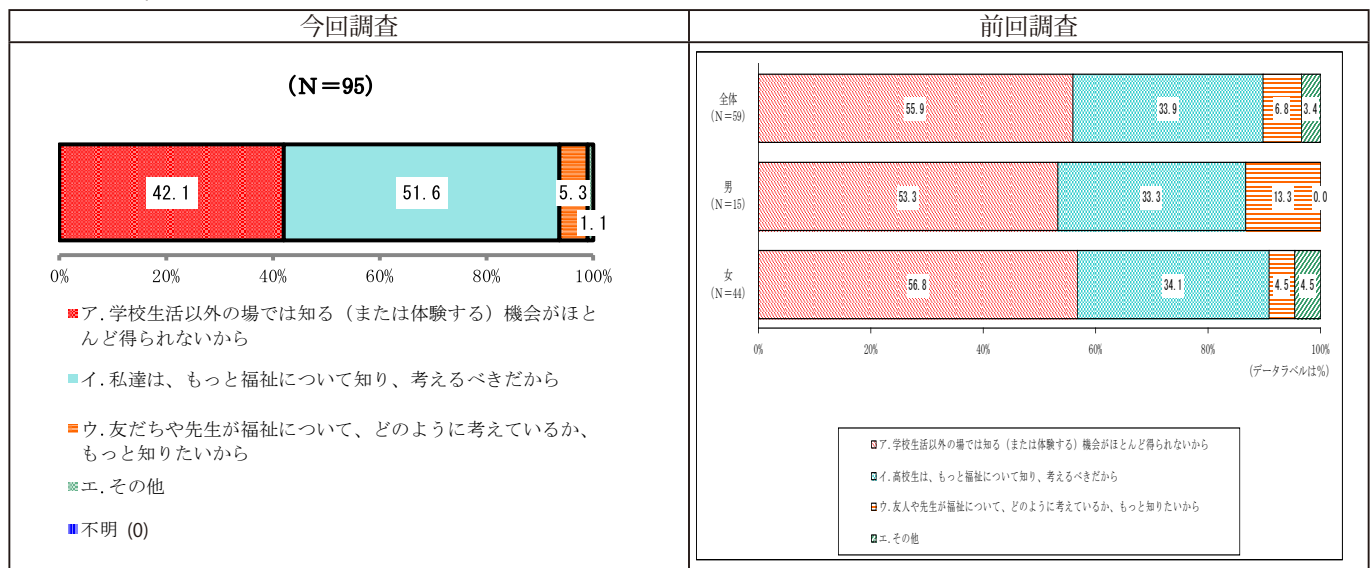
「今のままでよい」が56%と最も多い。「もっと知る機会がほしい」は27%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「今のままでよい」が6ポイント低下し、「もっと知る機会がほしい」が9ポイント上昇している。

問16-1 [理由：上で1. もっと知る機会がほしい と答えた人に、それはどうしてですか。]

- ア. 学校生活以外の場では知る（または体験する）機会がほとんど得られないから
 イ. 私達は、もっと福祉について知り、考えるべきだから
 ウ. 友だちや先生が福祉について、どのように考えているか、もっと知りたいから
 エ. その他



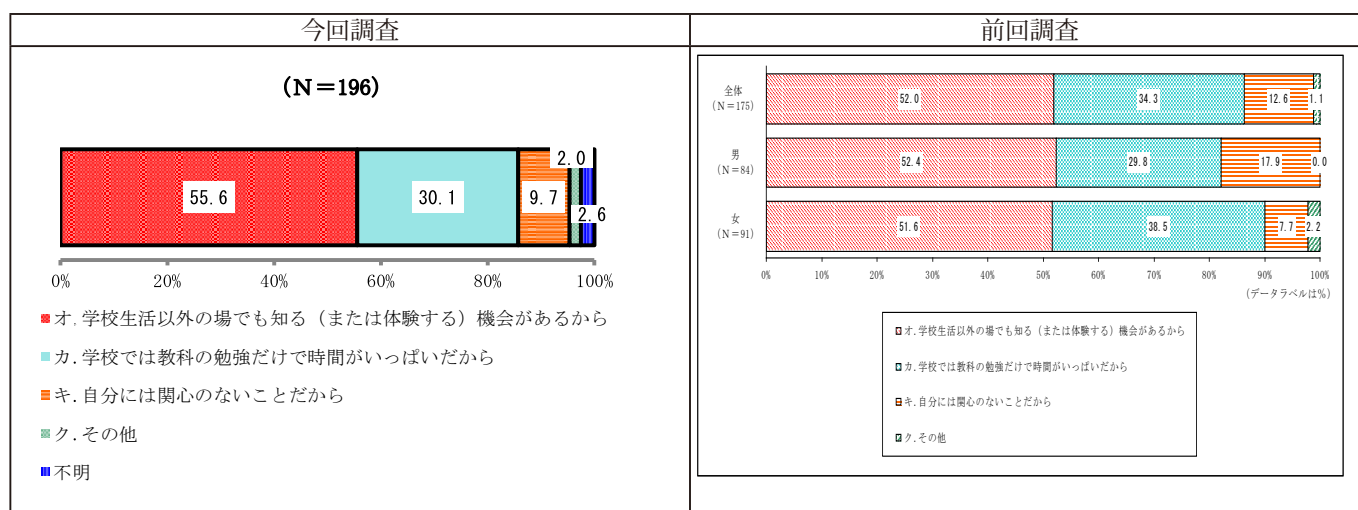
「私達は、もっと福祉について知り、考えるべきだから」が51%と過半数を占めている。次いで、「学校生活以外の場では知る機会がほとんど得られないから」が42%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「私達は、もっと福祉について知り、考えるべきだから」が17ポイント上昇し、一方で、「学校生活以外の場では知る機会がほとんど得られないから」は13ポイント低下している。

問16-2 [理由：問16で2.今のままでよいと答えた人に、それはどうしてですか。]

- オ. 学校生活以外の場でも知る（または体験する）機会があるから
- カ. 学校では教科の勉強だけで時間がいっぱいだから
- キ. 自分には関心のないことだから
- ク. その他



「学校生活以外の場でも知る機会があるから」が55%と最も多く、過半数を超えている。次いで、「学校では教科の勉強だけで時間がいっぱいだから」が30%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、全体的に大きな変化は見られないが、「自分には関心のないことだから」が低下している。

問17 あなたが、次のことばの中で、知っているものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|----------------------|-----------------|--------------|
| 1. 点字 | 2. 手話 | 3. 特別支援学校（養護学校） | 4. 保育所 |
| 5. 児童養護施設 | 6. 特別養護老人ホーム | 7. 母子生活支援施設 | 8. 障がい者支援施設 |
| 9. 児童相談所 | 10. 福祉事務所 | 11. 社会福祉協議会 | 12. 国民年金 |
| 13. 健康保険 | 14. 生活保護 | 15. 介護保険 | 16. あいサポート運動 |
| 17. インクルージョン | 18. ノーマライゼーション | 19. バリアフリー | |
| 20. UD（ユニバーサルデザイン） | 21. リハビリテーション | 22. 民生委員・児童委員 | |
| 23. 老人クラブ | 24. ホームヘルパー（訪問介護員） | 25. デイサービスセンター | |
| 26. 介護福祉士 | 27. ソーシャルワーカー（社会福祉士） | 28. ケースワーカー | |
| 29. 子どもの権利条約 | 30. 児童憲章 | | |

今回調査			前回調査	
項目	件数	%	項目	%
全体	345	100.0	1. 点字	97.6
1. 点字	322	93.3	2. 手話	97.0
2. 手話	333	96.5	3. 特別支援学校（養護学校）	83.7
3. 特別支援学校（養護学校）	307	89.0	4. 保育所	93.5
4. 保育所	309	89.6	5. 児童養護施設	70.7
5. 児童養護施設	268	77.7	6. 特別養護老人ホーム	68.6
6. 特別養護老人ホーム	212	61.4	7. 授産施設	15.4
7. 母子生活支援施設	113	32.8	8. 母子生活支援施設（母子寮）	20.4
8. 障がい者支援施設	233	67.5	9. 障害者更生施設	29.0
9. 児童相談所	281	81.4	10. 児童相談所	86.7
10. 福祉事務所	115	33.3	11. 福祉事務所	34.0
11. 社会福祉協議会	149	43.2	12. 国民年金	91.4
12. 国民年金	280	81.2	13. 健康保険	83.4
13. 健康保険	264	76.5	14. 生活保護	79.3
14. 生活保護	279	80.9	15. 社会福祉協議会	44.1
15. 介護保険	250	72.5	16. ホームヘルパー（訪問介護員）	87.6
16. あいサポート運動	112	32.5	17. 民生委員・児童委員	26.0
17. インクルージョン	42	12.2	18. 老人クラブ	48.5
18. ノーマライゼーション	194	56.2	19. リハビリテーション	86.1
19. バリアフリー	294	85.2	20. 児童憲章	21.3
20. UD（ユニバーサルデザイン）	284	82.3	21. バリアフリー	93.5
21. リハビリテーション	231	67.0	22. ノーマライゼーション	55.0
22. 民生委員・児童委員	93	27.0	23. 介護保険	79.3
23. 老人クラブ	173	50.1	24. デイサービスセンター	77.2
24. ホームヘルパー（訪問介護員）	247	71.6	25. 介護福祉士	82.5
25. デイサービスセンター	246	71.3		
26. 介護福祉士	258	74.8		
27. ソーシャルワーカー（社会福祉士）	182	52.8		
28. ケースワーカー	84	24.3		
29. 子どもの権利条約	218	63.2		
30. 児童憲章	124	35.9		
不明	6	1.7		

90%以上が知っているとは回答したものは「点字」「手話」、70%以上が知っているものとしては「保育所」「特別支援学校」「バリアフリー」「UD（ユニバーサルデザイン）」「児童相談所」「国民年金」「生活保護」「児童養護施設」「健康保険」「介護福祉士」「介護保険」「ホームヘルパー」「デイサービスセンター」であった。一方で、20%未満しか知られていないものとして「インクルージョン」が挙げられる。

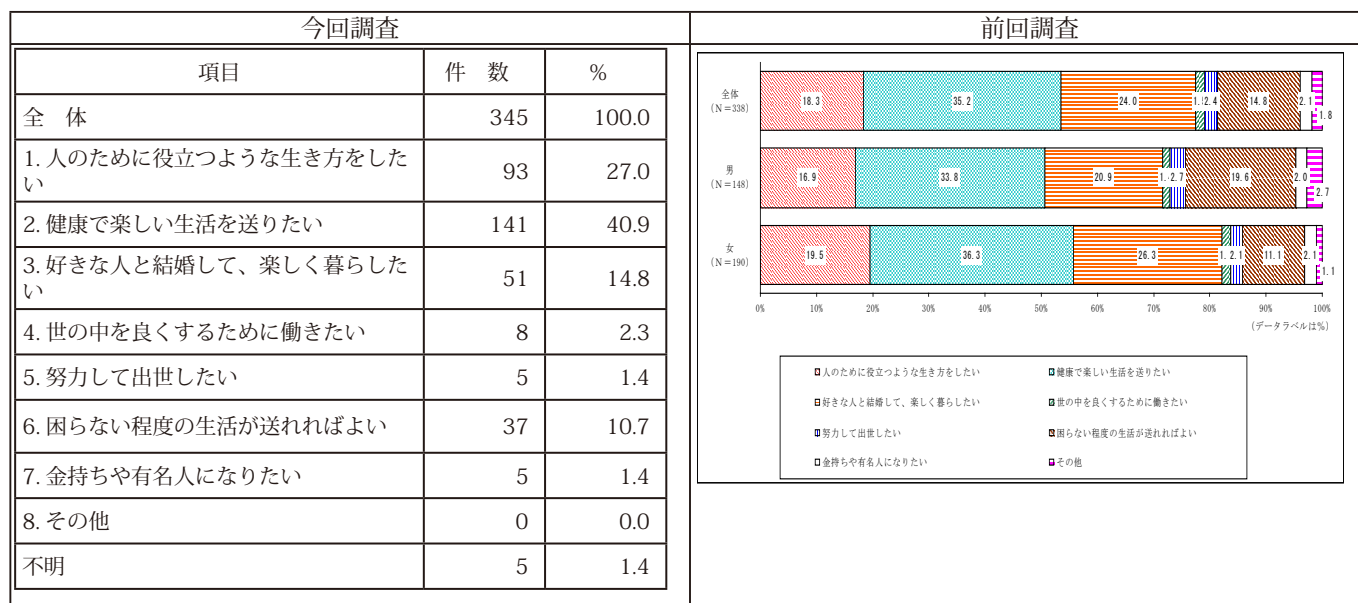
前回調査との比較

前回と比較して、10ポイント以上上昇したのは、「リハビリテーション」「ホームヘルパー」となっている。一方で、10ポイント低下したのは、「母子生活支援施設」「児童憲章」となっている。

今回新しく追加した回答項目のうち、「UD（ユニバーサルデザイン）」「ソーシャルワーカー」「子どもの権利条約」は過半数を占めている。また、「あいサポート運動」は32%、「インクルージョン」は12%である。

問18 あなたは、将来どのような生き方をしたいと思いますか。次の項目の中から、あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 人のために役立つような生き方をしたい | 2. 健康で楽しい生活を送りたい |
| 3. 好きな人と結婚して、楽しく暮らしたい | 4. 世の中を良くするために働きたい |
| 5. 努力して出世したい | 6. 困らない程度の生活が送ればよい |
| 7. 金持ちや有名人になりたい | 8. その他 |



「健康で楽しい生活を送りたい」が40%で最も多く、次いで「人のために役に立つような生き方をしたい」「好きな人と結婚して楽しく暮らしたい」「困らない程度の生活が送ればよい」の順となっている。

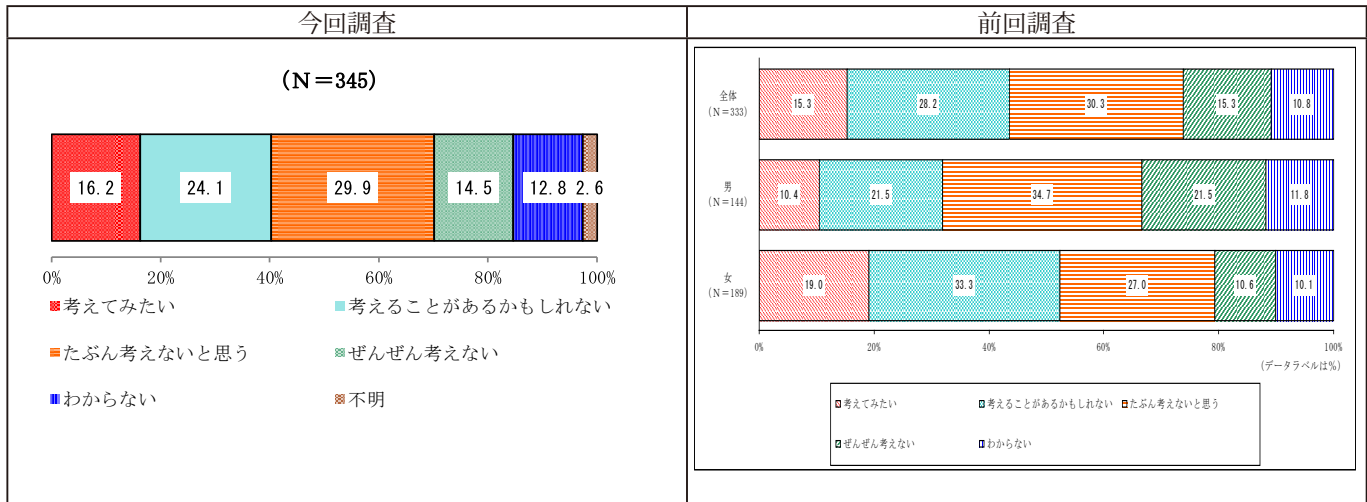
前回調査との比較

前回と比較して、「健康で楽しい生活を送りたい」が5ポイント上昇し、「人のために役に立つような生き方をしたい」が8ポイント上昇している。また、「好きな人と結婚して楽しく暮らしたい」は10ポイント低下している。

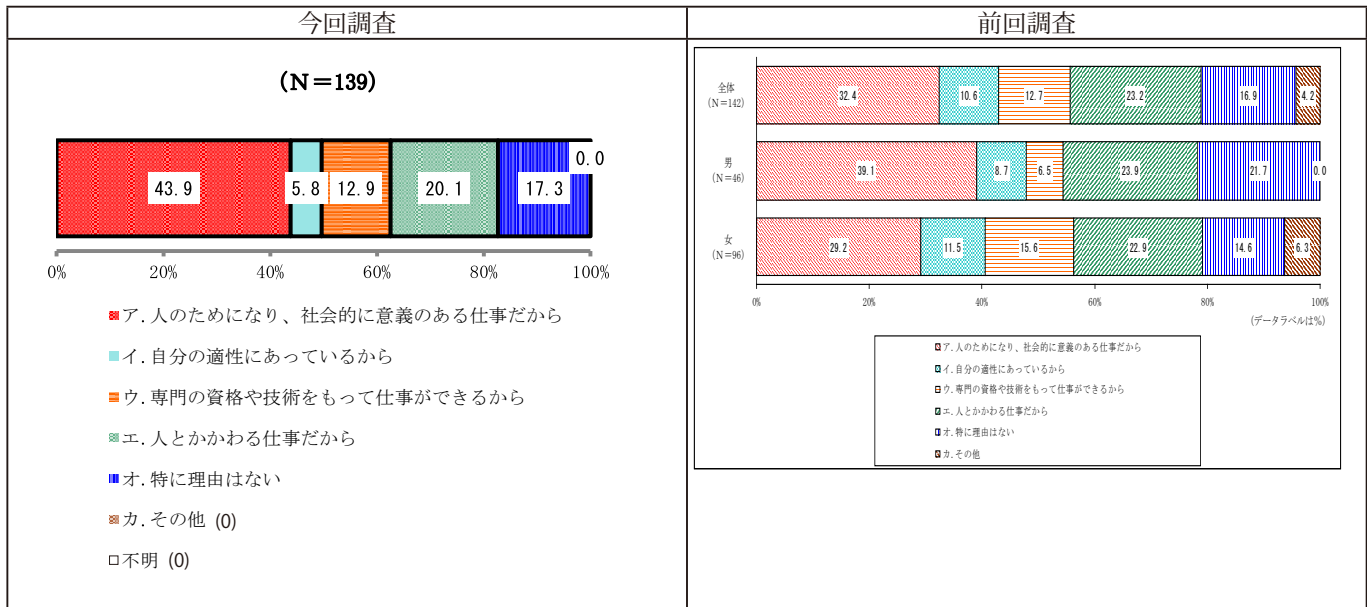
問19 あなたが、これから就職を考える場合、就職先として、社会福祉施設（保育所、障がい児施設、児童養護施設、老人ホームなど）や在宅福祉（ホームヘルプサービス）などの福祉の仕事を対象のひとつとして考えることができますか。

質問項目	その理由
1. 考えてみたい	ア. 人のためになり、社会的に意義のある仕事だから
2. 考えることがあるかもしれない	イ. 自分の適性にあっているから
	ウ. 専門の資格や技術をもって仕事ができるから
	エ. 人とかかわる仕事だから
	オ. 特に理由はない
	カ. その他

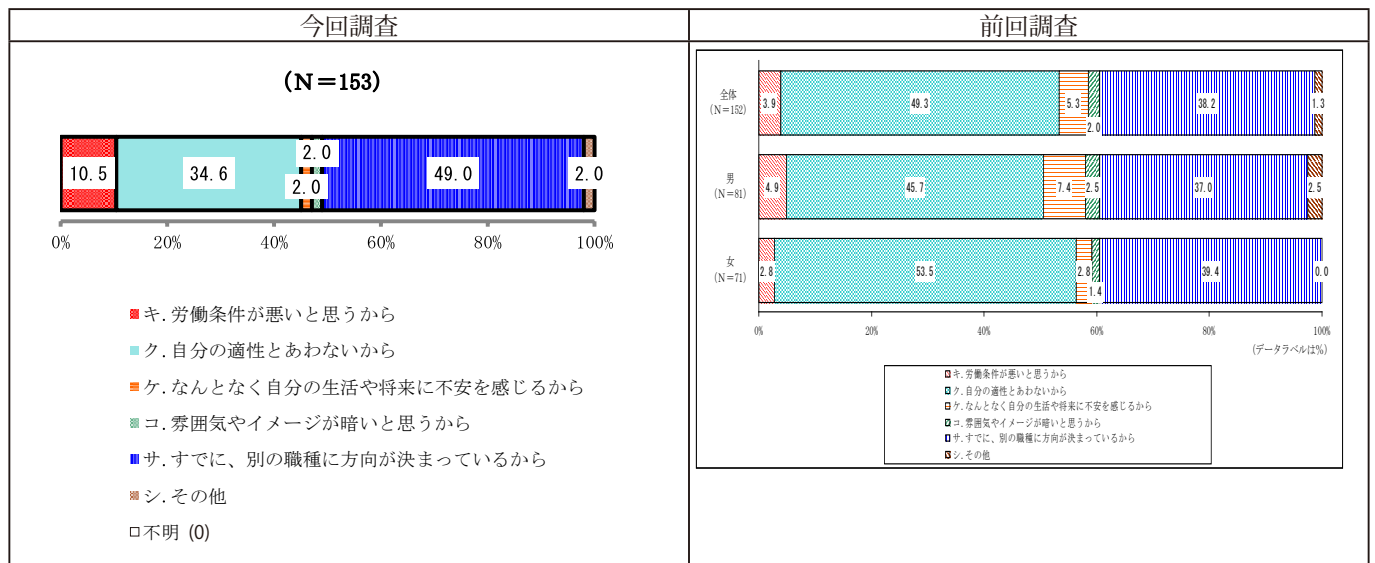
3. たぶん考えないと思う	キ. 労働条件が悪いと思うから
4. ぜんぜん考えない	ク. 自分の適性とあわないから
	ケ. なんとなく自分の生活や将来に不安を感じるから
	コ. 雰囲気やイメージが暗いと思うから
	サ. すでに、別の職種に方向が決まっているから
	シ. その他
5. わからない	



回答 1、2の理由



回答 3、4の理由



「考えてみたい」が16%、「考えることがあるかもしれない」が24%であり、福祉の職場への就職を考慮している者は40%である。また、「たぶん考えないと思う」「ぜんぜん考えない」を合わせると44%存在している。「考える」理由として「人のためになり、社会的に意義のある仕事だから」が43%存在している。一方で、「考えない」理由として「自分の適性があわないから」が34%、「すでに別の職種に方向が決まっているから」が49%となっている。

前回調査との比較

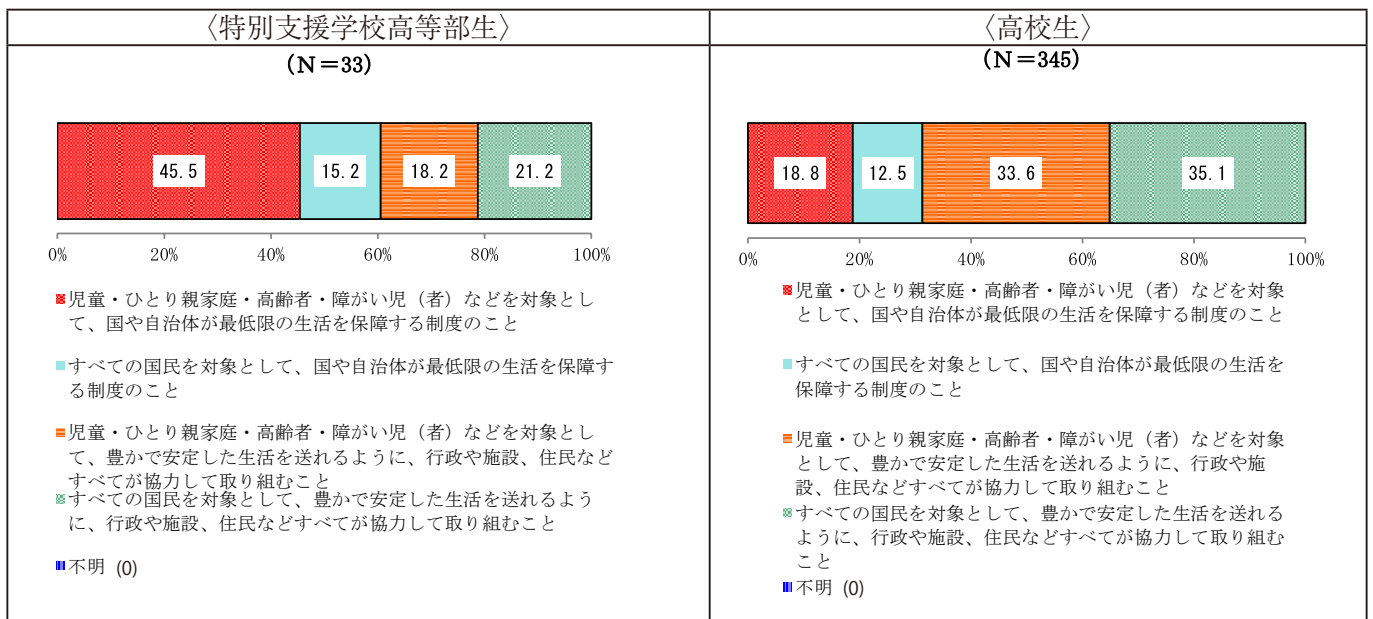
前回と比較して、全体的に大きな変化はみられないが、「考える」理由では「人のためになり、社会的に意義のある仕事だから」が11ポイント上昇している。一方で、「考えない」理由では「労働条件が悪いと思うから」が6ポイント上昇している。

特別支援学校高等部生の部

《特別支援学校高等部生の部》

問1 あなたは、「福祉」ということばを聞いて、どのようなイメージをもたれますか。いちばん近いものを選んでください。

1. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
2. すべての国民を対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
3. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと
4. すべての国民を対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと



この設問では、「福祉」のイメージを2つのカテゴリーの組み合わせにより、4項目設定している。第1のカテゴリーは福祉対象を「児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）など」に限定するのか（選択肢1、3）「すべての国民」として限定しないか（選択肢2、4）というものである。第2のカテゴリーは、福祉主体および福祉サービスを「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」とするか（選択肢1、2）、「行政や施設、住民などすべてが協力して取り組む」（選択肢3、4）とするかというものである。

まず、福祉対象でみると、対象を限定し捉える者が63%であり、対象を限定しない者より27%多くなっている。

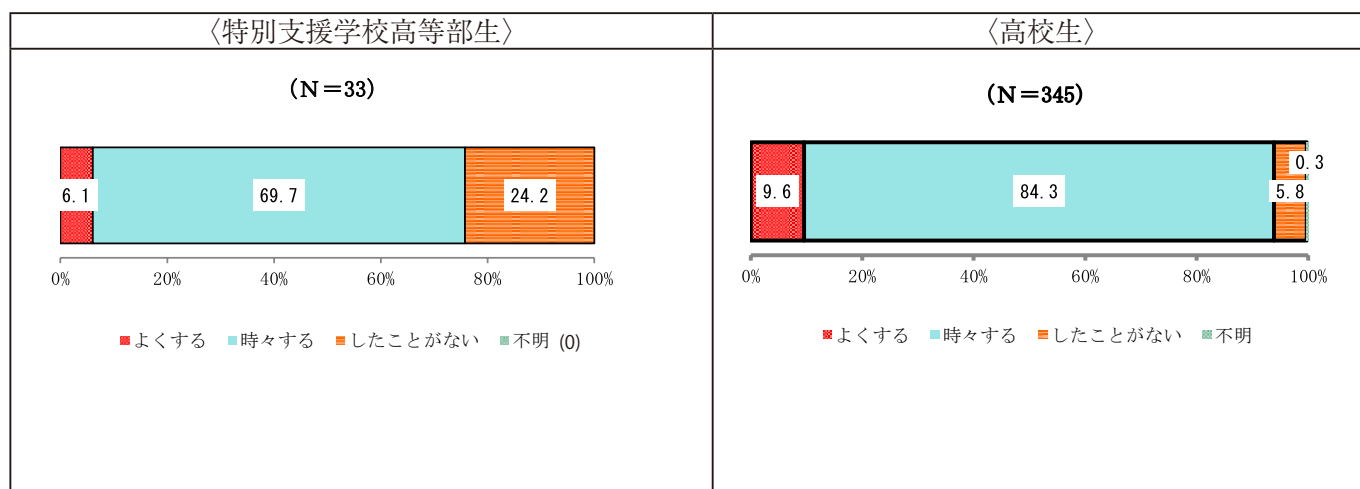
次に、福祉主体および福祉サービスでみると「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」が60%であり、「すべてが協力して取り組む」より18%多くなっている。

高校生との比較

高校生と比較して、特別支援学校高等部生は、福祉対象でみると「対象を限定し」と同じ回答だが、福祉主体および福祉サービスでみると「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」を選択した割合が多い。

問2 あなたは、「赤い羽根共同募金」「緑の募金」、障がい児（者）や交通遺児のためなどの募金に協力したことがありますか。

1. よくする 2. 時々する 3. したことがない



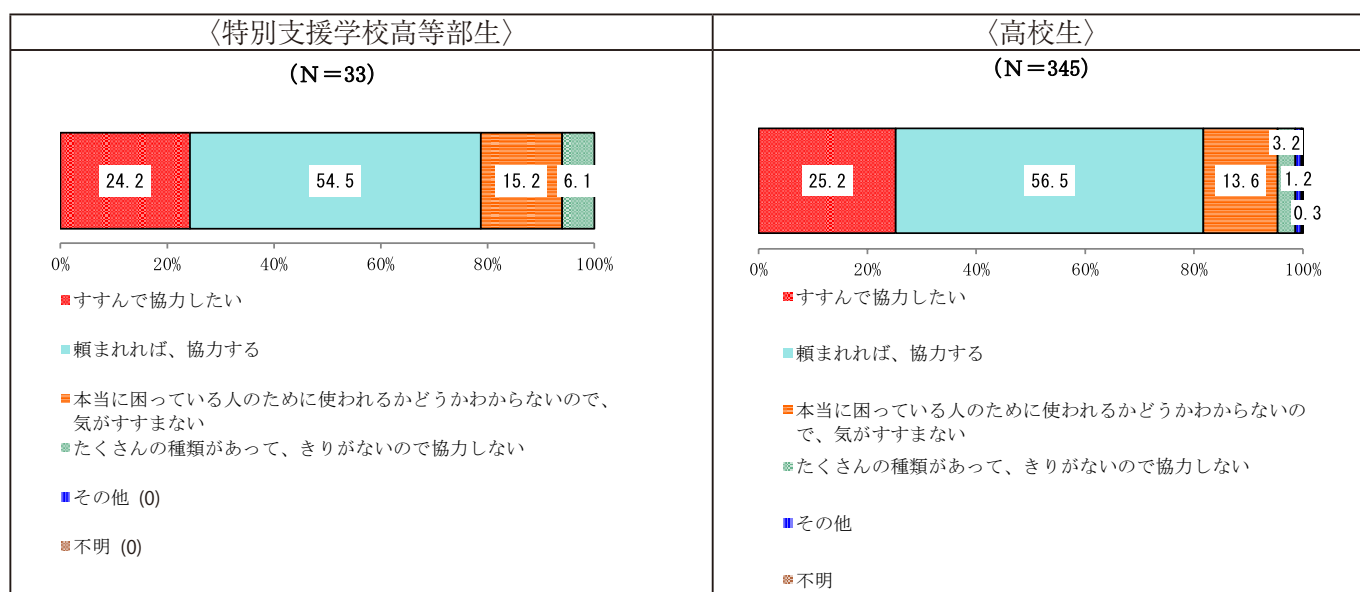
「時々する」が69%で最も多くなっている。

高校生との比較

高校生と比較して、特別支援学校高等部生は「時々する」は14ポイント少ない。また、「したことがない」は19ポイント多い。

問3 上記のような募金に対するあなたの気持ちに、いちばん近いのは次のどれですか。

1. すずんで協力したい 2. 頼まれれば協力する
 3. 本当に困っている人のために使われるかどうかわからないので、気がすすまない
 4. たくさんの種類があって、きりがないので協力しない 5. その他



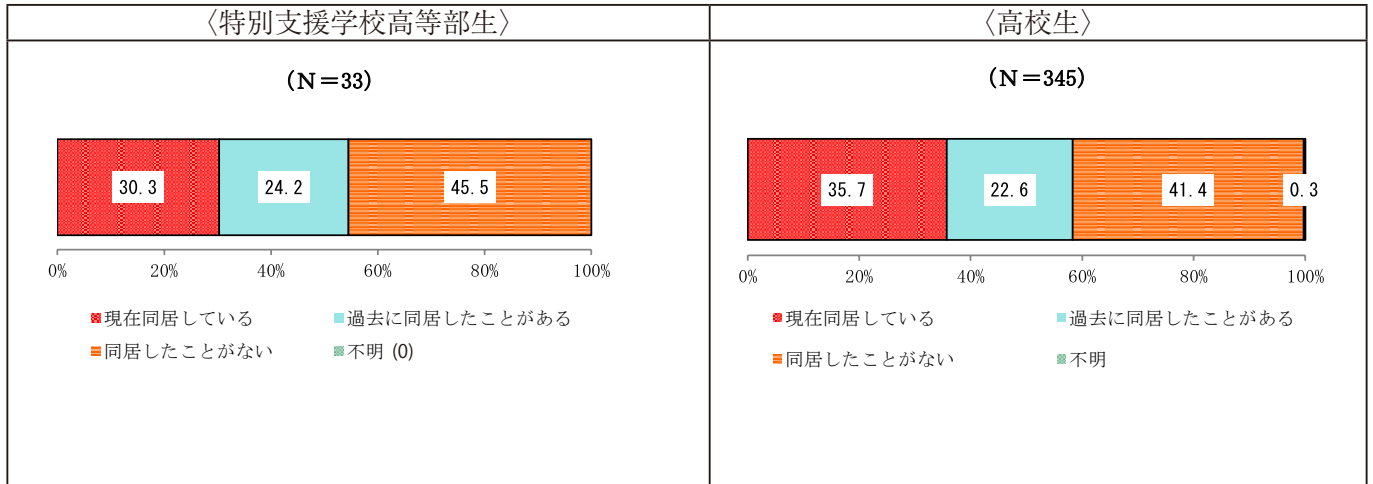
「頼まれれば、協力する」が54%と最も多く、次いで、「すずんで協力したい」が24%となっており、募金に協力的な回答が合わせて78%となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、ほぼ同様の傾向が見られた。また、「本当に困っている人のために使われているかどうか分からないので、気がすまない」が、特別支援学校高等部生が15%、高校生が13%、存在している。

問4 あなたは、祖父母と同居したことがありますか。

1. 現在同居している 2. 過去に同居したことがある 3. 同居したことがない



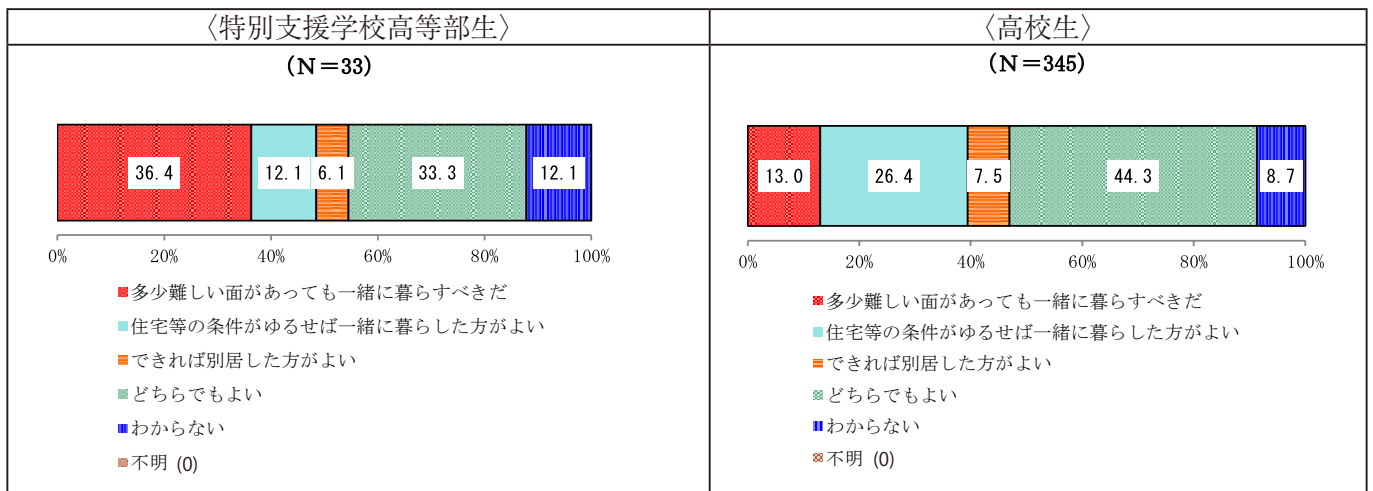
「現在同居している」は30%であり、「過去に同居したことがある」を含めると54%を占めている。

高校生との比較

高校生と比較して、「現在同居している」が5ポイント少ない。全体的な傾向はほぼ同様となっている。

問5 あなたは、あなたの親が祖父母と同居することについてどう考えますか。

1. 多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ 2. 住宅等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい
3. できれば別居した方がよい 4. どちらでもよい 5. わからない



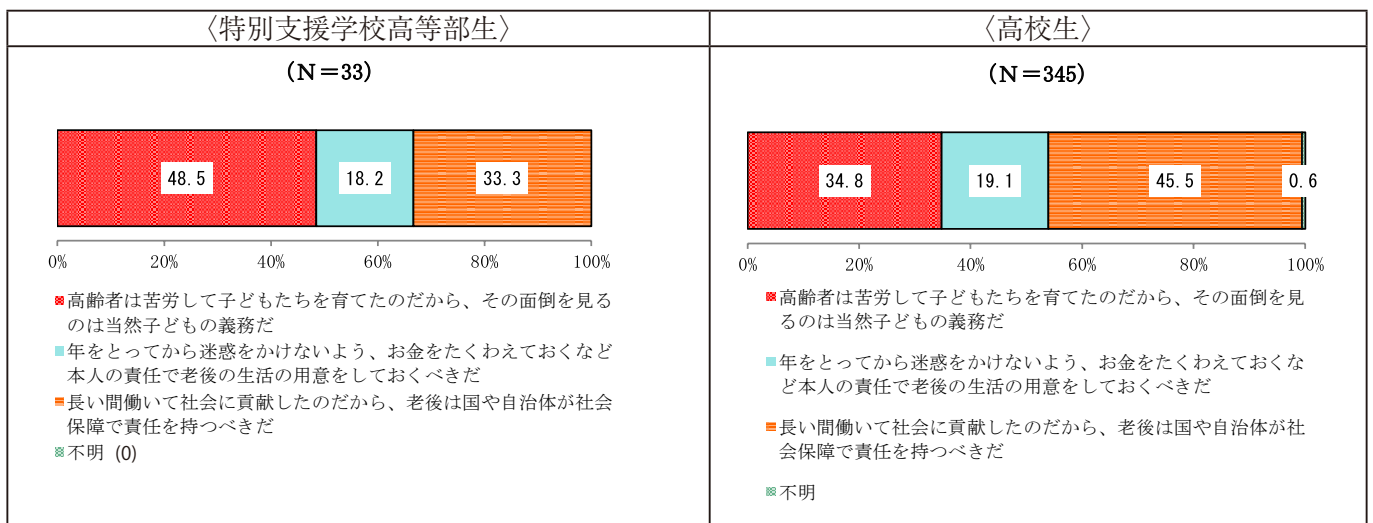
「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」と「住宅等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」を合わせると48%となっている。また、「できれば別居した方がよい」は6%となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」が高校生より23ポイント多く、同居を肯定的に捉える傾向がみられる。また、「住宅等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」は高校生より14ポイント少ない。

問6 高齢者をだれが扶養すべきかについていろいろな意見があります。次にあげた意見のうち、あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

1. 高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ
2. 年をとってから迷惑をかけないよう、お金をたくわえておくなど本人の責任で老後の生活の用意をしておくべきだ
3. 長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任を持つべきだ



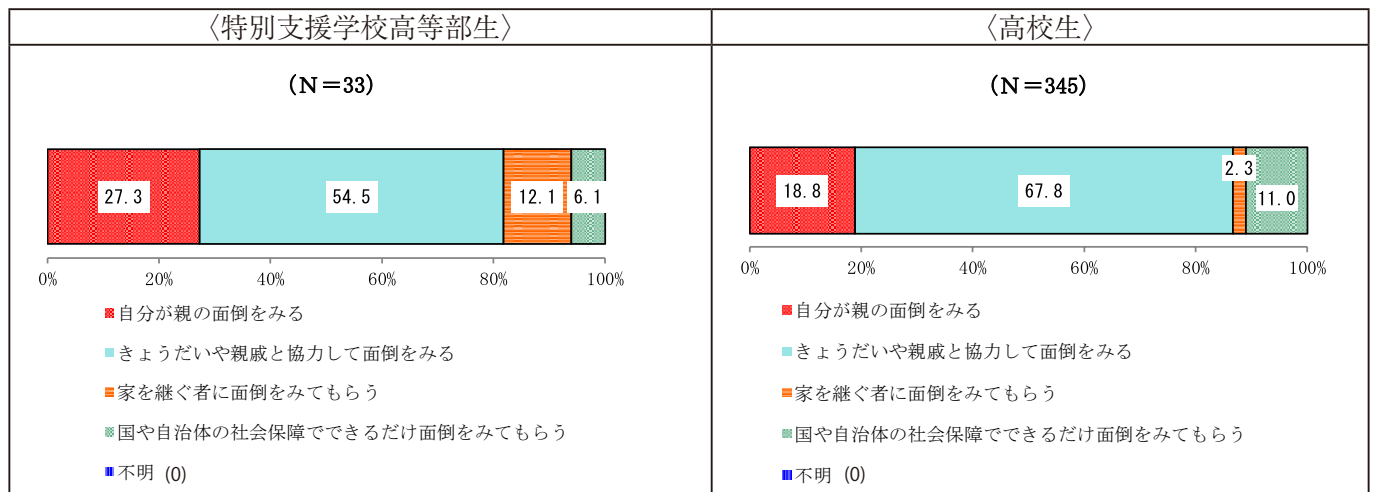
「高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ」が48%と最も多い。次いで、「長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任を持つべきだ」が33%となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、「高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ」が高校生より13ポイント多く、老後の生活をみるのは子どもの責任と捉える傾向がうかがえる。

問7 将来、仮にあなたの親の扶養が必要になった場合、あなたはどうしたいですか。あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

1. 自分が親の面倒をみる
2. きょうだいや親戚と協力して面倒をみる
3. 家を継ぐ者に面倒をみてもらう
4. 国や自治体の社会保障でできるだけ面倒をみてもらう



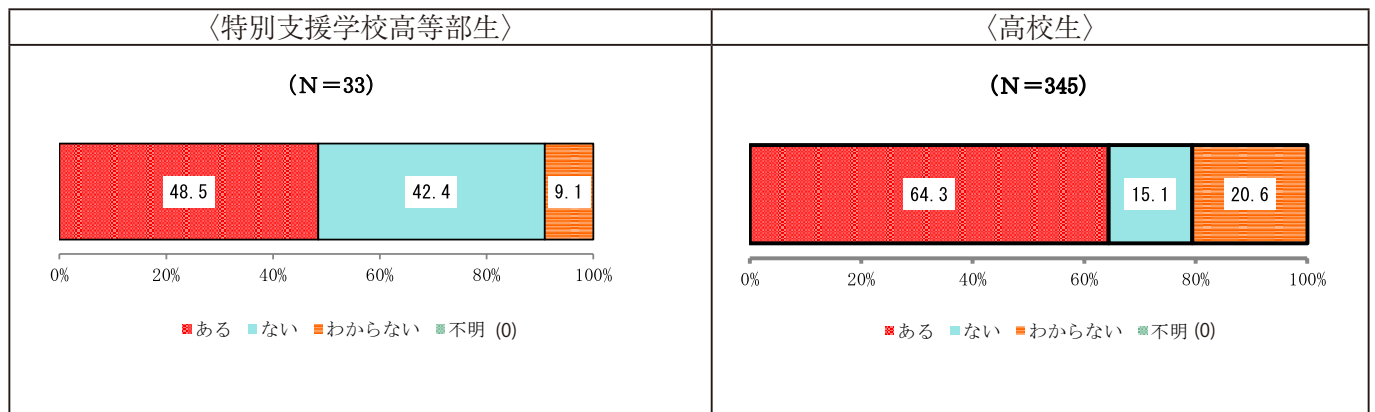
「きょうだいや親戚と協力して面倒をみる」が54%を占め、「国や自治体の社会保障でできるだけ面倒をみてもらう」は6%であった。

高校生との比較

高校生と比較して、「自分が親の面倒をみる」が8ポイント多く、また、「家を継ぐ者に面倒をみてもらう」が9ポイント多い。

問8 あなたは、今までに地域で他の高校生とかかわったことがありますか。

1. ある 2. ない 3. わからない



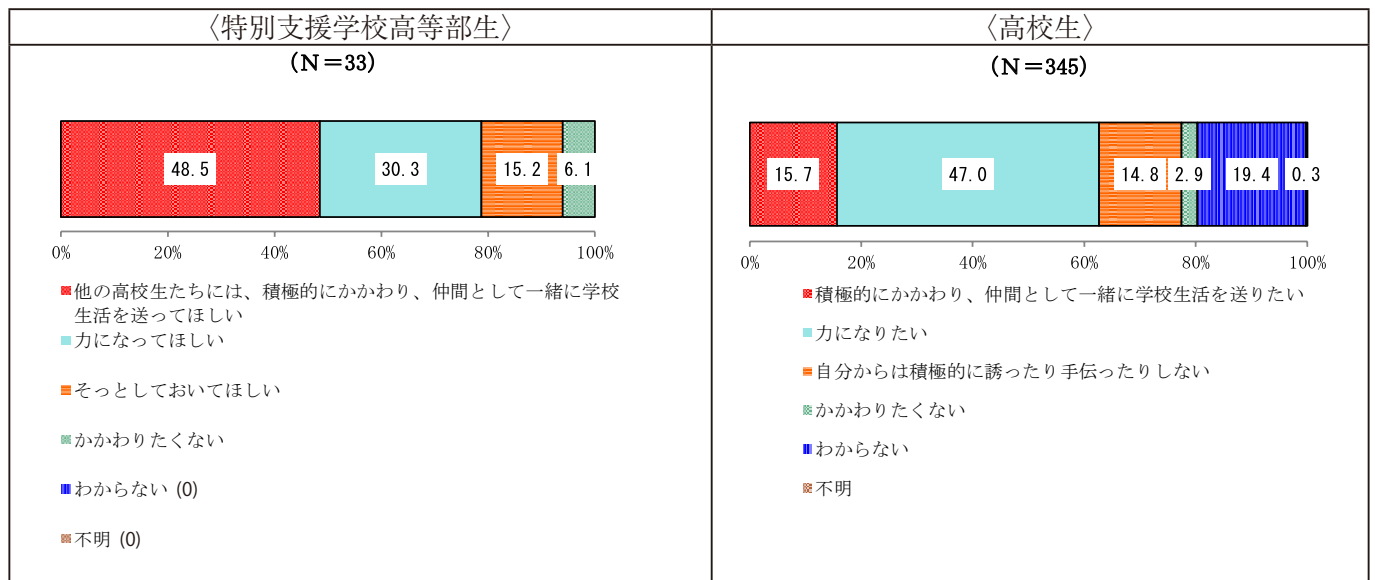
「ある」が48%で最も多い。

高校生との比較

高校生と比較して、「ある」と回答した特別支援学校高等部生は15ポイント少ない。

問9 あなたは、他の高校生たちと一緒に学校生活を送ることについて、どのように感じますか。

1. 他の高校生たちには、積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送ってほしい
 2. 力になってほしい 3. そっとしておいてほしい 4. かかわりたくない
 5. その他



「他の高校生たちには、積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送ってほしい」が48%と最も多く、次いで、「力になってほしい」30%、「そっとしておいてほしい」15%の順となっている。

高校生との比較

この問いに対応する高校生への質問は「あなたは、障がいのある生徒と一緒に学校生活を送ることについて、どのように感じますか。」であるが、障がいのある生徒とのかかわりに肯定的な回答は62%となっている。また、積極的なかかわりを求める特別支援学校高等部生が48%に対し、高校生は15%となっている。

問10 あなたは、身近に差別を感じたり、見聞きしたことがありますか。該当するものをすべて選んでください。

1. 部落差別
2. 障がい者差別
3. 性による差別
4. 外国人差別
5. 経済的理由による差別
6. その他

項目	特別支援学校高等部生		高校生	
	件数	%	件数	%
全 体	33	100.0	345	100.0
1. 部落差別	13	39.4	142	41.2
2. 障がい者差別	20	60.6	245	71.0
3. 性による差別	14	42.4	139	40.3
4. 外国人差別	13	39.4	119	34.5
5. 経済的理由による差別	11	33.3	61	17.7
6. その他	3	9.1	10	2.9
不明	5	15.2	44	12.8

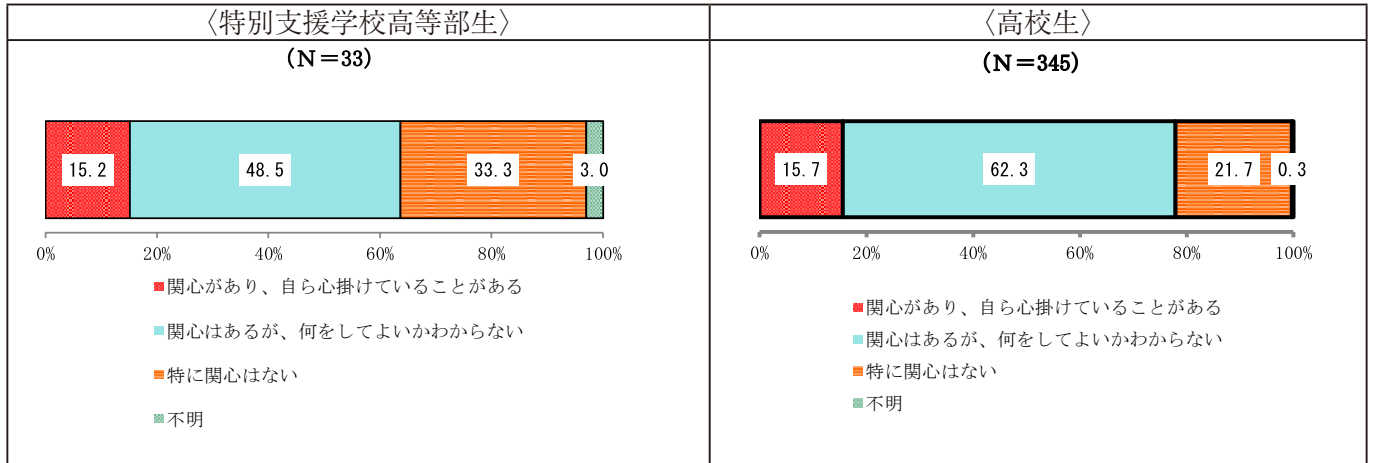
選択率の高いものを挙げると、「障がい者差別」が60%と最も多く、次いで「性による差別」42%、「部落差別」と「外国人差別」39%、「経済的理由による差別」33%の順となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、「障がい者差別」が10ポイント少なく、「経済的理由による差別」は15ポイント多い。

問11 あなたは、地球温暖化や環境汚染、資源やエネルギーの浪費など、環境・資源保護の問題に関心がありますか。

1. 関心があり、自ら心掛けていることがある
2. 関心はあるが、何をしてもよいかわからない
3. 特に関心はない



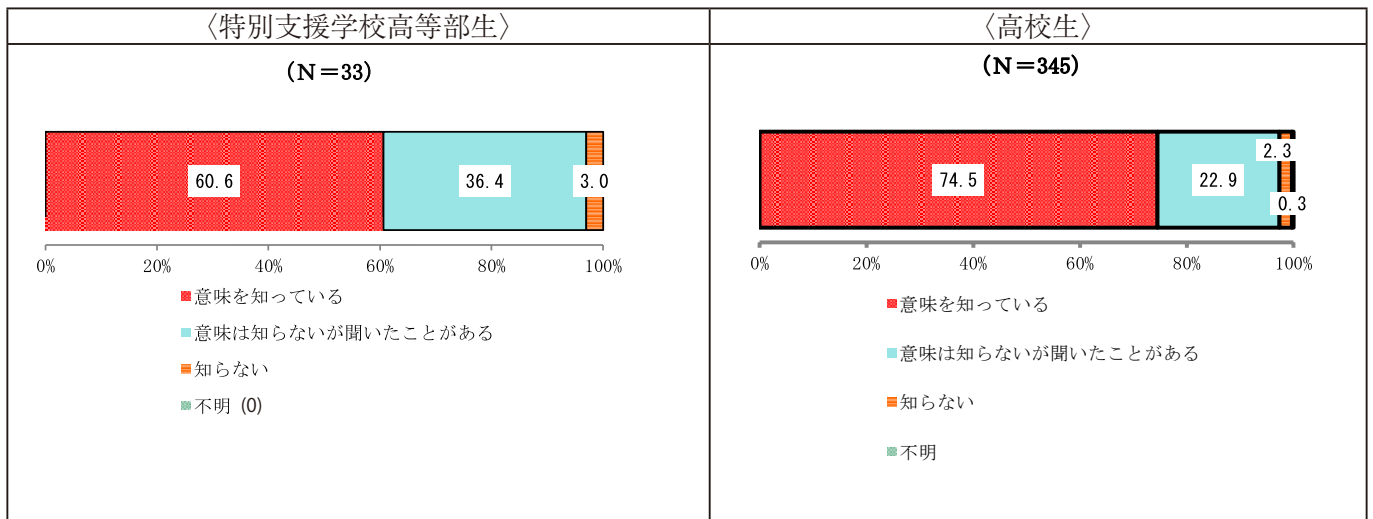
「関心があり、自ら心掛けていることがある」が15%、「関心はあるが、何をしてもよいかわからない」と合わせると63%が、環境・資源保護の問題に関心を持っていることがうかがえる。

高校生との比較

高校生と比較して、「関心はあるが、何をしてもよいかわからない」が13ポイント少なく、「特に関心はない」が11ポイント多い。

問12 あなたは、「ボランティア」という意味を知っていますか。

1. 意味を知っている
2. 意味は知らないが聞いたことがある
3. 知らない



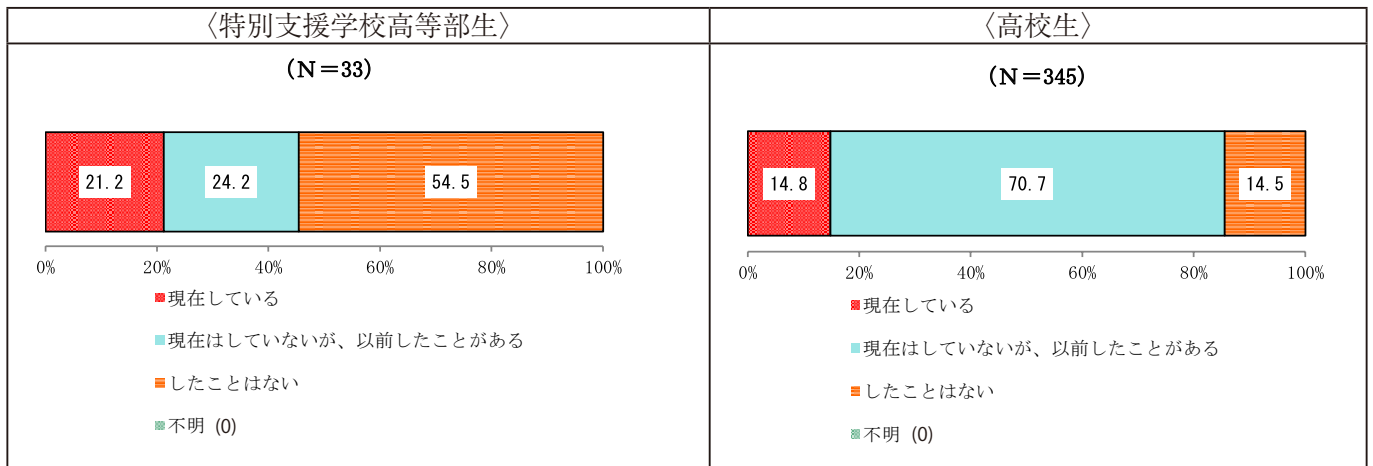
「意味を知っている」が60%と最も多く、「知らない」は3%であった。

高校生との比較

高校生と比較して、全体的にはほぼ同様の傾向を示している。

問13 あなたは、「ボランティア活動」をしたことがありますか。

1. 現在している 2. 現在はしていないが、以前したことがある 3. したことはない



「したことはない」が54%で過半数を占めている。次いで、「現在はしていないが、以前したことがある」24%、「現在している」21%の順となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、「現在はしていないが、以前したことがある」が46ポイントと少なく、活動経験者が少ない傾向がうかがえる。

問13-1 [質問：問13で1. 現在している 2. 現在はしていないが、以前したことがある と答えた人に、それはどんな活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。]

- ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）
- イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動
- ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動
- エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動
- オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動
- カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動
- キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動
- ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動
- ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動
- コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動
- サ. その他

項目	特別支援学校高等部生		高校生	
	件数	%	件数	%
全 体	15	100.0	295	100.0
ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）	2	13.3	122	41.4
イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動	1	6.7	40	13.6
ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動	1	6.7	31	10.5
エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動	7	46.7	139	47.1
オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動	10	66.7	178	60.3
カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動	1	6.7	49	16.6
キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動	3	20.0	75	25.4
ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動	4	26.7	80	27.1
ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動	1	6.7	18	6.1
コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害援助の活動	0	0.0	21	7.1
サ. その他	1	6.7	6	2.0
不明	1	6.7	7	2.4

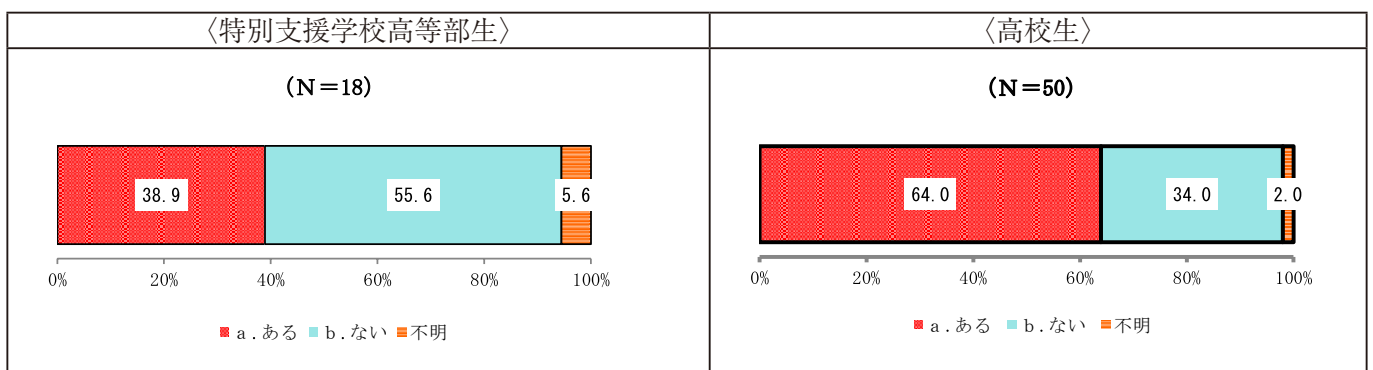
「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」が66%で最も多く、次いで、「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内活動など、地域づくりの活動」が46%となっている。また、「社会福祉施設や病院での活動」は13%となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内活動など、地域づくりの活動」「チャリティバザーや募金などへの協力活動」「収集活動」の割合は同様となっている。また、「施設や病院の活動」は28ポイント少なく、「地震や自然災害による被害の復興や災害援助の活動」と回答した者はいなかった。

問13-2 [質問：問13で3. したことはない と答えた人に、将来、ボランティア活動に参加したい気持ちがありますか。]

- a. ある b. ない



「ない」が55%で過半数を占めている。

高校生との比較

高校生と比較して、「ない」が21ポイント多い。高校生の過半数は「ある」と回答しており、逆の傾向がうかがえる。

問13-3 [理由:上でb. ない と答えた人に、それはどうしてですか。2つ以内で選んでください。]

- ア. 時間的余裕がないから（勉強、クラブ活動など）
- イ. 家族の同意が得られないから
- ウ. 適当な団体やサークルを知らないの、きっかけが得られないから
- エ. ボランティア活動の内容や方法がわからないから
- オ. これらの仕事は、政治や行政の責任であり、私達はその肩代わりをするのはどうかと思うから
- カ. このようなことに関心がないし、また、あまり好きではないから
- キ. その他

項目	特別支援学校高等部生		高校生	
	件数	%	件数	%
全体	10	100.0	17	100.0
ア. 時間的余裕がないから（勉強、クラブ活動等）	2	20.0	5	29.4
イ. 家族の同意が得られないから	0	0.0	0	0.0
ウ. 適当な団体やサークルがないの、きっかけが得られないから	1	10.0	4	23.5
エ. ボランティア活動の内容や方法がわからないから	4	40.0	4	23.5
オ. これらの仕事は、政治や行政の責任であり、私達はその肩代わりをするのはどうかと思うから	1	10.0	5	29.4
カ. このようなことには関心がないし、また、あまり好きでないから	6	60.0	8	47.1
キ. その他	0	0.0	1	5.9
不明	0	0.0	0	0.0

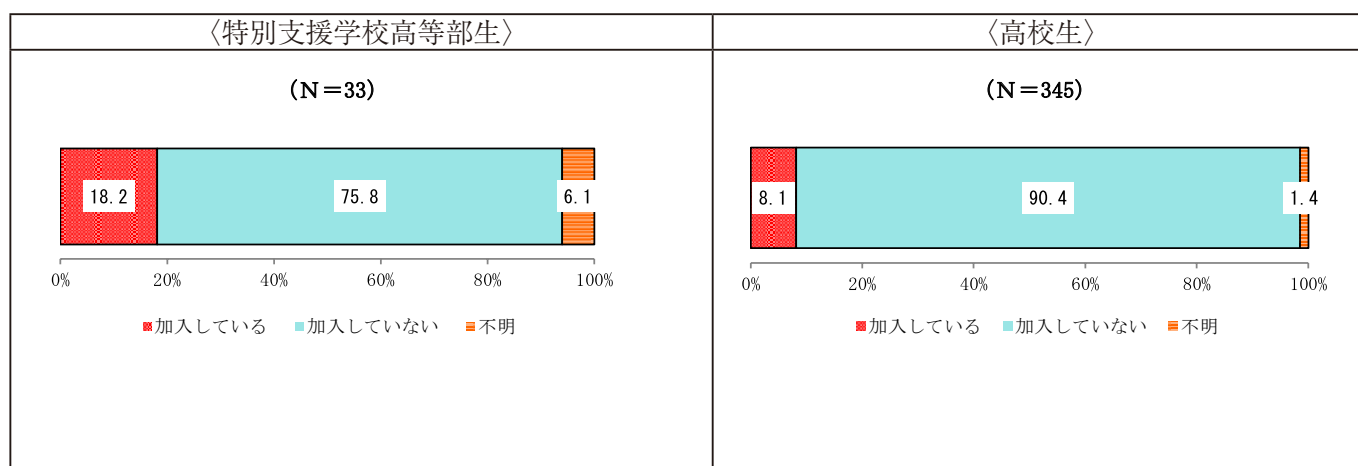
「このようなことには関心がないし、また、あまり好きでないから」が60%と最も多く、次いで、「ボランティア活動の内容や方法がわからないから」40%、「時間的余裕がないから」20%の順となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、「適当な団体やサークルがないの、きっかけが得られないから」「これらの仕事は、政治や行政の責任であり、私達はその肩代わりをするのはどうかと思うから」が10ポイント以上少ない。

問14 あなたは、ボランティア活動に取り組む団体・サークル等に入っていますか（学校内のボランティア部、青少年赤十字（JRC）、インターアクトクラブなども含む）。

- 1. 加入している
- 2. 加入していない



「加入していない」が75%である。

高校生との比較

高校生と比較して、「加入している」が10ポイント多い。

問15 あなたは、現在の学校生活の中で、福祉に関する情報や知識を主に何で得ていますか。2つ以内で選んでください。

- | | | | |
|------------|--------------|------------|------------|
| 1. 授業のなか | 2. 生徒会活動 | 3. クラブ活動 | 4. 先生の話 |
| 5. 友だち・先輩 | 6. 学校新聞・文集など | 7. テレビ・ラジオ | 8. 本や雑誌・新聞 |
| 9. インターネット | 10. その他 | | |

項目	特別支援学校高等部生		高校生	
	件数	%	件数	%
全体	33	100.0	345	100.0
1. 授業のなか	17	51.5	150	43.5
2. 生徒会活動	1	3.0	17	4.9
3. クラブ活動	2	6.1	15	4.3
4. 先生の話	8	24.2	119	34.5
5. 友だち・先輩	3	9.1	14	4.1
6. 学校新聞・文集など	1	3.0	9	2.6
7. テレビ・ラジオ	10	30.3	114	33.0
8. 本や雑誌・新聞	2	6.1	45	13.0
9. インターネット	3	9.1	69	20.0
10. その他	2	6.1	6	1.7
不明	1	3.0	4	1.2

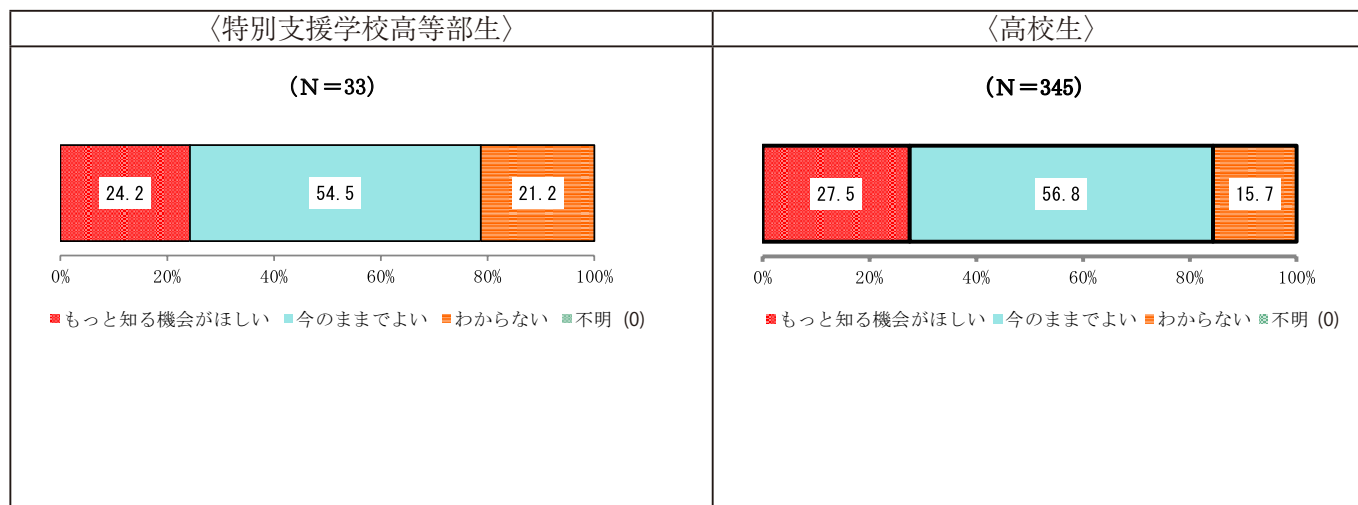
「授業のなか」が51%と過半数を占めている。次いで、「テレビ・ラジオ」30%、「先生の話」24%の順となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、全体的な傾向はほぼ同様であるが、「インターネット」は高校生が20%なのに対し、特別支援学校高等部生は9%と少ない。

問16 あなたは、学校で福祉について、もっと知る機会があればよいと思いますか。

1. もっと知る機会がほしい 2. 今のままでよい 3. わからない



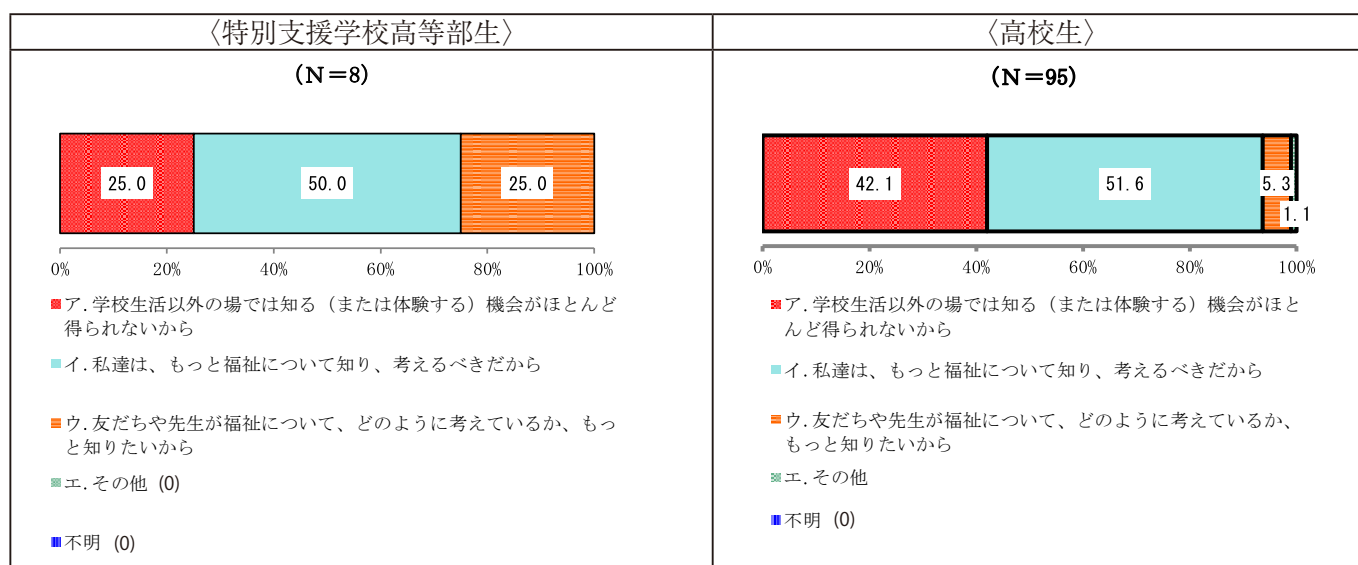
「今のままでよい」が54%と過半数を占めている。

高校生との比較

高校生と比較して、全体的な傾向はほぼ同様の結果となっている。

問16-1 [理由：上で1. もっと知る機会がほしい と答えた人に、それはどうしてですか。]

- ア. 学校生活以外の場では知る（または体験する）機会がほとんど得られないから
- イ. 私達は、もっと福祉について知り、考えるべきだから
- ウ. 友だちや先生が福祉について、どのように考えているか、もっと知りたいから
- エ. その他



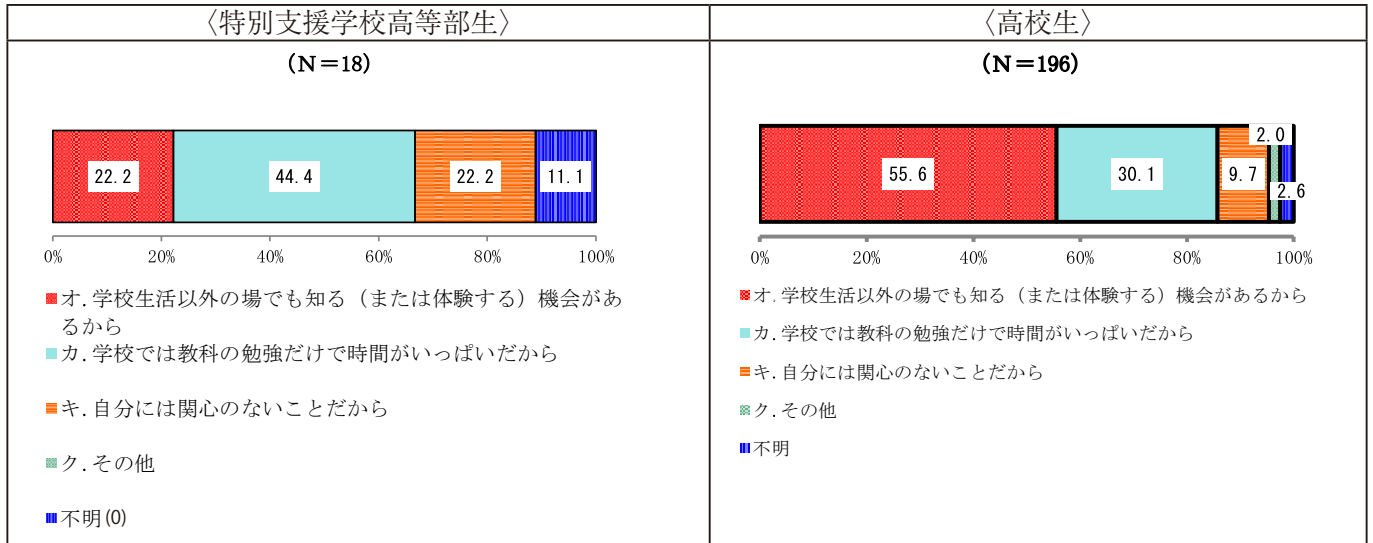
「私達は、もっと福祉について知り、考えるべきだから」が50%と最も多くなっている。また、「学校生活以外の場では知る機会がほとんど得られないから」「友だちや先生が福祉について、どのように考えているか、もっと知りたいから」はそれぞれ25%となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、「学校生活以外の場でも知る機会がほとんど得られないから」は17ポイント少なく、「友だちや先生が福祉について、どのように考えているか、もっと知りたいから」は19ポイント多い。

問16-2 [理由：上で2.今のままでよいと答えた人に、それはどうしてですか。]

- オ. 学校生活以外の場でも知る（または体験する）機会があるから
- カ. 学校では教科の勉強だけで時間がいっぱいだから
- キ. 自分には関心のないことだから
- ク. その他



「学校では教科の勉強だけで時間がいっぱいだから」が44%と最も多く、次いで、「学校生活以外の場でも知る機会があるから」22%、「自分には関心のないことだから」22%となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、「学校生活以外の場でも知る機会があるから」が33ポイント少ない。

問17 あなたが、次のことばの中で、知っているものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|----------------------|-----------------|--------------|
| 1. 点字 | 2. 手話 | 3. 特別支援学校（養護学校） | 4. 保育所 |
| 5. 児童養護施設 | 6. 特別養護老人ホーム | 7. 母子生活支援施設 | 8. 障がい者支援施設 |
| 9. 児童相談所 | 10. 福祉事務所 | 11. 社会福祉協議会 | 12. 国民年金 |
| 13. 健康保険 | 14. 生活保護 | 15. 介護保険 | 16. あいサポート運動 |
| 17. インクルージョン | | 18. ノーマライゼーション | 19. バリアフリー |
| 20. UD（ユニバーサルデザイン） | | 21. リハビリテーション | |
| 22. 民生委員・児童委員 | | 23. 老人クラブ | |
| 24. ホームヘルパー（訪問介護員） | | 25. デイサービスセンター | |
| 26. 介護福祉士 | 27. ソーシャルワーカー（社会福祉士） | | 28. ケースワーカー |
| 29. 子どもの権利条約 | | 30. 児童憲章 | |

項目	特別支援学校高等部生		高校生	
	件数	%	件数	%
全体	33	100.0	345	100.0
1.点字	25	75.8	322	93.3
2.手話	31	93.9	333	96.5
3.特別支援学校(養護学校)	32	97.0	307	89.0
4.保育所	25	75.8	309	89.6
5.児童養護施設	18	54.5	268	77.7
6.特別養護老人ホーム	20	60.6	212	61.4
7.母子生活支援施設	7	21.2	113	32.8
8.障がい者支援施設	15	45.5	233	67.5
9.児童相談所	23	69.7	281	81.4
10.福祉事務所	11	33.3	115	33.3
11.社会福祉協議会	17	51.5	149	43.2
12.国民年金	21	63.6	280	81.2
13.健康保険	21	63.6	264	76.5
14.生活保護	15	45.5	279	80.9
15.介護保険	15	45.5	250	72.5
16.あいサポート運動	17	51.5	112	32.5
17.インクルージョン	3	9.1	42	12.2
18.ノーマライゼーション	2	6.1	194	56.2
19.バリアフリー	20	60.6	294	85.2
20.UD(ユニバーサルデザイン)	19	57.6	284	82.3
21.リハビリテーション	14	42.4	231	67.0
22.民生委員・児童委員	6	18.2	93	27.0
23.老人クラブ	10	30.3	173	50.1
24.ホームヘルパー(訪問介護員)	15	45.5	247	71.6
25.デイサービスセンター	19	57.6	246	71.3
26.介護福祉士	23	69.7	258	74.8
27.ソーシャルワーカー(社会福祉士)	4	12.1	182	52.8
28.ケースワーカー	2	6.1	84	24.3
29.子どもの権利条約	7	21.2	218	63.2
30.児童憲章	4	12.1	124	35.9
不明	1	3.0	6	1.7

90%以上が知っているとは回答したものは、「手話」「特別支援学校」、70%以上が知っているものとしては「点字」「保育所」であった。一方で、10%未満しか知られていないものとして「インクルージョン」「ノーマライゼーション」「ケースワーカー」が挙げられる。

高校生との比較

高校生と比較して、20ポイント以上少ないのは、「生活保護」「介護保険」「ホームヘルパー」「UD(ユニバーサルデザイン)」「バリアフリー」「リハビリテーション」「児童憲章」「児童養護施設」「障がい者支援施設」となっている。中でも、「ノーマライゼーション」「子どもの権利条約」「ソーシャルワーカー」は40ポイント以上少ない。

問18 あなたは、将来どのような生き方をしたいと思いますか。次の項目の中から、あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 人のために役立つような生き方をしたい | 2. 健康で楽しい生活を送りたい |
| 3. 好きな人と結婚して、楽しく暮らしたい | 4. 世の中を良くするために働きたい |
| 5. 努力して出世したい | 6. 困らない程度の生活が送ればよい |
| 7. 金持ちや有名人になりたい | 8. その他 |

項目	特別支援学校高等部生		高校生	
	件数	%	件数	%
全体	33	100.0	345	100.0
人のために役立つような生き方をしたい	2	6.1	93	27.0
健康で楽しい生活を送りたい	14	42.4	141	40.9
好きな人と結婚して、楽しく暮らしたい	9	27.3	51	14.8
世の中を良くするために働きたい	0	0.0	8	2.3
努力して出世したい	1	3.0	5	1.4
困らない程度の生活が送ればよい	7	21.2	37	10.7
金持ちや有名人になりたい	0	0.0	5	1.4
その他	0	0.0	0	0.0
不明	0	0.0	5	1.4

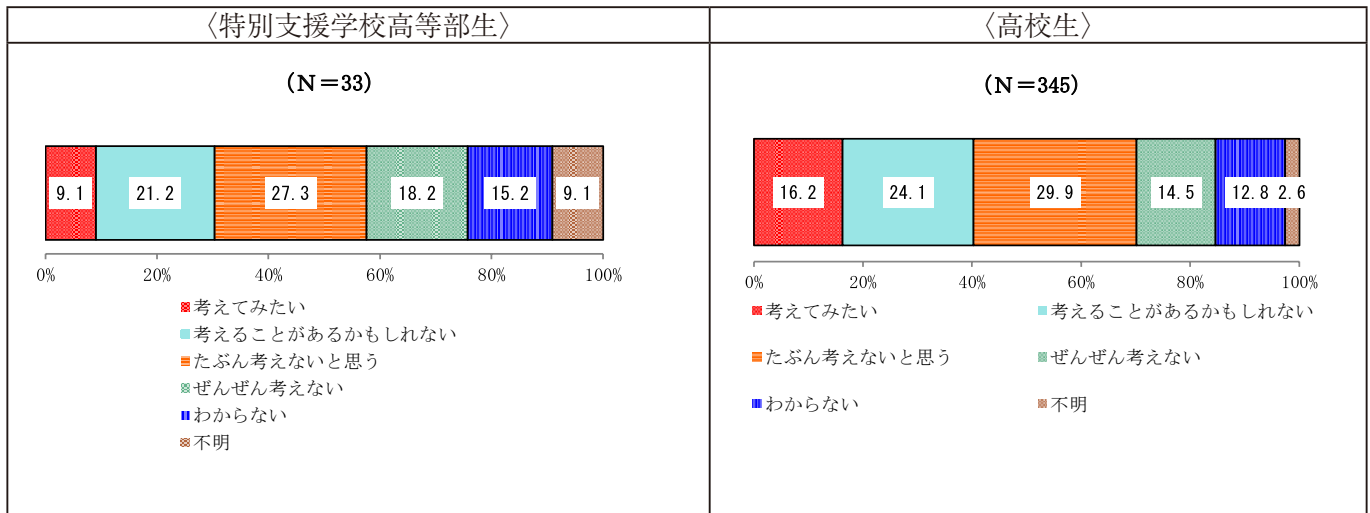
「健康で楽しい生活を送りたい」が42%と最も多く、次いで「好きな人と結婚して楽しく暮らしたい」27%、「困らない程度の生活が送ればよい」21%の順となっている。

高校生との比較

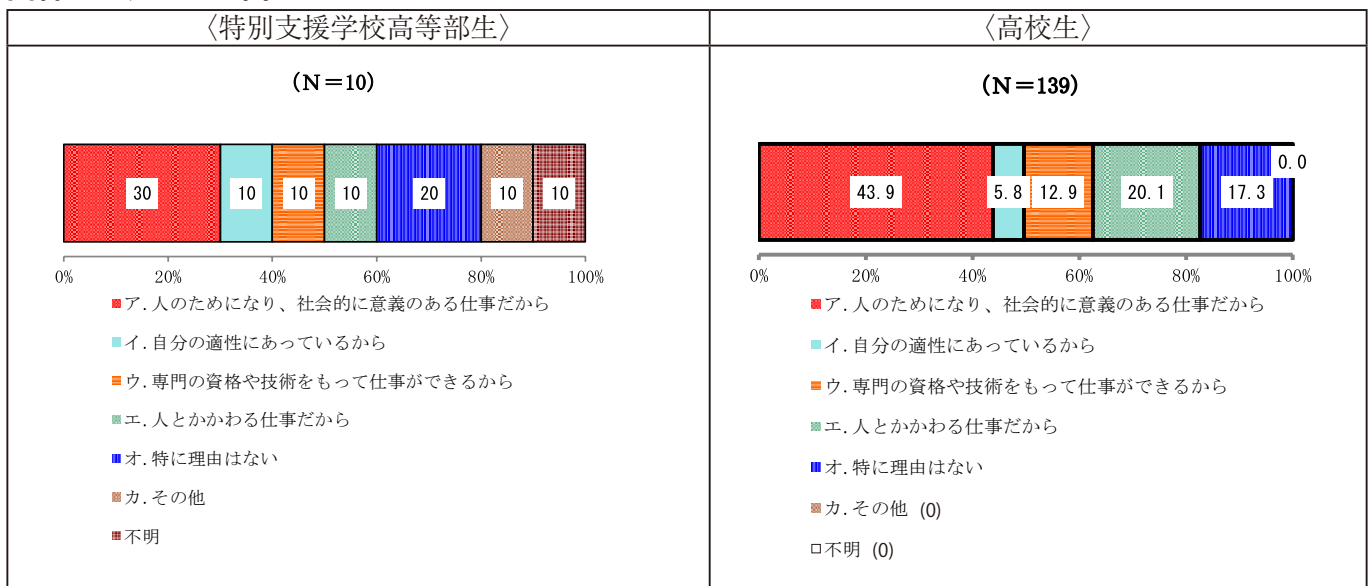
高校生と比較して、「人のために役立つような生き方をしたい」が20ポイント少ない。また、「好きな人と結婚して楽しく暮らしたい」「困らない程度の生活が送ればよい」が10ポイント多い。

問19 あなたが、これから就職を考える場合、就職先として、社会福祉施設（保育所、障がい児施設、児童養護施設、老人ホームなど）や在宅福祉（ホームヘルプサービス）などの福祉の仕事を対象のひとつとして考えることができますか。

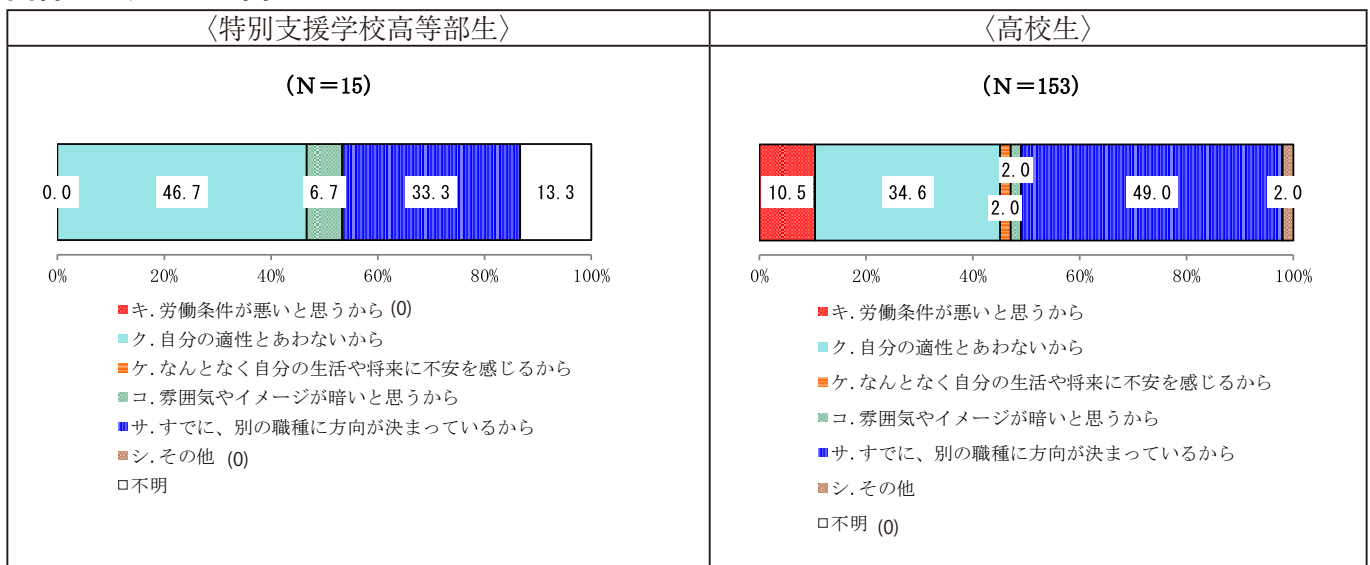
質問項目	その理由
1. 考えてみたい 2. 考えることがあるかもしれない	ア. 人のためになり、社会的に意義のある仕事だから イ. 自分の適性にあっているから ウ. 専門の資格や技術をもって仕事ができるから エ. 人とかかわる仕事だから オ. 特に理由はない カ. その他
3. たぶん考えないと思う 4. ぜんぜん考えない	キ. 労働条件が悪いと思うから ク. 自分の適性とあわないから ケ. なんとなく自分の生活や将来に不安を感じるから コ. 雰囲気やイメージが暗いと思うから サ. すでに、別の職種に方向が決まっているから シ. その他
5. わからない	



回答 1、2の理由



回答 3、4の理由



「考えてみたい」が9%、「考えることがあるかもしれない」が21%であり、福祉の職場への就職を考慮している者は合わせて30%である。また、「たぶん考えないと思う」「ぜんぜん考えない」を合わせると33%存在している。

「考える」理由として「人のためになり、社会的に意義のある仕事だから」が30%存在している。一方で、「考えない」理由として「自分の適性があわないから」が46%、「すでに別の職種に方向が決まっているから」が33%となっている。

高校生との比較

高校生と比較して、福祉の仕事を対象として考える傾向は全体的に同じである。「考える」理由では「人のためになり、社会的に意義のある仕事だから」「人とかかわる仕事だから」が10ポイント以上少ない。一方で、「考えない」理由では「労働条件が悪いと思うから」「何となく自分の生活や将来に不安を感じるから」と回答した者はいなかった。

保護者の部

《保護者の部》

問1 あなたは、「福祉」ということばを聞いて、どのようなイメージをもたれますか。いちばん近いものを選んでください。

1. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
2. すべての国民を対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
3. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと
4. すべての国民を対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと

今回調査			前回調査	
項目	件数	%		
全 体	581	100.0	<p>(データラベルは%)</p>	
1. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと	108	18.6		
2. すべての国民を対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと	76	13.1		
3. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと	125	21.5		
4. すべての国民を対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと	270	46.5		
不明	2	0.3		

この設問では、「福祉」のイメージを2つのカテゴリーの組み合わせにより、4項目設定している。第1のカテゴリーは福祉対象を「児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）など」に限定するのか（選択肢1、3）「すべての国民」として限定しないか（選択肢2、4）というものである。第2のカテゴリーは、福祉主体および福祉サービスを「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」とするか（選択肢1、2）、「行政や施設、住民などすべてが協力して取り組む」（選択肢3、4）とするかというものである。

まず、福祉対象は限定して捉える者が40%、限定せずに捉える者が59%であり、限定せずに捉える傾向がうかがえた。

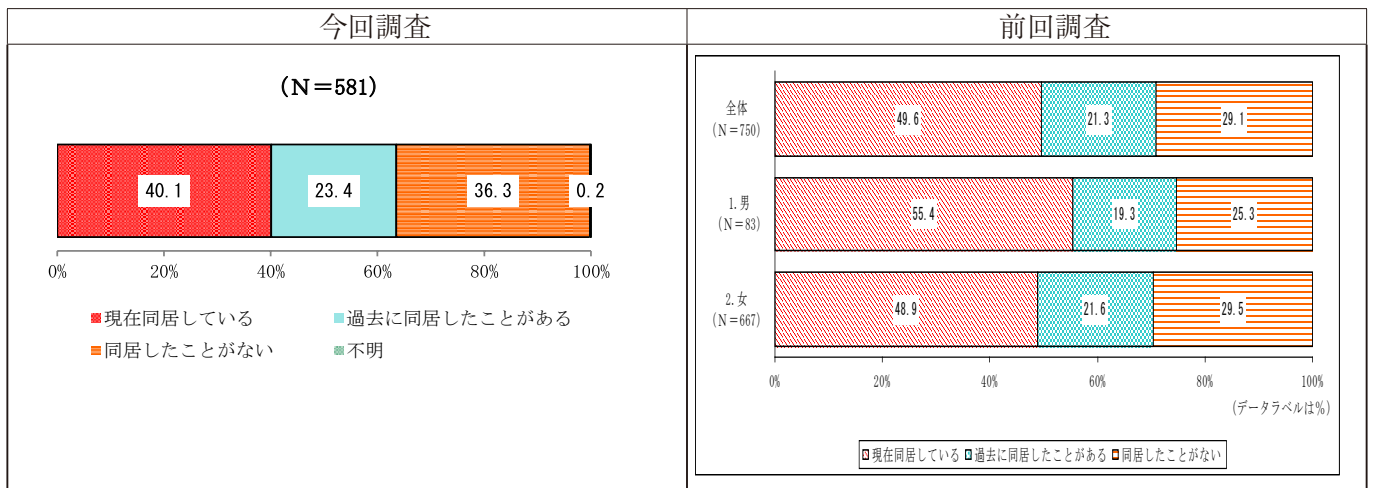
つぎに、福祉提供主体は「国や自治体が最低限の生活を保障する」が31%、「行政や施設、住民などすべてが協力して取り組む」が68%であり、すべてが協力して取り組むイメージの割合が多くを占めている。

前回調査との比較

前回と比較して、傾向に変化はみられない。依然として選択肢4の「すべての国民を対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと」という福祉イメージの割合が最も多く占めている。

問2 あなたは、子どもの誕生後に両親や祖父母と同居したことがありますか。

1. 現在同居している
2. 過去に同居したことがある
3. 同居したことがない



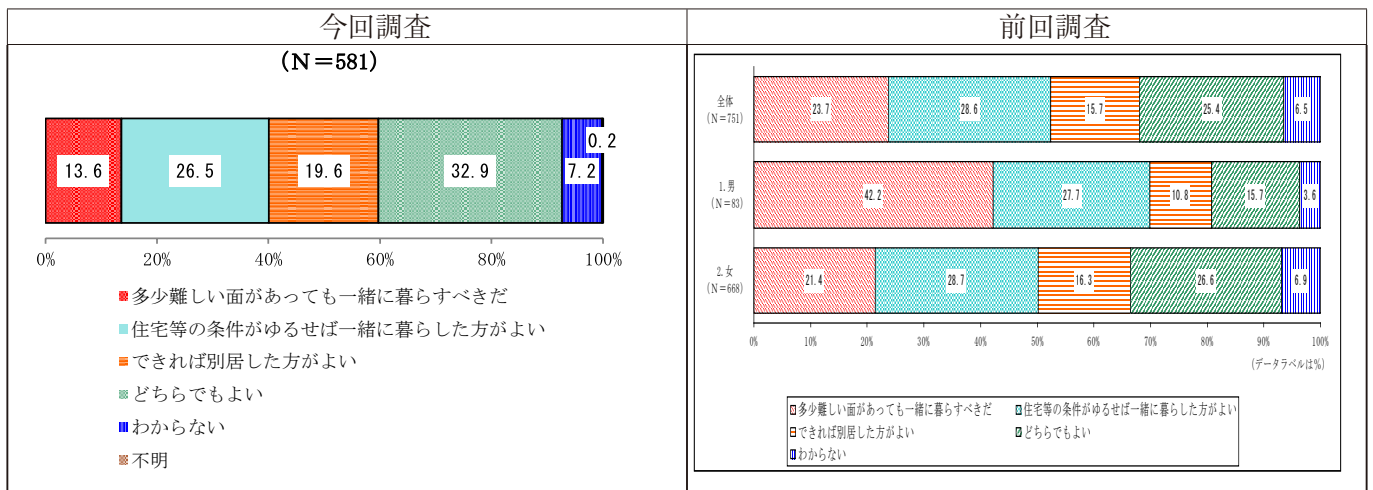
「現在同居している」が40%と最も多いが、「同居したことがない」も36%となっている。なお、「過去に同居したことがある」を含めると63%が同居を経験していることがうかがえる。

前回調査との比較

前回と比較して、前回調査は結婚後の同居状況について問い、今回調査は子どもの誕生後の同居状況について問うており、設問に変化があるため単純に比較はできないが、「現在同居している」が9ポイント低下している。一方で、「同居したことがない」が7ポイント上昇しており、別居志向が高まっていることがうかがえる。

問3 あなたは、両親や祖父母との同居についてどう考えますか。

1. 多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ
2. 住宅等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい
3. できれば別居した方がよい
4. どちらでもよい
5. わからない



「どちらでもよい」が32%と最も多い。次いで、「住居等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」が26%、「できれば別居した方がよい」が19%、「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」が13%の順となっている。

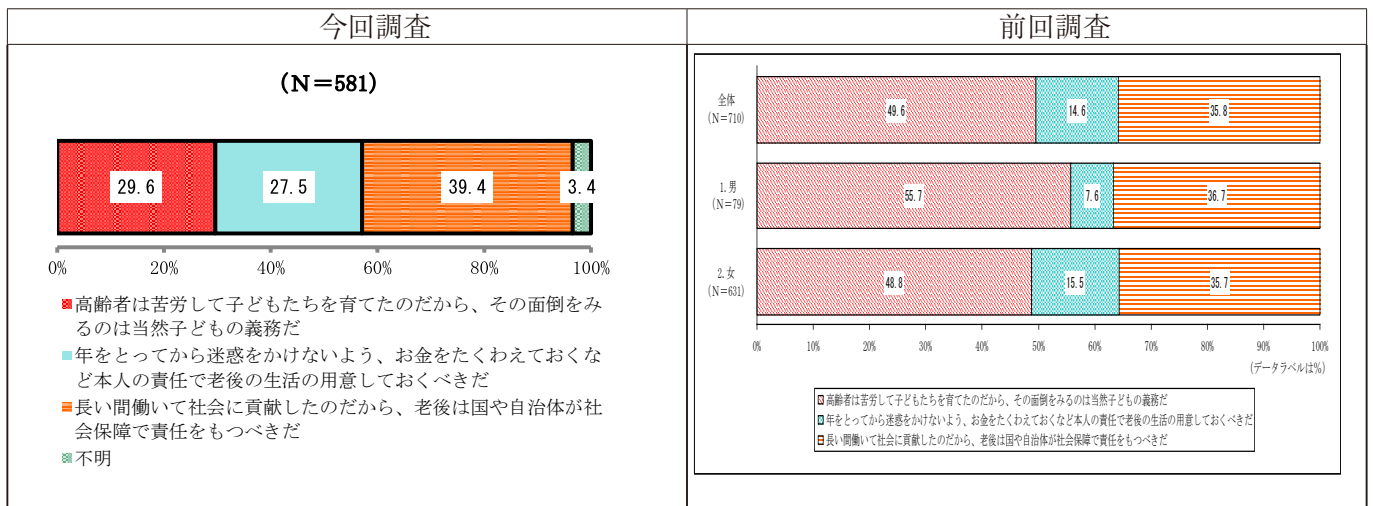
「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」と「住居等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」をあわせた同居に肯定的な意見は約4割となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「どちらでもよい」が7ポイント上昇し、「できれば別居した方がよい」が3ポイント上昇している。一方で、「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」と「住居等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」をあわせた同居に肯定的な意見は12ポイント低下しており、別居志向が高まっていることがうかがえる。

問4 高齢者をだれが扶養すべきかについていろいろな意見があります。あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

1. 高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ
2. 年をとってから迷惑をかけないように、お金をたくわえておくなど本人の責任で老後の生活の用意しておくべきだ
3. 長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任をもつべきだ



「長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任をもつべきだ」が39%と最も多い。次いで、「高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ」が29%、「年をとってから迷惑をかけないように、お金をたくわえておくなど本人の責任で老後の生活を用意しておくべきだ」が27%の順となっている。

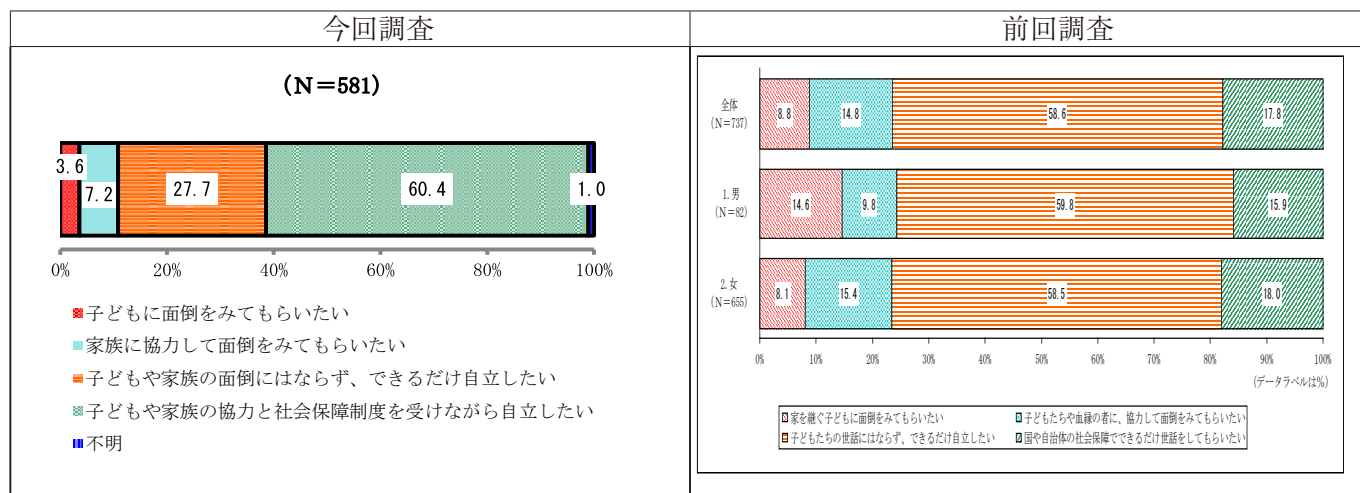
前回調査との比較

前回と比較して、「高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ」が20ポイント低下している。一方で、「年をとってから迷惑をかけないように、お金をたくわえておくなど本人の責任で老後の生活を用意しておくべきだ」が12ポイント上昇し、「長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任をもつべきだ」が3ポイント上昇している。

老後に対する子どもの責任への志向が低下し、高齢者の個人責任を求める傾向が高まるとともに、社会保障の責任への志向が若干高まりをみせている。

問5 将来、仮にあなた自身の扶養が必要になった場合、あなたはどのようにしたいと思いますか。あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

1. 子どもに面倒をみてもらいたい
2. 家族に協力して面倒をみてもらいたい
3. 子どもや家族の面倒にはならず自立したい
4. 子どもや家族の協力と社会保障制度を受けながら自立したい



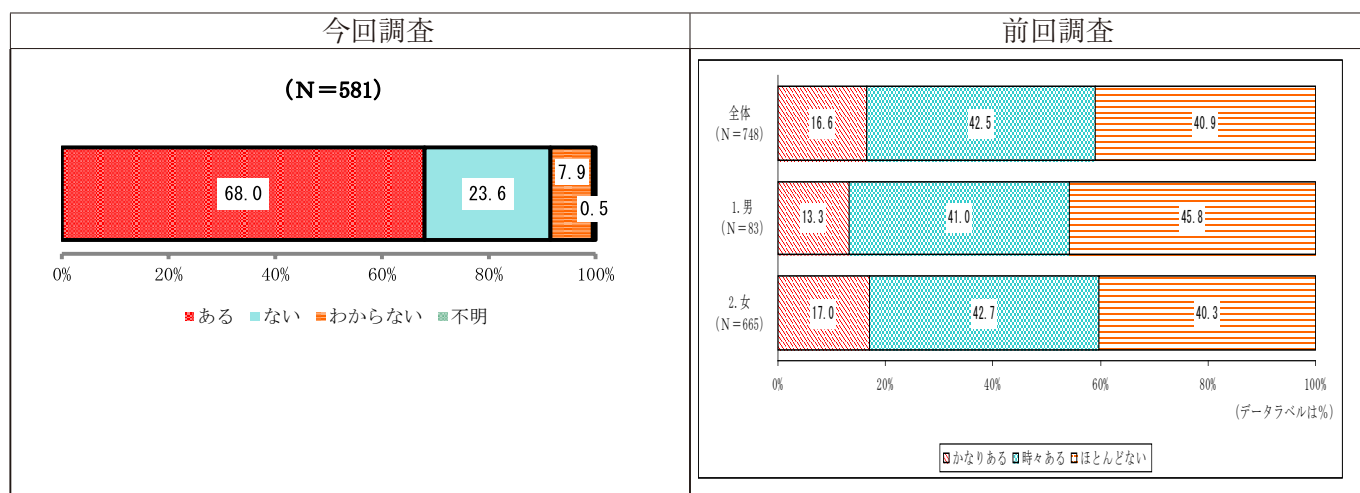
「子どもや家族の協力と社会保障制度を受けながら自立したい」が60%と最も多い。次いで、「子どもや家族の面倒にはならず、できるだけ自立したい」が27%、「家族に協力して面倒をみてもらいたい」が7%、「子どもに面倒をみてもらいたい」が3%の順になっている。

前回調査との比較

前回と比較して、前回調査から選択肢の文言に変化があるため、単純に比較はできないが、「子どもや家族の面倒にはならず、できるだけ自立したい」は30ポイント低下しており、周りの環境や社会保障制度をうまく活用しながら自立した生活を望む傾向がうかがえる。

問6 あなたは、今までに地域で障がいのある人とかかわったことがありますか。

1. ある
2. ない
3. わからない



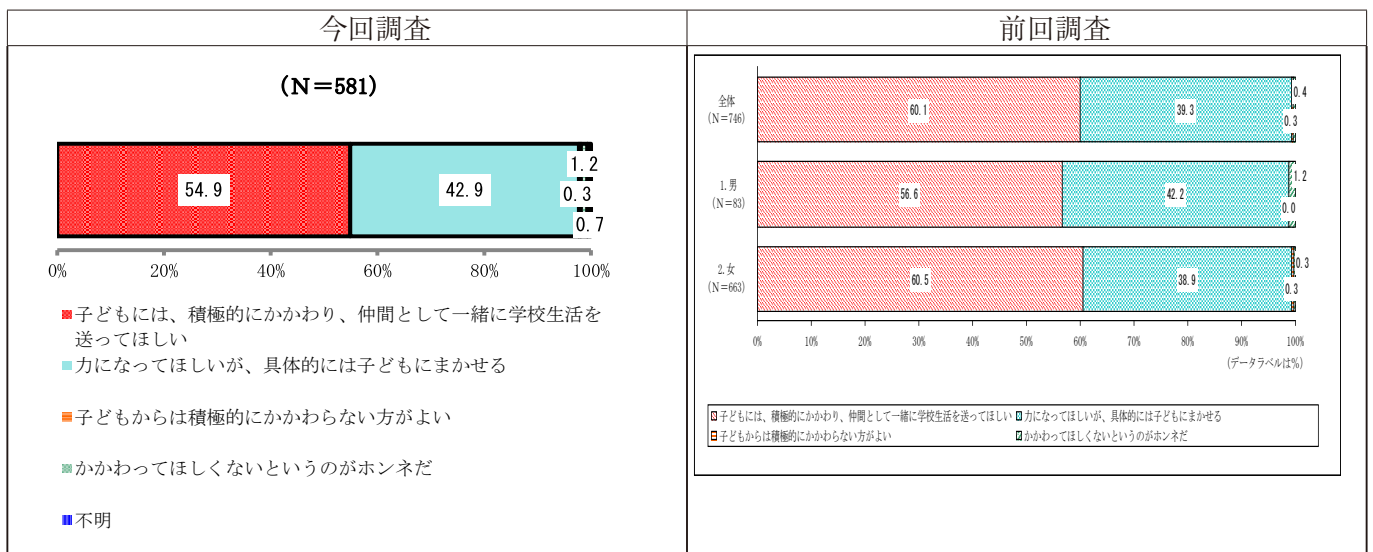
「ある」が68%、「ない」が23%となっており、約7割が何らかの形で障がいのある人にかかわった経験がある。一方で、「わからない」と回答した者は7%存在している。

前回調査との比較

前回調査からは設問および選択肢の文言の双方に変化があるため、比較が困難である。

問7 あなたは、あなたの子どもが障がいのある生徒と一緒に学校生活をするについてどのように感じますか。

1. 子どもには、積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送ってほしい
2. 力になってほしいが、具体的には子どもにまかせる
3. 子どもからは積極的にかかわらない方がよい
4. かかわってほしくないというのがホンネだ



「子どもには、積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送ってほしい」が54%と最も多く、次いで、「力になってほしいが、具体的には子どもにまかせる」が42%となっている。一方で、「子どもからは積極的にかかわらない方がよい」「かかわってほしくないというのがホンネだ」は双方合わせて1%台であり、障がいのある子どもとの交流に否定的な意見の割合は少ない。

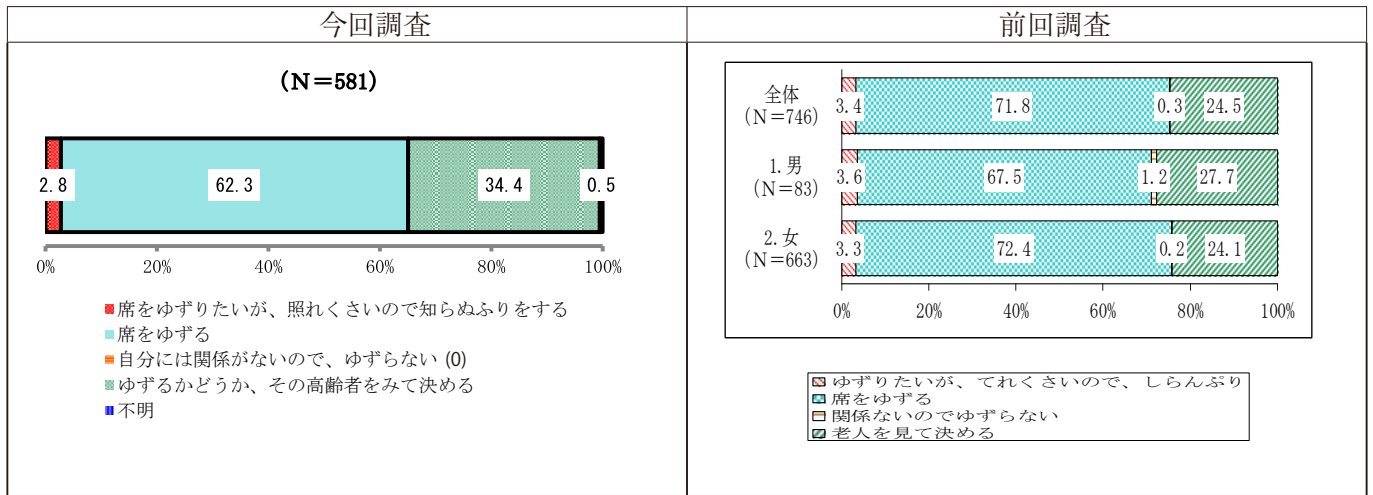
前回調査との比較

前回と比較して、「子どもには、積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送ってほしい」が5ポイント低下している。一方で、「力になってほしいが、具体的には子どもにまかせる」が3ポイント上昇しており、子どもの自主性にゆだねる傾向が若干高まっている。

問8 あなたが満席のバスや列車に乗っているとします。その時、高齢者が乗ってきました。あなたはちょっと体が疲れていました。そんな時あなたならどんな行動をしますか。

[a. 自分一人のとき]

1. 席をゆずりたいが、照れくさいので知らぬふりをする
2. 席をゆずる
3. 自分には関係がないので、ゆずらない
4. ゆずるかどうか、その高齢者をみて決める



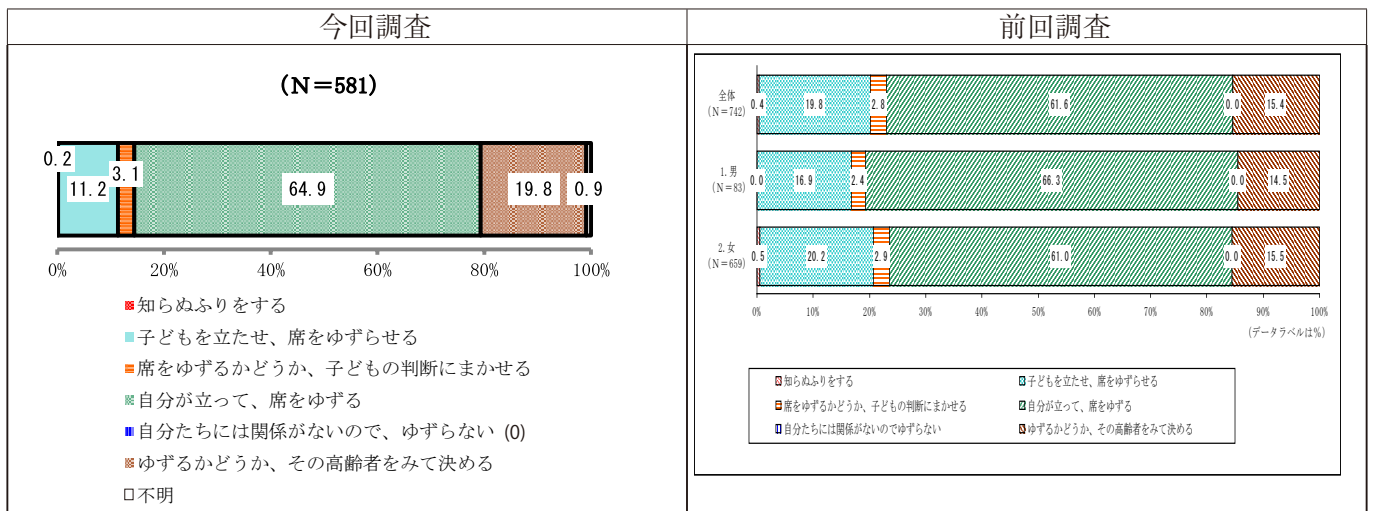
「席をゆずる」が62%と最も多い。次いで、「ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める」が34%となっている。一方で、「席をゆずりたいが、照れくさいので知らないふりをする」は2%台となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、設問に「あなたはちょっと体が疲れていました。」という条件が追加されているためか、「席をゆずる」は9ポイント低下し、「ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める」が9ポイント上昇している。

〔b. 子どもと一緒にとき〕

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 知らぬふりをする | 2. 子どもを立たせ、席をゆずらせる |
| 3. 席をゆずるかどうか、子どもの判断にまかせる | 4. 自分が立って、席をゆずる |
| 5. 自分たちには関係がないので、ゆずらない | 6. ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める |



「自分が立って、席をゆずる」が64%と最も多い。次いで、「ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める」が19%、「子どもを立たせ、席をゆずらせる」が11%となっている。

なお、自分一人のときに比べ子どもが一緒のときは「席をゆずる」が上昇傾向にあり、「知らぬふりをする」は低下傾向にある。

前回調査との比較

前回と比較して、傾向に変化はみられないが、「自分が立って、席をゆずる」が3ポイント上昇し、「子どもを立たせ、席をゆずらせる」は8ポイント低下している。

問9 あなたは、身近に差別を感じたり、見聞きしたことがありますか。該当するものをすべて選んでください。

1. 部落差別
2. 障がい者差別
3. 性による差別
4. 外国人差別
5. 経済的理由による差別
6. その他

今回調査			前回調査	
項目	件数	%	項目	%
全 体	581	100.0	1. 部落差別	77.1
1. 部落差別	322	55.4	2. 障がい者差別	52.6
2. 障がい者差別	290	49.9	3. 男女差別	62.7
3. 性による差別	217	37.3	4. 人種差別	36.0
4. 外国人差別	161	27.7	5. 貧富による差別	35.8
5. 経済的理由による差別	150	25.8	6. 職場内差別	40.6
6. その他	40	6.9	7. その他	5.9
不明	102	17.6		

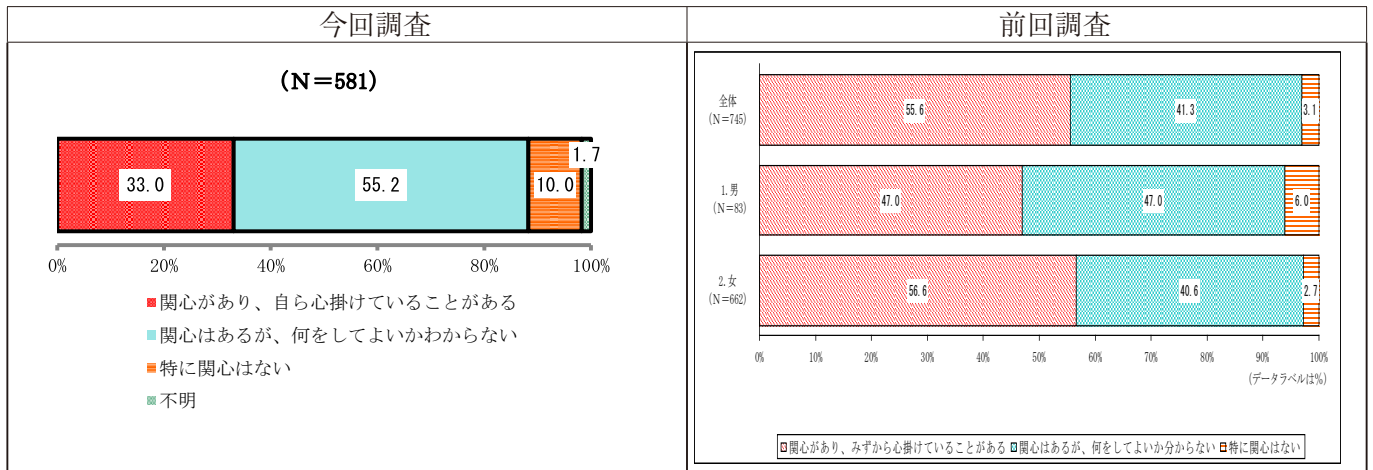
「部落差別」が55%と最も多い。次いで、「障がい者差別」が49%、「性による差別」が37%、「外国人差別」が27%、「経済的理由による差別」が25%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「部落差別」を見聞きしたことのある割合が21ポイント低下している。前回調査から選択肢の文言に変化があるため単純に比較できないが、そのほかの差別に関しては見聞きしたことのある割合が低下傾向にある様子がうかがえる。

問10 あなたは、地球温暖化や環境汚染、資源やエネルギーの浪費など、環境・資源保護の問題に関心がありますか。

1. 関心があり、自ら心掛けていることがある
2. 関心はあるが、何をしてもよいかわからない
3. 特に関心はない



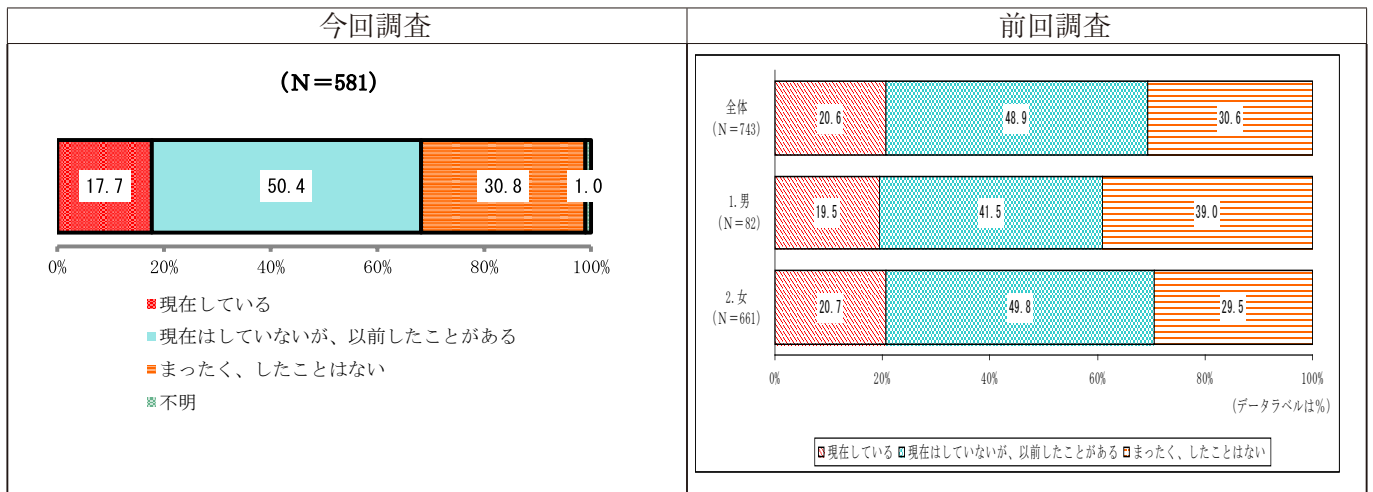
「関心はあるが、何をしてもよいか分からない」が55%と最も多い。次いで、「関心があり、自ら心掛けていることがある」が33%、「特に関心はない」が10%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、傾向に変化がみられる。環境・資源保護に関する具体的な取り組みを行う「関心があり、自ら心掛けていることがある」が22ポイント低下している。一方で、「関心はあるが、何をしてもよいか分からない」が13ポイント上昇している。また、「特に関心はない」も6ポイント上昇しており、全体的に環境・資源保護に関する取り組みや意識が低下している様子うかがえる。

問11 あなたは、「福祉活動」や「ボランティア活動」をしたことがありますか。

1. 現在している 2. 現在はしていないが、以前したことがある 3. したことはない



「現在はしていないが、以前したことがある」が50%と最も多い。次いで、「まったく、したことはない」が30%、「現在している」が17%となっている。約7割が何らかの形で「福祉活動」や「ボランティア活動」に関わりをもった経験のあることがうかがえる。

前回調査との比較

前回と比較して、選択率、順位ともに同様の傾向がみられた。

問11-1 [質問：上で1.現在している 2.現在はしていないが、以前したことがある と答えた人に、それはどんな活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。]

- ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）
- イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動
- ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動
- エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動
- オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動
- カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動
- キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動
- ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動
- ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動
- コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害援助の活動
- サ. その他

今回調査			前回調査	
項目	小・中・高校生保護者		項目	%
	件数	%		
全体	396	100.0		
ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）	145	36.6	ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）	30.5
イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動	63	15.9	イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動	11.0
ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動	28	7.1	ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動	8.6
エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動	269	67.9	エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動	68.9
オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動	196	49.5	オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動	49.9
カ. 趣味やレクリエーション・スポーツ等の技術を生かした指導や援助の活動	65	16.4	カ. 趣味やレクリエーション・スポーツ等の技術を生かした指導や援助の活動	13.4
キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動	150	37.9	キ. チャリティバザー等の福祉財源づくりや募金などへの協力活動	28.5
ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動	229	57.8	ク. 古切手、ベルマーク、ロータスクーポン、アルミ缶などの収集活動	61.9
ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動	27	6.8	ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動	8.0
コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動	48	12.1	コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動	6.6
サ. その他	14	3.5	サ. その他	4.2
不明	4	1.0		

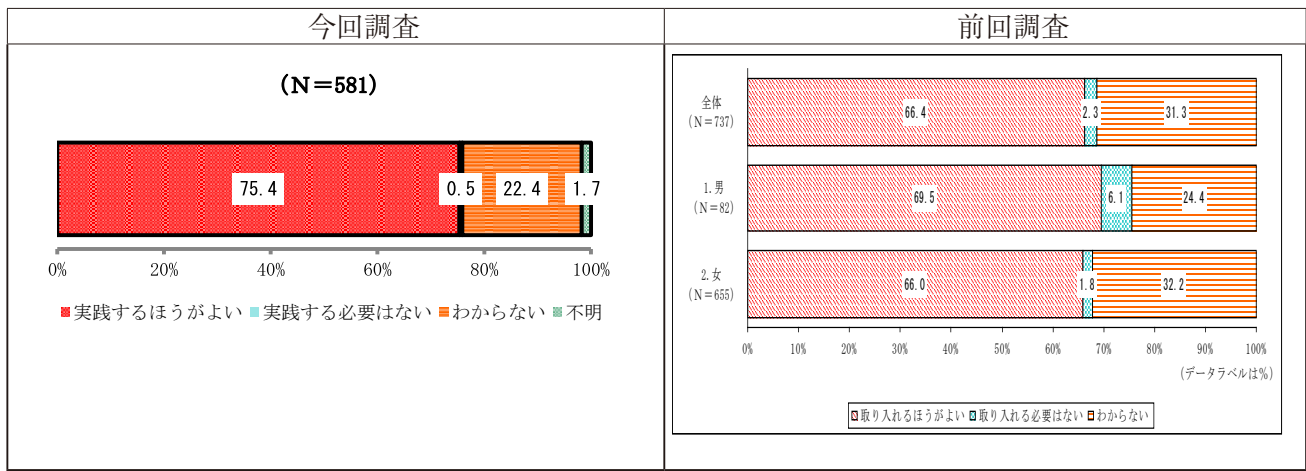
「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動」が67%と最も多い。次いで、「古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動」が57%、「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」が49%、「チャリティバザーや募金などへの協力活動」が37%となっている。

前回調査との比較

前回調査と比較して、選択率の順位には同様の傾向がみられた。なお、前回調査から選択率が上昇している項目としては、「社会福祉施設や病院での活動」が6ポイント上昇、「高齢者や障がい児(者)・病人のいる家庭での支援・訪問活動」が4ポイント上昇、「趣味やレクリエーション・スポーツ等の技術を生かした指導や援助の活動」が3ポイント上昇、「チャリティバザー等の福祉財源づくりや募金などへの協力活動」が9ポイント上昇、となっている。

問12 あなたは、学校教育の中で「福祉教育・学習」を実践することについてどうお考えになりますか。

1. 実践するほうがよい 2. 実践する必要はない 3. わからない



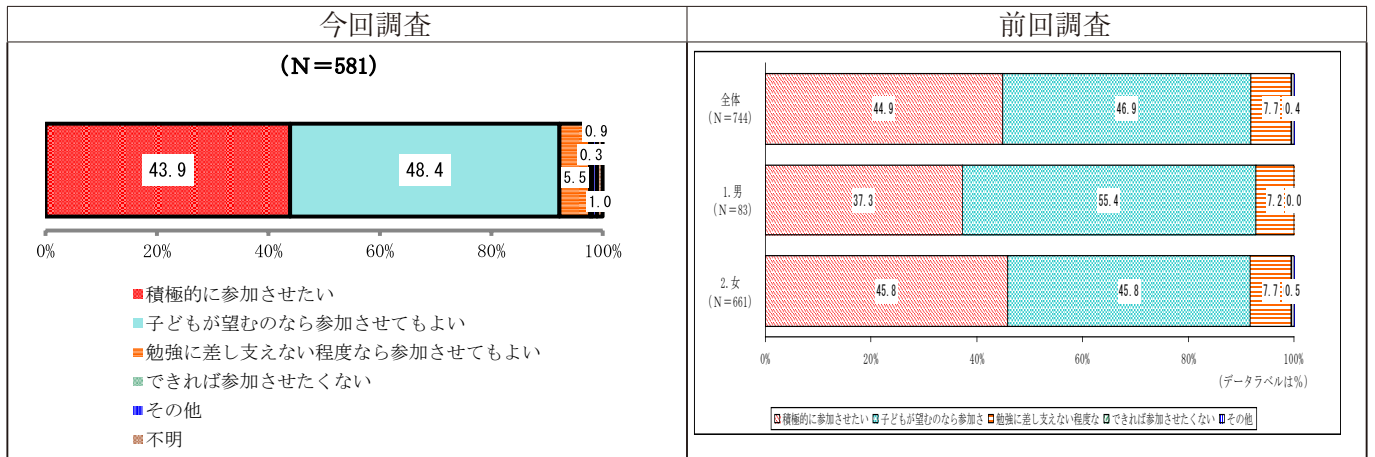
「実践するほうがよい」が75%と最も多い。一方で、「わからない」が22%となっている。また、「実践する必要はない」は1%を切っている。

前回調査との比較

前回と比較して、前回調査からは設問および選択肢に変化があるため単純に比較はできないが、「実践する必要はない」「わからない」と回答した者の割合が低下し、学校教育における「福祉教育・学習」の取り入れや実践に対して、肯定的にとらえる傾向が高まっている様子がうかがえる。

問13 あなたは、子どもが福祉体験学習やボランティア活動に参加することについてどう思いますか。

1. 積極的に参加させたい 2. 子どもが望むのなら参加させてもよい
3. 勉強に差し支えない程度なら参加させてもよい 4. できれば参加させたくない 5. その他



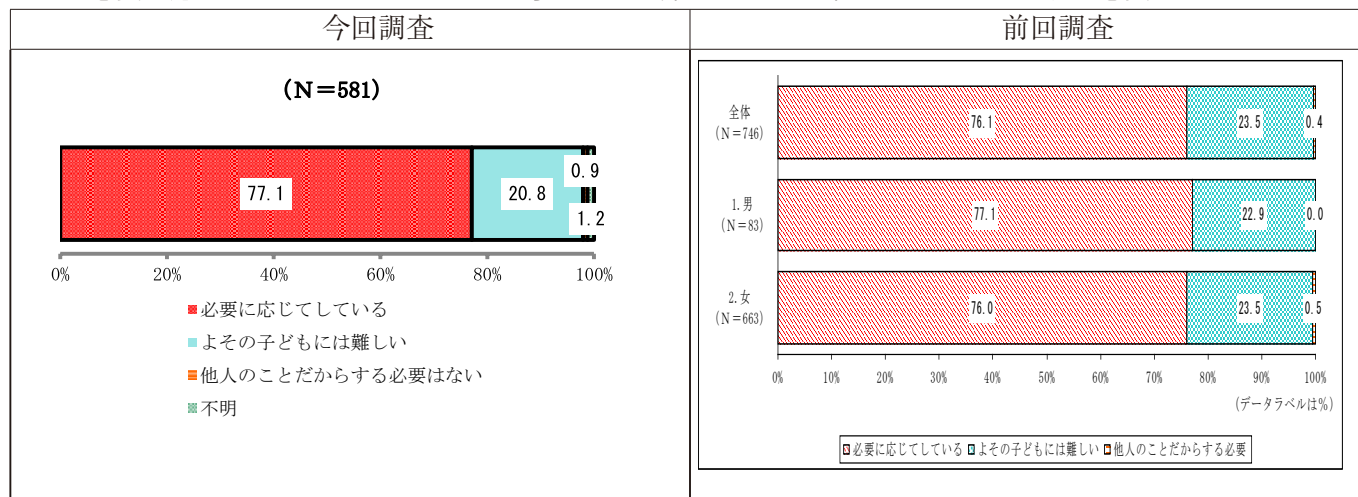
「子どもが望むのなら参加させてもよい」が48%と最も多く、次いで、「積極的に参加させたい」が43%、「勉強に差し支えない程度なら参加させてもよい」が5%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、選択率、順位ともに同様の傾向がみられた

問14 あなたは、よその子どもに注意したり、ほめたりできますか。

1. 必要に応じてしている 2. よその子どもには難しい 3. 他人のことだからする必要はない



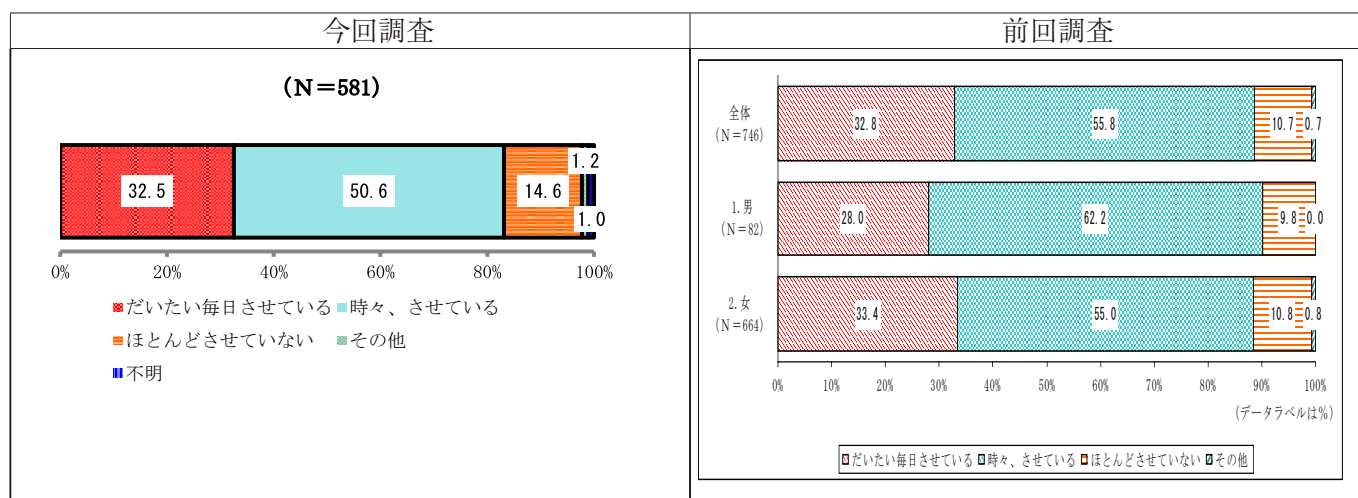
「必要に応じてしている」が77%と最も多く、次いで、「よその子どもには難しい」が20%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、選択率、順位ともに同様の傾向がみられた。

問15 あなたは、子どもに家族の一員として、何かお手伝いをさせていますか。

1. だいたい毎日させている 2. 時々、させている 3. ほとんどさせていない 4. その他



「時々、させている」が50%と最も多く、次いで、「だいたい毎日させている」が32%、「ほとんどさせていない」が14%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、順位に変化はないが「だいたい毎日させている」選択率に変化はないものの、「時々、させている」が5ポイント低下し、「ほとんどさせていない」が3ポイント上昇している。

問16 あなたは、福祉に関する情報・資料・教材を主にどのようなところから入手していますか。2つ以内で選んでください。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 福祉事務所や関係行政機関から | 2. 教育委員会から |
| 3. 社会福祉協議会や社会福祉施設から | 4. 公民館・図書館などの社会教育施設から |
| 5. 職場の仲間や友だちから | 6. テレビ・ラジオから |
| 7. 自治体などの広報誌から | 8. 本や雑誌・新聞から |
| 9. インターネットから | 10. その他 |

今回調査			前回調査	
項目	件数	%	項目	%
全体	581	100.0	1. 福祉事務所や関係行政機関から	11.0
1. 福祉事務所や関係行政機関から	95	16.4	2. 学校・PTAから	47.7
2. 教育委員会から	62	10.7	3. 社会福祉協議会や社会福祉施設から	12.0
3. 社会福祉協議会や社会福祉施設から	78	13.4	4. 公民館などから	7.0
4. 公民館・図書館などの社会教育施設から	55	9.5	5. 職場の仲間や友人から	14.5
5. 職場の仲間や友だちから	63	10.8	6. テレビ・ラジオから	33.1
6. テレビ・ラジオから	164	28.2	7. 自治体などの広報誌から	35.8
7. 自治体などの広報誌から	232	39.9	8. 本や雑誌・新聞から	22.2
8. 本や雑誌・新聞から	115	19.8	9. インターネットから	3.0
9. インターネットから	104	17.9	10. その他	2.6
10. その他	13	2.2		
不明	31	5.3		

「自治体などの広報誌から」が39%と最も多く、次いで、「テレビ・ラジオから」が28%、「本や雑誌・新聞から」が19%、「インターネットから」が17%、「福祉事務所や関係行政機関から」が16%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、前回調査からは、設問および選択肢の文言に変化があり単純に比較はできないが、入手先として「自治体などの広報誌から」「テレビ・ラジオから」「本や雑誌・新聞から」の選択率は、前回調査に引き続き高い。また、「インターネットから」は前回調査から14ポイント上昇している。

問17 あなたが、次のことばの中で、知っているものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|----------------------|----------------|-----------------|--------------|
| 1. 点字 | 2. 手話 | 3. 特別支援学校（養護学校） | 4. 保育所 |
| 5. 児童養護施設 | 6. 特別養護老人ホーム | 7. 母子生活支援施設 | 8. 障がい者支援施設 |
| 9. 児童相談所 | 10. 福祉事務所 | 11. 社会福祉協議会 | 12. 国民年金 |
| 13. 健康保険 | 14. 生活保護 | 15. 介護保険 | 16. あいサポート運動 |
| 17. インクルージョン | 18. ノーマライゼーション | 19. バリアフリー | |
| 20. UD（ユニバーサルデザイン） | | 21. リハビリテーション | |
| 22. 民生委員・児童委員 | | 23. 老人クラブ | |
| 24. ホームヘルパー（訪問介護員） | | 25. デイサービスセンター | 26. 介護福祉士 |
| 27. ソーシャルワーカー（社会福祉士） | | 28. ケースワーカー | 29. 子どもの権利条約 |
| 30. 児童憲章 | | | |

今回調査			前回調査	
項目	件数	%	項目	%
全 体	581	100.0	1.点字	98.4
1.点字	562	96.7	2.手話	98.9
2.手話	565	97.2	3.特別支援学校（養護学校）	96.8
3.特別支援学校（養護学校）	570	98.1	4.保育所	99.6
4.保育所	565	97.2	5.児童養護施設	89.9
5.児童養護施設	531	91.4	6.特別養護老人ホーム	95.5
6.特別養護老人ホーム	542	93.3	7.授産施設	60.3
7.母子生活支援施設	408	70.2	8.母子生活支援施設（母子寮）	74.1
8.障がい者支援施設	500	86.1	9.障害者更生施設	66.5
9.児童相談所	552	95.0	10.児童相談所	96.2
10.福祉事務所	433	74.5	11.福祉事務所	81.4
11.社会福祉協議会	514	88.5	12.国民年金	98.9
12.国民年金	562	96.7	13.健康保険	98.8
13.健康保険	559	96.2	14.生活保護	98.0
14.生活保護	561	96.6	15.社会福祉協議会	88.8
15.介護保険	545	93.8	16.ホームヘルパー（訪問介護員）	98.0
16.あいサポート運動	318	54.7	17.民生委員・児童委員	94.5
17.インクルージョン	69	11.9	18.老人クラブ	89.1
18.ノーマライゼーション	182	31.3	19.リハビリテーション	97.4
19.バリアフリー	555	95.5	20.児童憲章	49.0
20.UD（ユニバーサルデザイン）	441	75.9	21.バリアフリー	96.8
21.リハビリテーション	547	94.1	22.ノーマライゼーション	30.9
22.民生委員・児童委員	529	91.0	23.介護保険	95.5
23.老人クラブ	493	84.9	24.デイサービスセンター	97.7
24.ホームヘルパー（訪問介護員）	550	94.7	25.介護福祉士	94.5
25.デイサービスセンター	551	94.8		
26.介護福祉士	536	92.3		
27.ソーシャルワーカー（社会福祉士）	479	82.4		
28.ケースワーカー	365	62.8		
29.子どもの権利条約	254	43.7		
30.児童憲章	245	42.2		
不明	6	1.0		

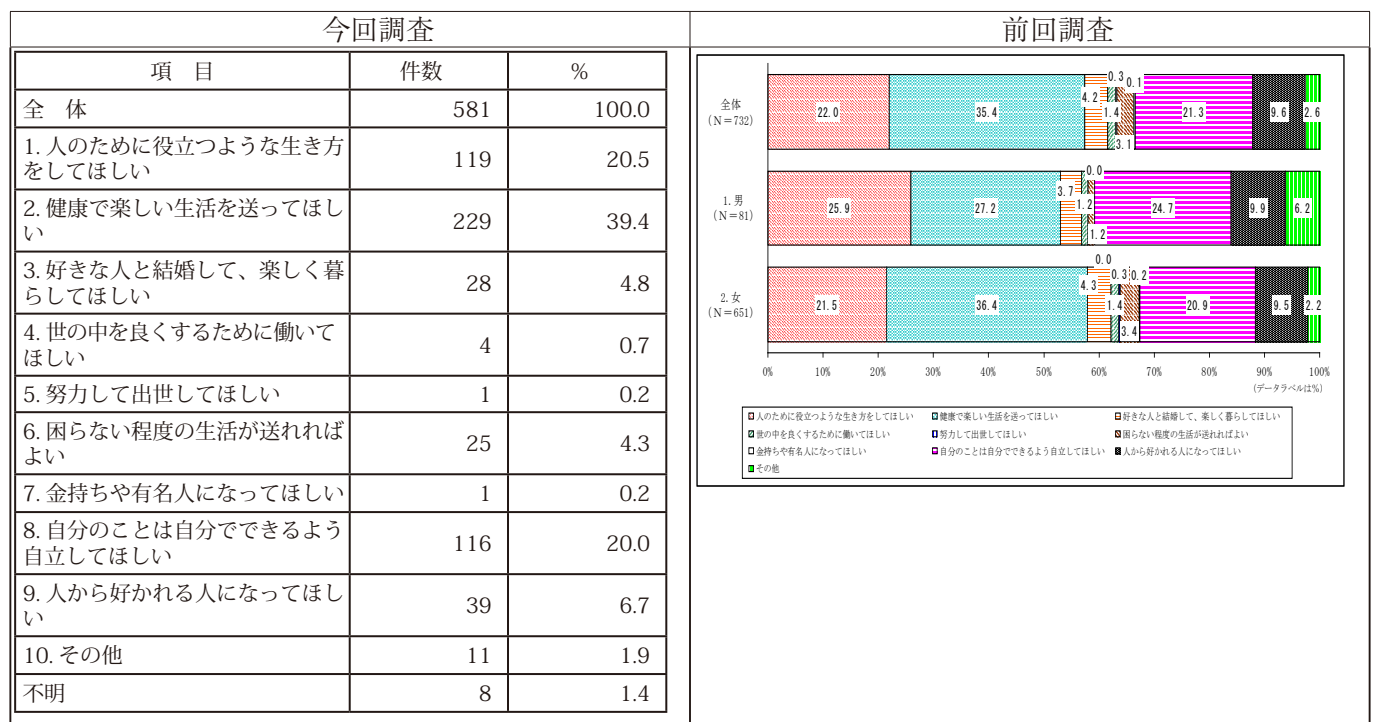
30項目中17項目について9割以上の者が知っていると回答している。なかでも、「点字」「手話」「特別支援学校（養護学校）」「保育所」「児童相談所」「国民年金」「健康保険」「生活保護」「バリアフリー」に関しては95%を超えている。一方で、「インクルージョン」「ノーマライゼーション」「子どもの権利条約」「児童憲章」に関しては知っている者の割合が5割未満となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、前は「点字」「手話」「保育所」「国民年金」「健康保険」「生活保護」「ホームヘルパー」は98%を超えていたが、今回は98%を超えていたのは「特別支援学校（養護学校）」のみとなっている。

問18 あなたは、子どもに将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。次の項目の中から、あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 人のために役立つような生き方をしてほしい | 2. 健康で楽しい生活を送ってほしい |
| 3. 好きな人と結婚して、楽しく暮らしてほしい | 4. 世の中を良くするために働いてほしい |
| 5. 努力して出世してほしい | 6. 困らない程度の生活が送ればよい |
| 7. 金持ちや有名人になってほしい | 8. 自分のことは自分でできるよう自立してほしい |
| 9. 人から好かれる人になってほしい | 10. その他 |



「健康で楽しい生活を送ってほしい」が39%と最も多く、次いで、「人のために役立つような生き方をしてほしい」が20%、「自分のことは自分でできるように自立してほしい」が20%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、選択率、順位ともに同様の傾向がみられた。

特別支援学校保護者の部

《特別支援学校保護者の部》

問1 あなたは、「福祉」ということばを聞いて、どのようなイメージをもたれますか。いちばん近いものを選んでください。

1. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
2. すべての国民を対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
3. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと
4. すべての国民を対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと

項目	特別支援学校保護者		小・中・高校保護者	
	件数	%	件数	%
全体	65	100	581	100.0
1. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと	21	32.3	108	18.6
2. すべての国民を対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと	3	4.6	76	13.1
3. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと	23	35.4	125	21.5
4. すべての国民を対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと	18	27.7	270	46.5
不明	0	0.0	2	0.3

この設問では、「福祉」のイメージを2つのカテゴリーの組み合わせにより、4項目設定している。第1のカテゴリーは福祉対象を「児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）など」に限定するのか（選択肢1、3）「すべての国民」として限定しないか（選択肢2、4）というものである。第2のカテゴリーは、福祉主体および福祉サービスを「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」とするか（選択肢1、2）、「行政や施設、住民などすべてが協力して取り組む」（選択肢3、4）とするかというものである。

まず、福祉対象は限定して捉える者が67%、限定せずに捉える者が32%であり、限定して捉える傾向がうかがえた。この傾向は保護者と逆転している。

つぎに、福祉提供主体は「国や自治体が最低限の生活を保障する」が36%、「行政や施設、住民などすべてが協力して取り組む」が63%であり、すべてが協力して取り組むイメージが高い割合を占めている。

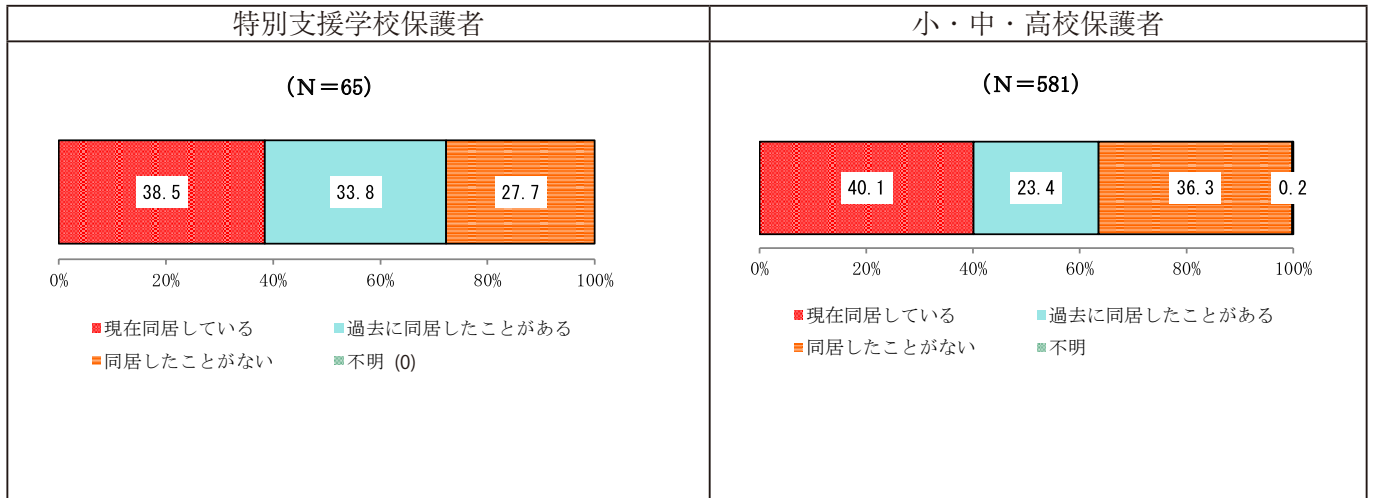
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、この傾向は同様である。

前回と比較して、選択肢1が17ポイント、選択肢3が14ポイント上昇している。一方で、選択肢2が7ポイント、選択肢4が25ポイント低下している。特に選択肢4に関しては低下幅が大きい。その結果、前回では最も多い割合を占めていた福祉イメージは選択肢4であったが、今回は選択肢3の「児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと」という福祉イメージが最も多い割合を占めている。

問2 あなたは、子どもの誕生後に両親や祖父母と同居したことがありますか。

1. 現在同居している 2. 過去に同居したことがある 3. 同居したことがない



「現在同居している」が38%と最も多いが、「同居したことがない」も27%となっている。なお、「過去に同居したことがある」を含めると72%が同居を経験していることが分かる。

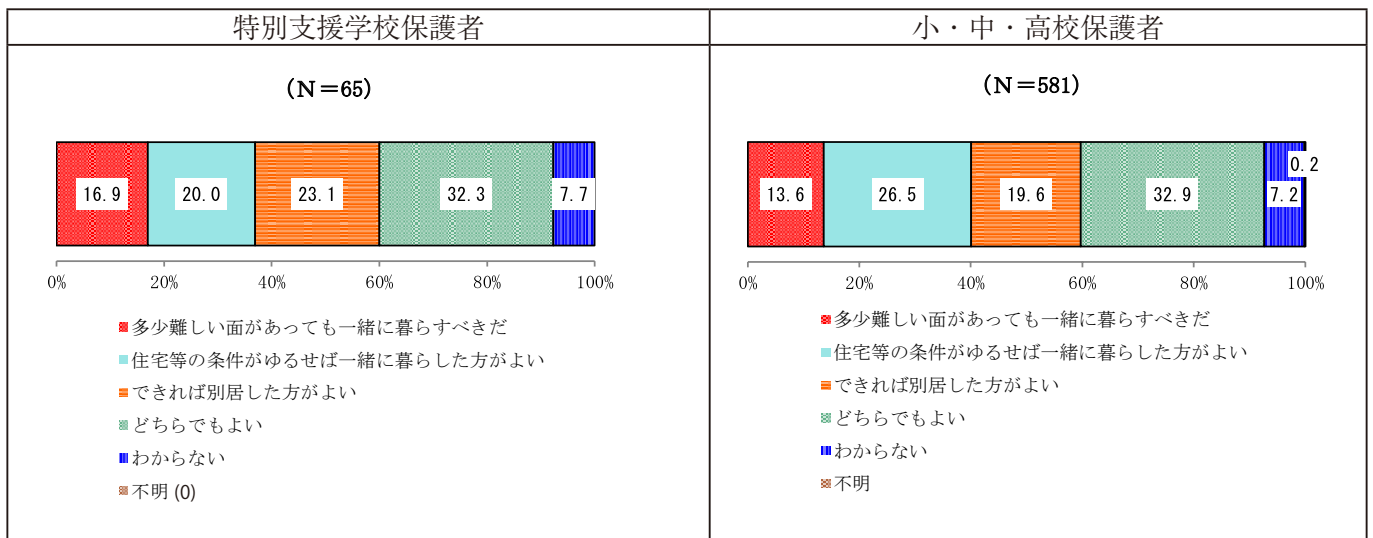
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、同居を経験している比率が若干多い。

前回と比較して、前回調査は結婚後の同居状況について問い、今回調査は子どもの誕生後の同居状況について問うており、設問に変化があるため単純に比較はできないが、「現在同居している」が37ポイント低下している。一方で、「過去に同居したことがある」が21ポイント上昇、「同居したことがない」が15ポイント上昇しており、別居志向が高まっていることがうかがえる。別居志向の高まりは保護者と同様の傾向である。

問3 あなたは、両親や祖父母との同居についてどう考えますか。

1. 多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ 2. 住宅等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい
3. できれば別居した方がよい 4. どちらでもよい
5. わからない



「どちらでもよい」が32%と最も多い。次いで、「できれば別居した方がよい」が23%、「住居等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」が20%、「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」が16%の順となっている。また、「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」と「住居等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」をあわせた同居に肯定的な意見は36%となっている。

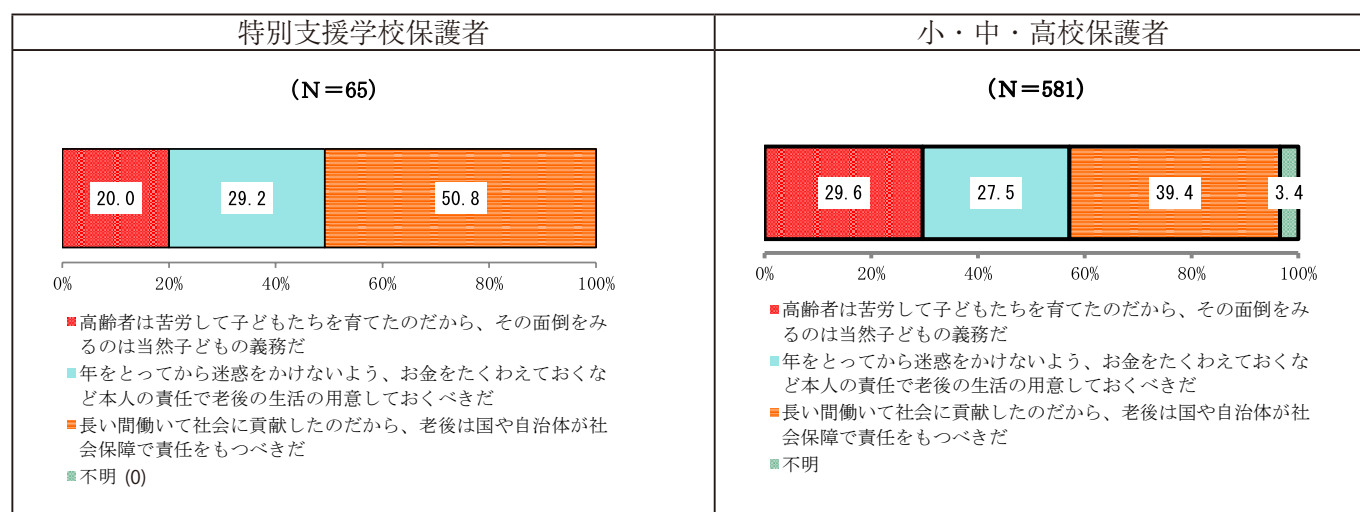
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、この傾向は同様である。

前回と比較して「どちらでもよい」が11ポイント上昇、「できれば別居した方がよい」が17ポイント上昇している。一方で、「多少難しい面があっても一緒に暮らすべきだ」と「住居等の条件がゆるせば一緒に暮らした方がよい」をあわせた同居に肯定的な意見は27ポイント低下しており、保護者よりも別居志向が高まっている。

問4 高齢者をだれが扶養すべきかについていろいろな意見があります。あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

1. 高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ
2. 年をとってから迷惑をかけないように、お金をたくわえておくなど本人の責任で老後の生活の用意しておくべきだ
3. 長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任をもつべきだ



「長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任をもつべきだ」が50%と最も多い。次いで、「年をとってから迷惑をかけないように、お金をたくわえておくなど本人の責任で老後の生活の用意しておくべきだ」が29%、「高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ」が20%の順となっている。

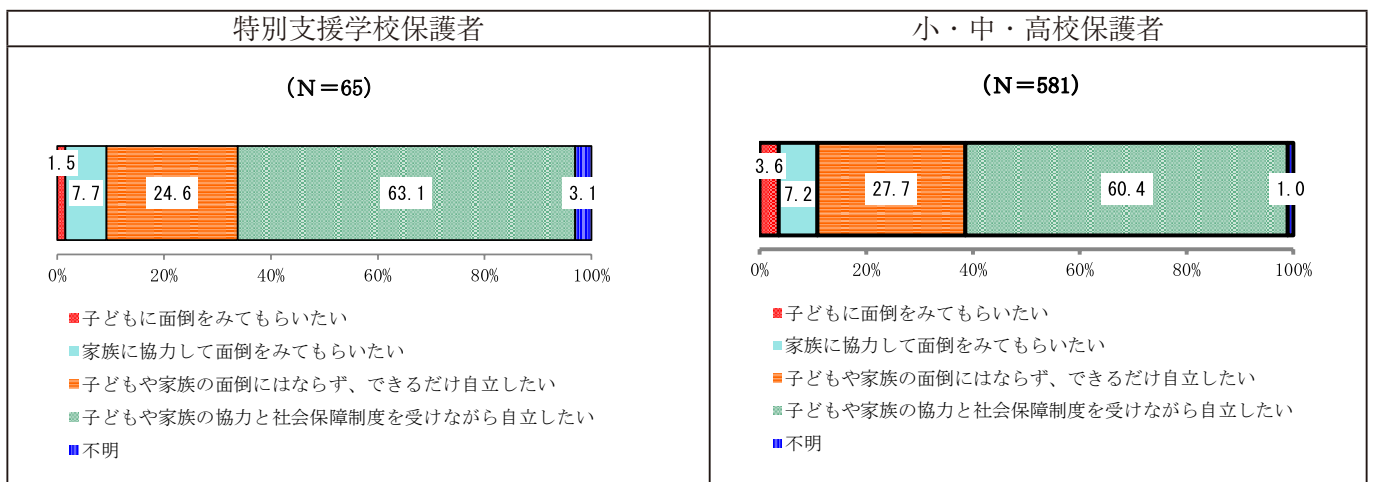
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、「高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ」の割合が9ポイント低下している。

前回と比較して、「高齢者は苦勞して子どもたちを育てたのだから、その面倒をみるのは当然子どもの義務だ」が25ポイント低下している。一方で、「年をとってから迷惑をかけないように、お金をたくわえておくなど本人の責任で老後の生活を用意しておくべきだ」が14ポイント上昇し、「長い間働いて社会に貢献したのだから、老後は国や自治体が社会保障で責任をもつべきだ」が11ポイント上昇している。老後に対する子どもの責任への志向が低下し、高齢者の個人責任を求める傾向が増加するとともに、社会保障の責任への志向が若干上昇している。この傾向は保護者と同様である。

問5 将来、仮にあなた自身の扶養が必要になった場合、あなたはどのようにしたいと思いますか。あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

1. 子どもに面倒をみてもらいたい
2. 家族に協力して面倒をみてもらいたい
3. 子どもや家族の面倒にはならず自立したい
4. 子どもや家族の協力と社会保障制度を受けながら自立したい



「子どもや家族の協力と社会保障制度を受けながら自立したい」が63%と最も多い。次いで、「子どもや家族の面倒にはならず、できるだけ自立したい」が24%、「家族に協力して面倒をみてもらいたい」が7%、「子どもに面倒をみてもらいたい」が1%の順になっている。

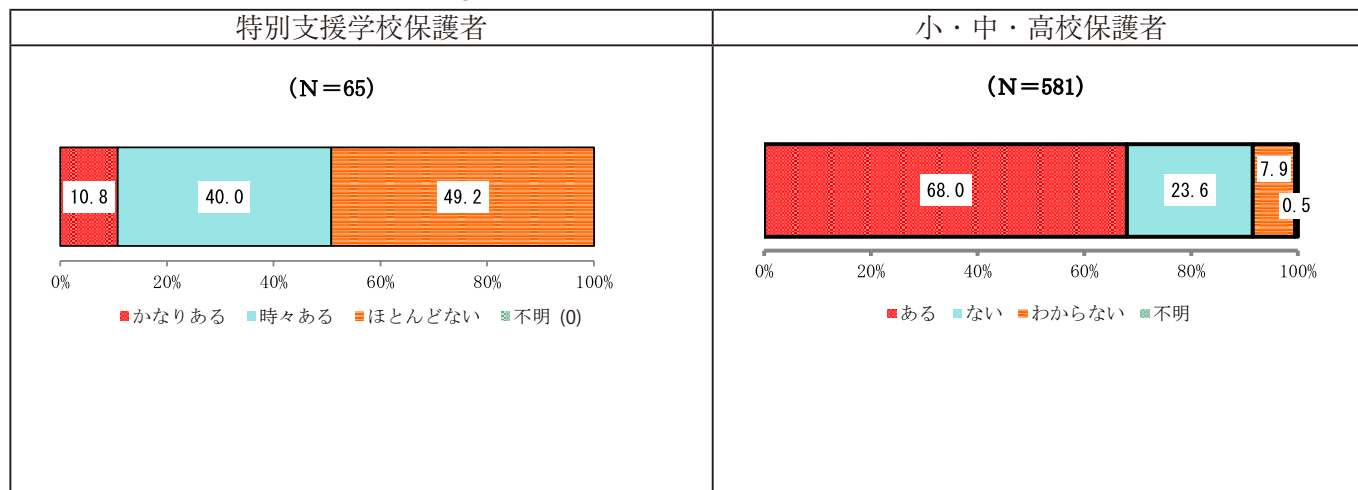
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、同様の傾向である。

前回と比較して、今回は選択肢の文言に変化があるため、単純に比較はできないが、「子どもや家族の面倒にはならず、できるだけ自立したい」は28ポイント低下し、周りの環境や社会保障制度をうまく活用しながら自立した生活を望む傾向がうかがえる。この傾向は保護者と同様である。

問6 あなたの子どもは、地域の人や子どもたちとかかわることが多いですか。

1. かなりある 2. 時々ある 3. ほとんどない



「ほとんどない」が49%と最も多い。次いで、「時々ある」が40%であり、「かなりある」は10%となっている。

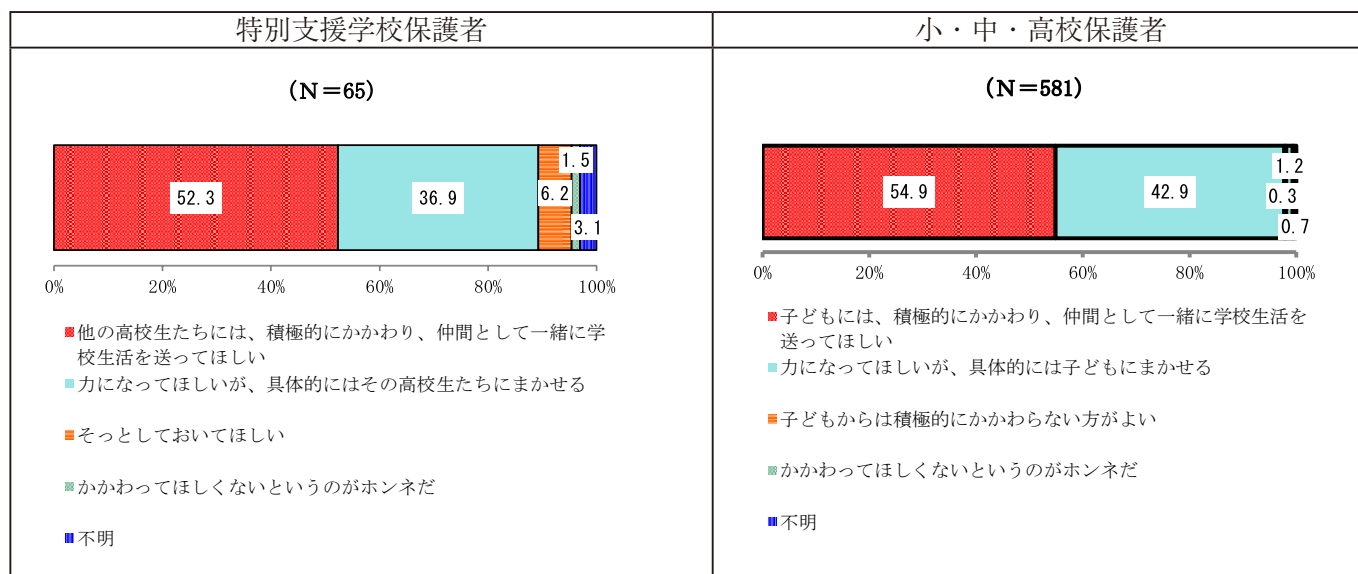
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、「ある」が57ポイント低下している。

前回と比較して、「かなりある」が9ポイント低下し、「時々ある」が18ポイント低下している。一方で、「ほとんどない」が29ポイント上昇している。地域の人や子どもたちとのかかわりが希薄になっている様子がうかがえる。

問7 あなたは、あなたの子どもが、他の高校生たちと一緒に学校生活をするということについてどのように感じますか。

1. 他の高校生たちには、積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送ってほしい
 2. 力になってほしいが、具体的にはその高校生たちにまかせる
 3. そっとしておいてほしい 4. かかわってほしくないというのがホンネだ



「他の高校生たちには、積極的にかかわり、仲間として一緒に学校生活を送ってほしい」が52%と最も多い。次いで、「力になってほしいが、具体的にはその高校生たちにまかせる」が36%となっている。一方で、「そっとしておいてほしい」「かかわってほしくないというのがホンネだ」が双方合わせて7%あり、他の高校生たちとの交流に否定的な意見も一定割合で存在している。

小・中・高校保護者との比較

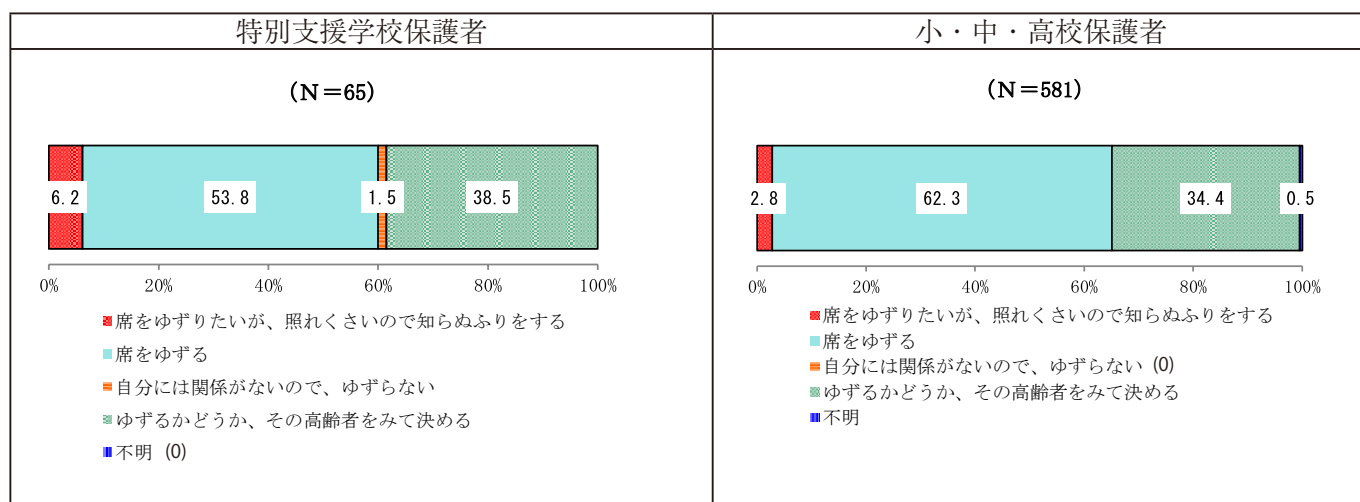
保護者と比較して、傾向に大きな差はないが、特別支援学校保護者のほうが若干交流に消極的な割合が多い傾向がみられる。

前回と比較して、選択率、選択順ともに変化はみられない。

問8-1 あなたが満席のバスや列車に乗っているとします。その時、高齢者が乗ってきました。あなたはちょっと体が疲れていました。そんな時あなたならどんな行動をしますか。

[a. 自分一人のとき]

1. 席をゆずりたいが、照れくさいので知らぬふりをする
2. 席をゆずる
3. 自分には関係がないので、ゆずらない
4. ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める



「席をゆずる」が53%と最も多い。次いで、「ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める」が38%となっている。一方で、「席をゆずりたいが、照れくさいので知らないふりをする」「自分には関係がないので、ゆずらない」は合わせて7%となっている。

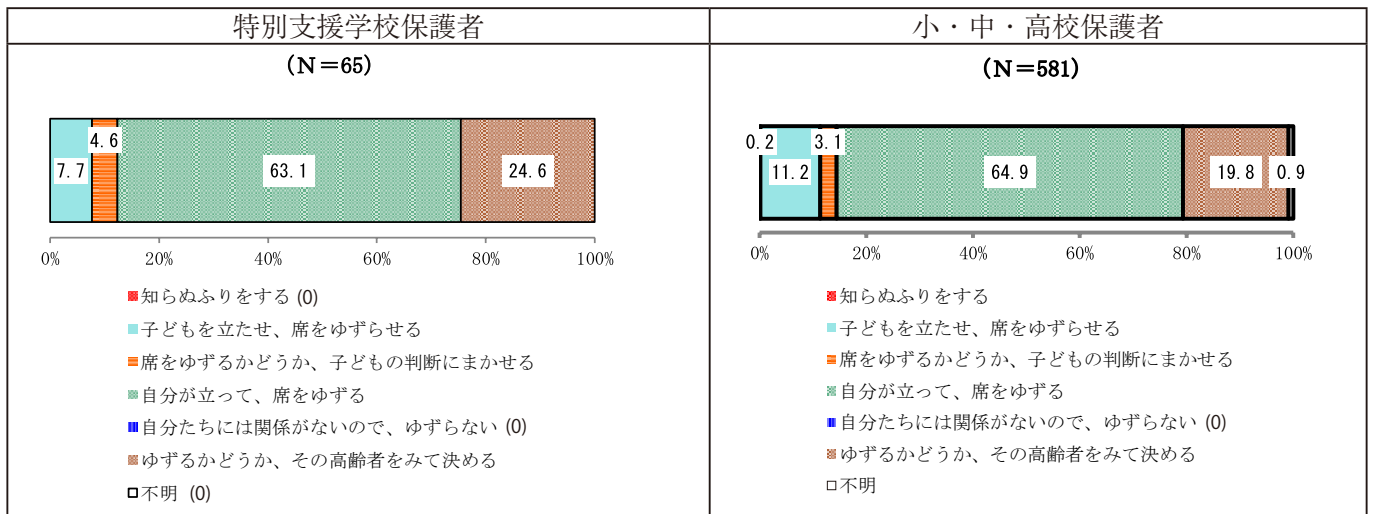
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、大きな変化はみられない。

前回と比較して、設問に「あなたはちょっと体が疲れていました。」という条件が追加されているためか、「席をゆずる」が25ポイント低下している。一方で、「ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める」が20ポイント上昇している。

〔b. 子どもと一緒にとき〕

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. 知らぬふりをする | 2. 子どもを立たせ、席をゆずらせる |
| 3. 席をゆずるかどうか、子どもの判断にまかせる | 4. 自分が立って、席をゆずる |
| 5. 自分たちには関係がないので、ゆずらない | 6. ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める |



「自分が立って、席をゆずる」が63%と最も多い。次いで、「ゆずるかどうか、その高齢者を見て決める」が24%、「子どもを立たせ、席をゆずらせる」が7%となっている。なお、自分一人のときに比べ子どもと一緒にいるときは「席をゆずる」が増加傾向にあり、「知らぬふりをする」は0%となっている。

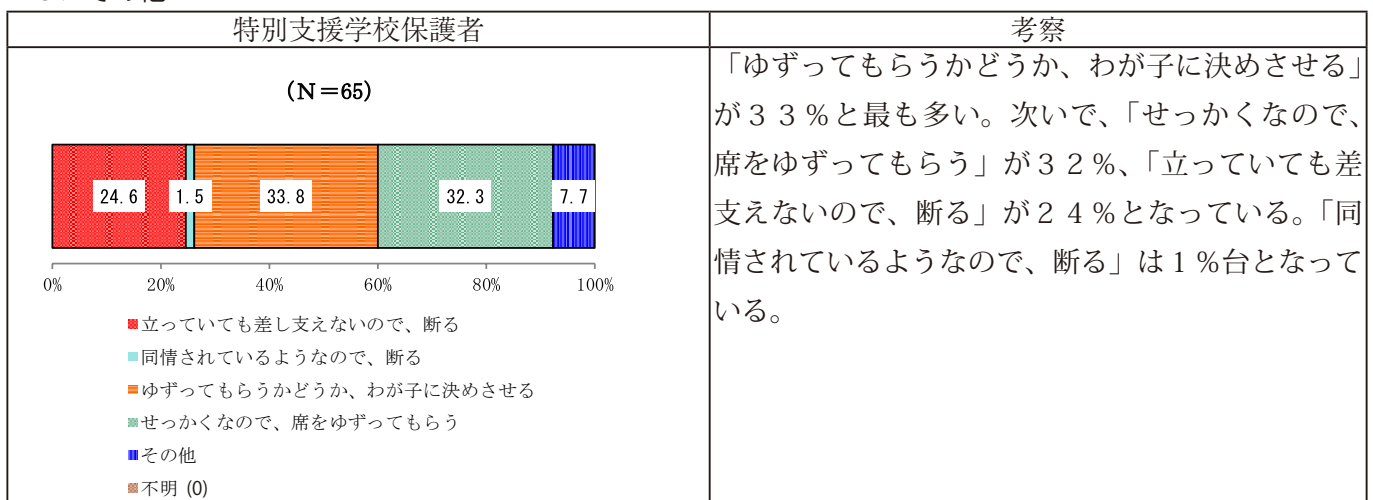
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、この傾向は同様である。

前回と比較して、傾向に変化はみられないが「自分が立って、席をゆずる」が8ポイント上昇している。一方で、「子どもを立たせ、席をゆずらせる」は7ポイント低下している。この傾向は保護者も同様である。

問8-2 あなたが満席のバスや列車に乗ったとき、席に座っている方があなたの子どもに席をゆずってくれました。そんな時あなたはどうしますか。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 立っていても差し支えないので、断る | 2. 同情されているようなので、断る |
| 3. ゆずってもらうかどうか、わが子に決めさせる | 4. せっかくなので、席をゆずってもらう |
| 5. その他 | |



小・中・高校保護者との比較

保護者にはこの設問がないため比較はできない。

前回と比較して、「ゆずってもらうかどうか、わが子に決めさせる」が16ポイント上昇している。一方で、「せっかくなので、席をゆずってもらう」が23ポイント低下しており、子どもの自主性にゆだねる傾向が高まりをみせている。

問9 あなたは、身近に差別を感じたり、見聞きしたことがありますか。該当するものをすべて選んでください。

- | | | | |
|---------------|-----------|-----------|----------|
| 1. 部落差別 | 2. 障がい者差別 | 3. 性による差別 | 4. 外国人差別 |
| 5. 経済的理由による差別 | 6. その他 | | |

項目	特別支援学校保護者		小・中・高校保護者	
	件数	%	件数	%
全体	65	100.0	581	100.0
1. 部落差別	36	55.4	322	55.4
2. 障がい者差別	43	66.2	290	49.9
3. 性による差別	20	30.8	217	37.3
4. 外国人差別	14	21.5	161	27.7
5. 経済的理由による差別	28	43.1	150	25.8
6. その他	4	6.2	40	6.9
不明	7	10.8	102	17.6

「障がい者差別」が66%と最も多い。次いで、「部落差別」が55%、「経済的理由による差別」が43%、「性による差別」が30%、「外国人差別」が21%となっている。

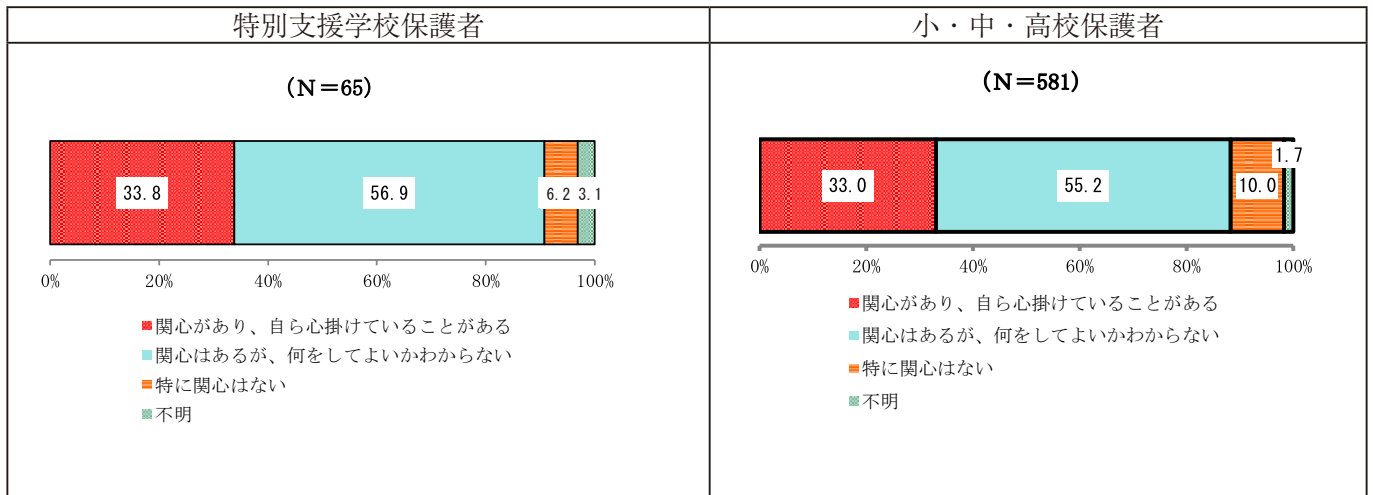
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、「障がい者差別」「経済的理由による差別」の割合が多い傾向にある。

前回と比較して、「部落差別」を見聞きしたことのある割合が15ポイント低下している。前回調査から選択肢の文言に変化があるため単純に比較できないが、「障がい者差別」「経済的理由による差別」を見聞きしたことのある割合は上昇傾向にある様子がうかがえる。

問10 あなたは、地球温暖化や環境汚染、資源やエネルギーの浪費など、環境・資源保護の問題に関心がありますか。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 関心があり、自ら心掛けていることがある | 2. 関心はあるが、何をしてもよいかわからない |
| 3. 特に関心はない | |



「関心はあるが、何をしてもよいかわからない」が56%と最も多い。次いで、「関心があり、自ら心掛けていることがある」が33%、「特に関心はない」が6%となっている。

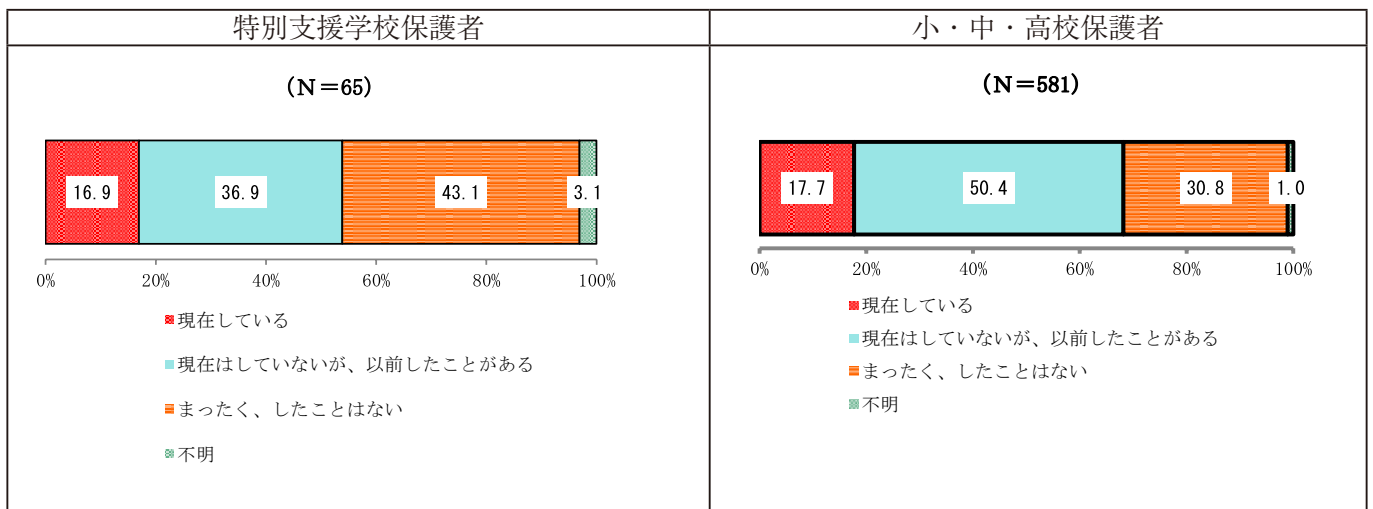
小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、同様の傾向である。

前回と比較して、環境・資源保護に関する具体的な取り組みを行う「関心があり、自ら心掛けていることがある」が35ポイント低下している。一方で、「関心はあるが、何をしてもよいかわからない」が28ポイント上昇している。また、「特に関心はない」も3ポイント上昇しており、全体的に環境・資源保護に関する取り組みや意識が低下している様子が見える。このような傾向は保護者も同様である。

問11 あなたは、「福祉活動」や「ボランティア活動」をしたことがありますか。

1. 現在している
2. 現在はしていないが、以前したことがある
3. したことがない



「まったく、したことはない」が43%と最も多い。次いで、「現在はしていないが、以前したことがある」が36%、「現在している」が16%となっている。「福祉活動」や「ボランティア活動」に関わりをもった経験のある回答は過半数を超えている。

小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、関わりをもった経験のある者の割合は低い傾向がうかがえる。

前回と比較して、「まったく、したことはない」が6ポイント上昇している。一方で、「現在している」が7ポイント、「現在はしていないが、以前したことがある」が2ポイント低下し、若干経験のある者の割合が低い傾向にある様子がうかがえる。

問11-1 [質問：上で1. 現在している 2. 現在はしていないが、以前したことがある と答えた人に、それはどんな活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。]

- ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）
- イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動
- ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動
- エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動
- オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動
- カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動
- キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動
- ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動
- ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動
- コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動
- サ. その他

項目	特別支援学校保護者		小・中・高校生保護者	
	件数	%	件数	%
全体	35	100.0	396	100.0
ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）	9	25.7	145	36.6
イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動	7	20.0	63	15.9
ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動	2	5.7	28	7.1
エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動	18	51.4	269	67.9
オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動	14	40.0	196	49.5
カ. 趣味やレクリエーション・スポーツ等の技術を生かした指導や援助の活動	5	14.3	65	16.4
キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動	19	54.3	150	37.9
ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動	22	62.9	229	57.8
ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動	2	5.7	27	6.8
コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動	3	8.6	48	12.1
サ. その他	0	0.0	14	3.5
不明	1	2.9	4	1.0

「古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動」が62%と最も多い。次いで、「チャリティバザーや募金などへの協力活動」が54%、「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動」が51%、「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」が40%の順となっている。

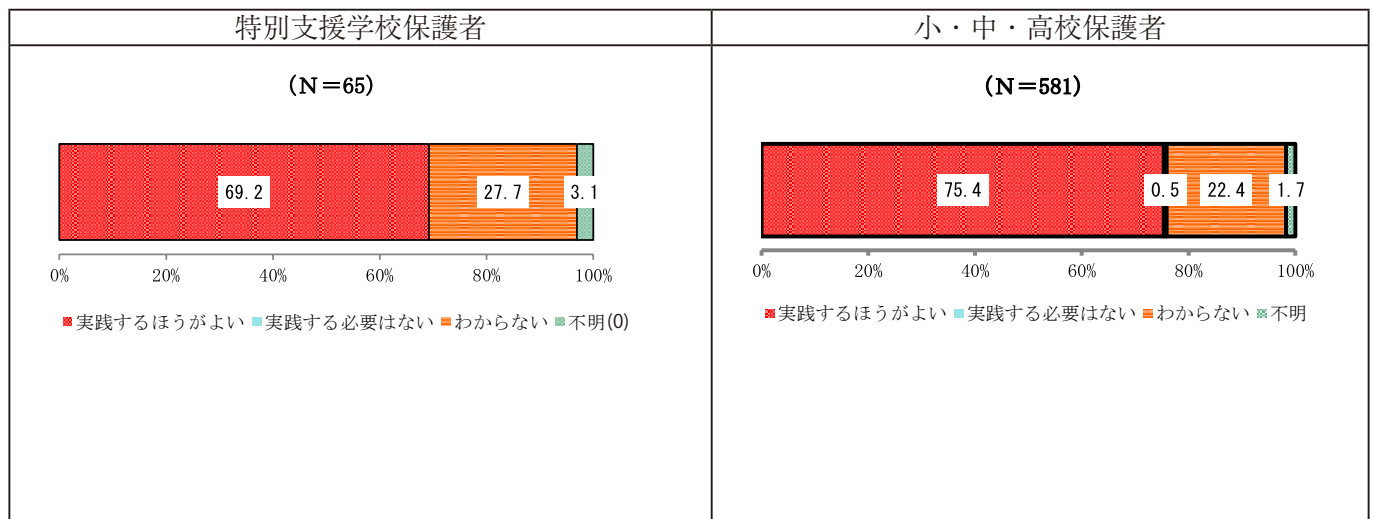
前回調査との比較

保護者と比較して、10ポイント以上の差がある項目は、「チャリティバザーや募金などへの協力活動」となっている。一方、「社会福祉施設や病院での活動」「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動」は低くなっている。

前回と比較して、選択率が上昇している項目は、「高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動」が5ポイント上昇、「趣味やレクリエーション・スポーツ等の技術を生かした指導や援助の活動」が4ポイント上昇、「チャリティバザー等の福祉財源づくりや募金などへの協力活動」が11ポイント上昇、「古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動」が15ポイント上昇、「地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動」が3ポイント上昇している。

問12 あなたは、学校教育の中で「福祉教育・学習」を実践することについてどうお考えになりますか。

1. 実践するほうがよい 2. 実践する必要はない 3. わからない



「実践するほうがよい」が69%と最も多い。一方で、「わからない」が27%となっている。

小・中・高校保護者との比較

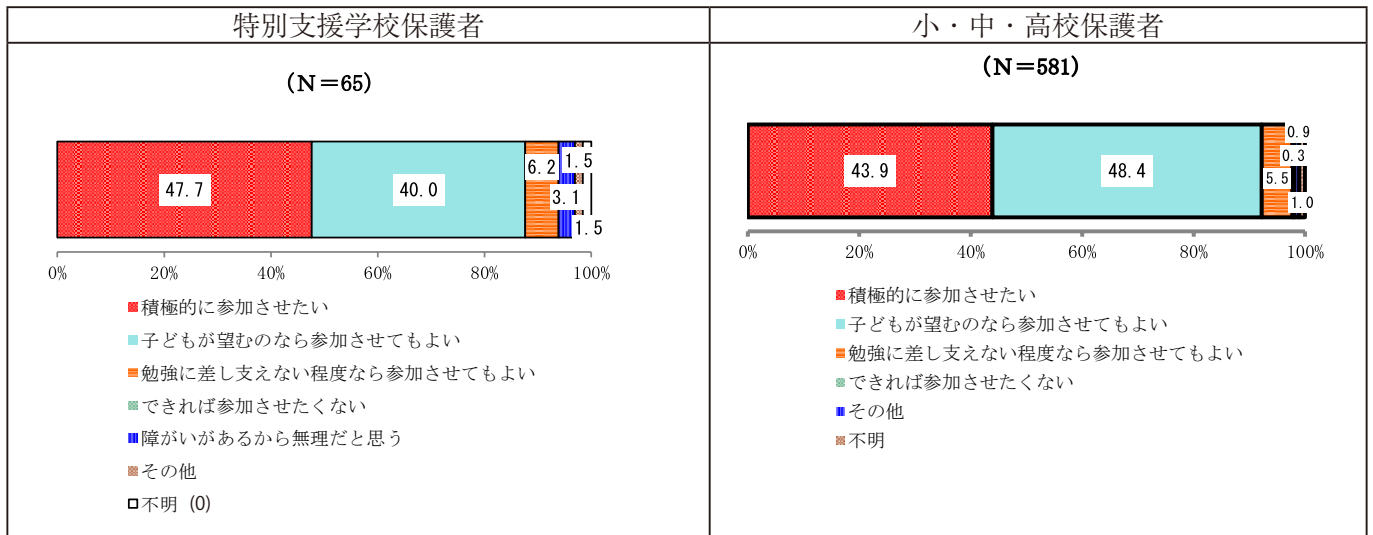
保護者と比較して、同様の傾向である。

前回と比較して、設問、選択肢に変化があるため単純に比較はできないが、「実践するほうがよい」と回答した者の割合が低下している。一方で、「わからない」と回答した者の割合が上昇している。

保護者では学校教育における「福祉教育・学習」の取り入れや実践に対して肯定的にとらえる傾向が高まっている様子うかがえるため、逆の傾向がうかがえる。

問13 あなたは、子どもが福祉体験学習やボランティア活動に参加することについてどう思いますか。

1. 積極的に参加させたい 2. 子どもが望むのなら参加させてもよい
 3. 勉強に差し支えない程度なら参加させてもよい 4. できれば参加させたくない
 5. 障がいがあるから無理だと思う 6. その他



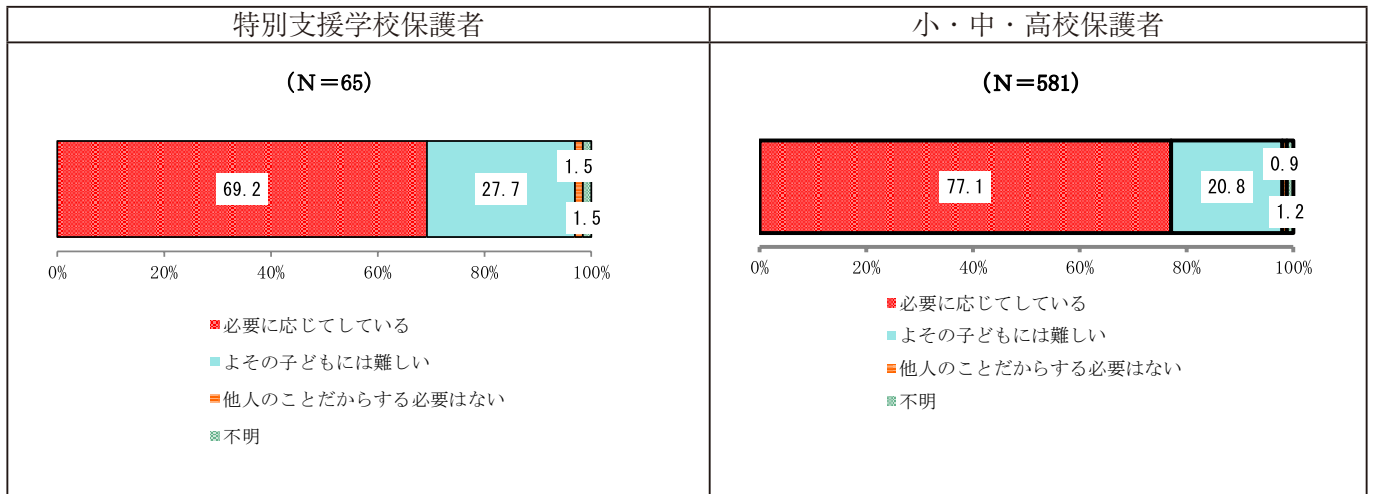
「積極的に参加させたい」が47%と最も多い。次いで、「子どもが望むのなら参加させてもよい」が40%、「勉強に差し支えない程度なら参加させてもよい」が6%、「障がいがあるから無理だと思う」が3%となっている。

小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、「積極的に参加させたい」と回答する者の割合が若干多くなっている。前回と比較して、「積極的に参加させたい」が11ポイント上昇している。一方で、「障がいがあるから無理だと思う」が12ポイント低下しており、福祉体験学習やボランティア活動への参加に積極的である傾向がうかがえる。

問14 あなたは、よその子どもに注意したり、ほめたりできますか。

1. 必要に応じてしている 2. よその子どもには難しい 3. 他人のことだからする必要はない



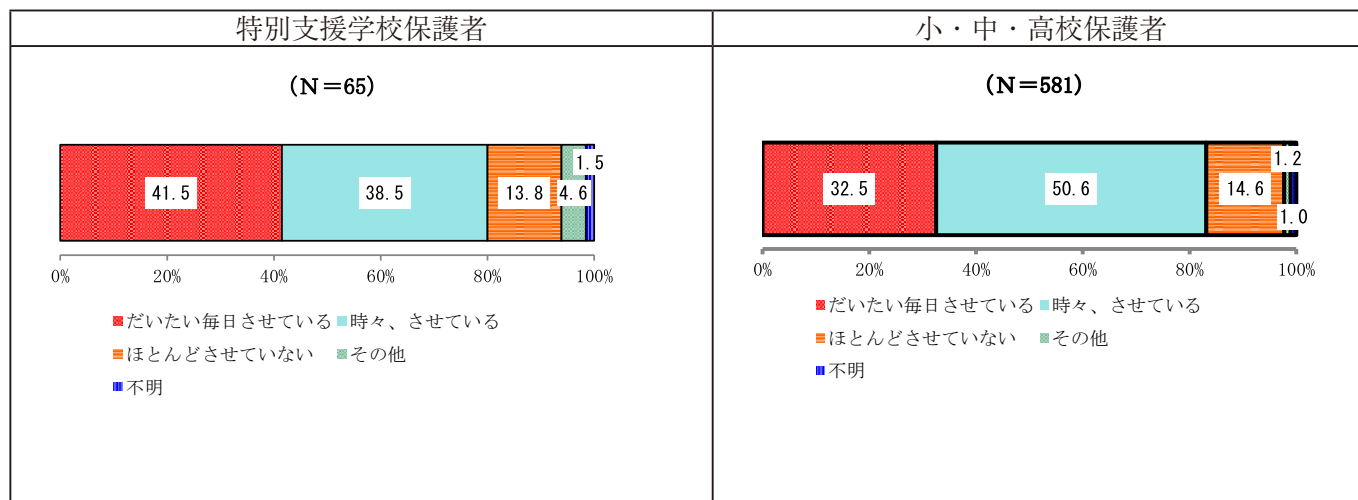
「必要に応じてしている」が69%と最も多い。次いで「よその子どもには難しい」が27%となっている。

小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、同様の傾向である。前回と比較して、選択率、順位ともに同様の傾向がうかがえる。

問15 あなたは、子どもに家族の一員として、何かお手伝いをさせていますか。

1. だいたい毎日させている
2. 時々、させている
3. ほとんどさせていない
4. その他



「だいたい毎日させている」が41%と最も多い。次いで、「時々、させている」が38%、「ほとんどさせていない」が13%となっている。

小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、お手伝いをさせている傾向がうかがえる。

前回と比較して、「だいたい毎日させている」が22ポイント上昇している。一方で、「時々、させている」が16ポイント低下し、「ほとんどさせていない」が4ポイント低下している。保護者よりも、お手伝いをさせる傾向が高まっている様子が見られる。

問16 あなたは、福祉に関する情報・資料・教材を主にどのようなところから入手していますか。2つ以内で選んでください。

1. 福祉事務所や関係行政機関から
2. 教育委員会から
3. 社会福祉協議会や社会福祉施設から
4. 公民館・図書館などの社会教育施設から
5. 職場の仲間や友だちから
6. テレビ・ラジオから
7. 自治体などの広報誌から
8. 本や雑誌・新聞から
9. インターネットから
10. その他

項目	特別支援学校保護者		小・中・高校保護者	
	件数	%	件数	%
全体	65	100.0	581	100.0
1. 福祉事務所や関係行政機関から	21	32.3	95	16.4
2. 教育委員会から	6	9.2	62	10.7
3. 社会福祉協議会や社会福祉施設から	7	10.8	78	13.4
4. 公民館・図書館などの社会教育施設から	4	6.2	55	9.5
5. 職場の仲間や友だちから	11	16.9	63	10.8
6. テレビ・ラジオから	11	16.9	164	28.2
7. 自治体などの広報誌から	19	29.2	232	39.9
8. 本や雑誌・新聞から	17	26.2	115	19.8
9. インターネットから	12	18.5	104	17.9
10. その他	6	9.2	13	2.2
不明	1	1.5	31	5.3

「福祉事務所や関係行政機関から」が32%と最も多い。次いで、「自治体などの広報誌から」が29%、「本や雑誌・新聞から」が26%、「インターネットから」が18%、「職場の仲間や友だちから」「テレビ・ラジオから」が16%となっている。

小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、「福祉事務所や関係行政機関から」が15ポイント上昇している。

前回と比較して、設問、選択肢の文言に変化があり単純に比較はできないが、入手先として「職場の仲間や友だちから」「自治体などの広報誌から」「本や雑誌・新聞から」「インターネットから」が10ポイント以上上昇している。

問17 あなたが、次のことばの中で、知っているものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|----------------|----------------------|--------------|
| 1. 点字 | 2. 手話 | 3. 特別支援学校（養護学校） | 4. 保育所 |
| 5. 児童養護施設 | 6. 特別養護老人ホーム | 7. 母子生活支援施設 | 8. 障がい者支援施設 |
| 9. 児童相談所 | 10. 福祉事務所 | 11. 社会福祉協議会 | 12. 国民年金 |
| 13. 健康保険 | 14. 生活保護 | 15. 介護保険 | 16. あいサポート運動 |
| 17. インクルージョン | 18. ノーマライゼーション | 19. バリアフリー | |
| 20. UD（ユニバーサルデザイン） | 21. リハビリテーション | | |
| 22. 民生委員・児童委員 | 23. 老人クラブ | 24. ホームヘルパー（訪問介護員） | |
| 25. デイサービスセンター | 26. 介護福祉士 | 27. ソーシャルワーカー（社会福祉士） | |
| 28. ケースワーカー | 29. 子どもの権利条約 | 30. 児童憲章 | |

項目	特別支援学校保護者		小・中・高校保護者	
	件数	%	件数	%
全体	65	100.0	581	100.0
1.点字	62	95.4	562	96.7
2.手話	61	93.8	565	97.2
3.特別支援学校（養護学校）	64	98.5	570	98.1
4.保育所	63	96.9	565	97.2
5.児童養護施設	57	87.7	531	91.4
6.特別養護老人ホーム	58	89.2	542	93.3
7.母子生活支援施設	37	56.9	408	70.2
8.障がい者支援施設	54	83.1	500	86.1
9.児童相談所	61	93.8	552	95.0
10.福祉事務所	51	78.5	433	74.5
11.社会福祉協議会	58	89.2	514	88.5
12.国民年金	60	92.3	562	96.7
13.健康保険	62	95.4	559	96.2
14.生活保護	58	89.2	561	96.6
15.介護保険	58	89.2	545	93.8
16.あいサポート運動	40	61.5	318	54.7
17.インクルージョン	6	9.2	69	11.9
18.ノーマライゼーション	19	29.2	182	31.3
19.バリアフリー	60	92.3	555	95.5
20.UD（ユニバーサルデザイン）	44	67.7	441	75.9
21.リハビリテーション	62	95.4	547	94.1
22.民生委員・児童委員	61	93.8	529	91.0
23.老人クラブ	58	89.2	493	84.9
24.ホームヘルパー（訪問介護員）	61	93.8	550	94.7
25.デイサービスセンター	61	93.8	551	94.8
26.介護福祉士	59	90.8	536	92.3
27.ソーシャルワーカー（社会福祉士）	55	84.6	479	82.4
28.ケースワーカー	43	66.2	365	62.8
29.子どもの権利条約	22	33.8	254	43.7
30.児童憲章	17	26.2	245	42.2
不明	1	1.5	6	1.0

30項目中13項目について90%以上の者が知っていると回答している。なかでも、「点字」「特別支援学校（養護学校）」「保育所」「健康保険」「リハビリテーション」に関しては95%を超えている。一方で、「インクルージョン」「ノーマライゼーション」「子どもの権利条約」「児童憲章」に関しては知っている者の割合が50%未満となっている。

小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、知っている者の割合が少ない項目は同様の傾向である。

前回と比較して、前は「特別支援学校（養護学校）」「保育所」「児童相談所」「デイサービスセンター」は100%となっていたが、今回は100%の項目はなく、最も多いのは「特別支援学校（養護学校）」が98%である。

問18 あなたは、子どもに将来どのような生き方をしてほしいと思いますか。次の項目の中から、あなたの考えにいちばん近いものを選んでください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 人のために役立つような生き方をしてほしい | 2. 健康で楽しい生活を送ってほしい |
| 3. 好きな人と結婚して、楽しく暮らしてほしい | 4. 世の中を良くするために働いてほしい |
| 5. 努力して出世してほしい | 6. 困らない程度の生活が送ればよい |
| 7. 金持ちや有名人になってほしい | 8. 自分のことは自分でできるよう自立してほしい |
| 9. 人から好かれる人になってほしい | 10. その他 |

項目	特別支援学校保護者		小・中・高校保護者	
	件数	%	件数	%
全 体	65	100.0	581	100.0
1. 人のために役立つような生き方をしてほしい	6	9.2	119	20.5
2. 健康で楽しい生活を送ってほしい	21	32.3	229	39.4
3. 好きな人と結婚して、楽しく暮らしてほしい	5	7.7	28	4.8
4. 世の中を良くするために働いてほしい	1	1.5	4	0.7
5. 努力して出世してほしい	0	0.0	1	0.2
6. 困らない程度の生活が送ればよい	7	10.8	25	4.3
7. 金持ちや有名人になってほしい	0	0.0	1	0.2
8. 自分のことは自分でできるよう自立してほしい	19	29.2	116	20.0
9. 人から好かれる人になってほしい	3	4.6	39	6.7
10. その他	2	3.1	11	1.9
不明	1	1.5	8	1.4

「健康で楽しい生活を送ってほしい」が32%と最も多い。次いで、「自分のことは自分でできるように自立してほしい」が29%、「困らない程度の生活が送ればよい」が10%となっている。

小・中・高校保護者との比較

保護者と比較して、「人のために役立つような生き方をしてほしい」が11ポイント低下している。

前回と比較して、「健康で楽しい生活を送ってほしい」は22ポイント低下している。一方で、「好きな人と結婚して、楽しく暮らしてほしい」が7ポイント上昇、「自分のことは自分でできるように自立してほしい」が11ポイント上昇、となっている。

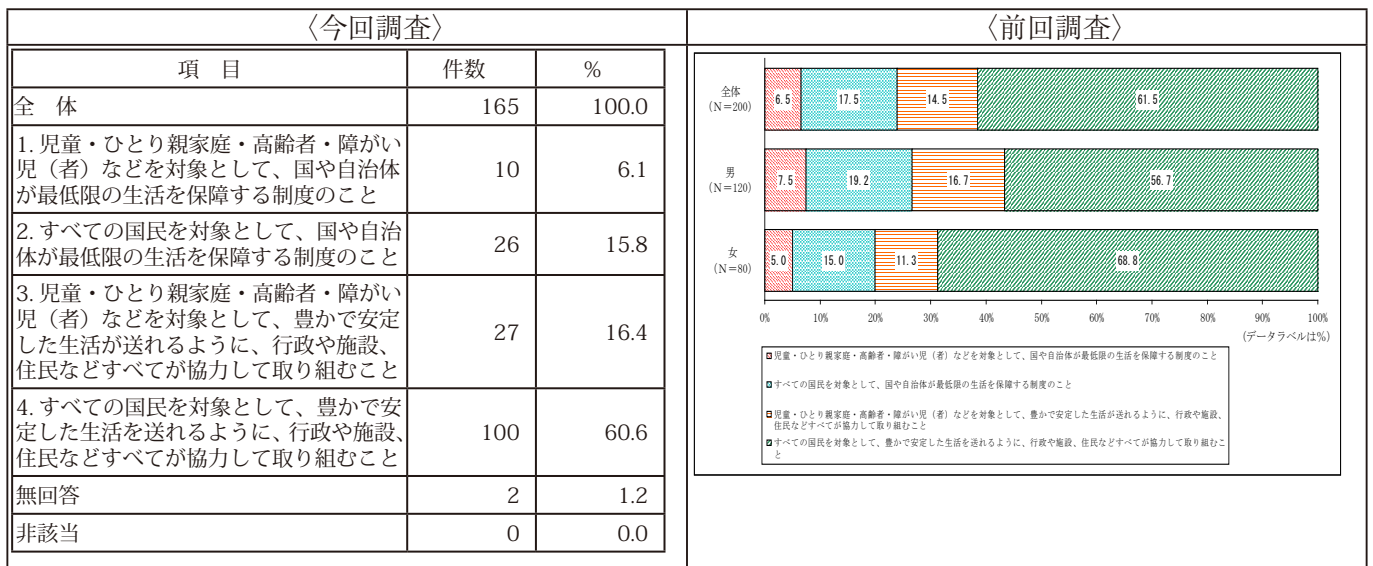
教員の部

《教員の部》

※問1～問6は属性に関する設問につき今回の報告書では記載を省略する。

問7 あなたは、「福祉」ということばを聞いて、どのようなイメージをもたれますか。あなたの考えにいちばん近いものを1つ選んでください。

1. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
2. すべての国民を対象として、国や自治体が最低限の生活を保障する制度のこと
3. 児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）などを対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと
4. すべての国民を対象として、豊かで安定した生活を送れるように、行政や施設、住民などすべてが協力して取り組むこと



この設問では、「福祉」のイメージを2つのカテゴリーの組み合わせで、4項目設定している。第1のカテゴリーは福祉対象を「児童・ひとり親家庭・高齢者・障がい児（者）など」に限定するのか（1と3）、「すべての国民」として限定しないか（2と4）というものである。第2のカテゴリーは、福祉主体および福祉サービスを「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」とするか（1と2）、「行政や施設、住民などすべてが協力して取り組む」（3と4）とするかというものである。

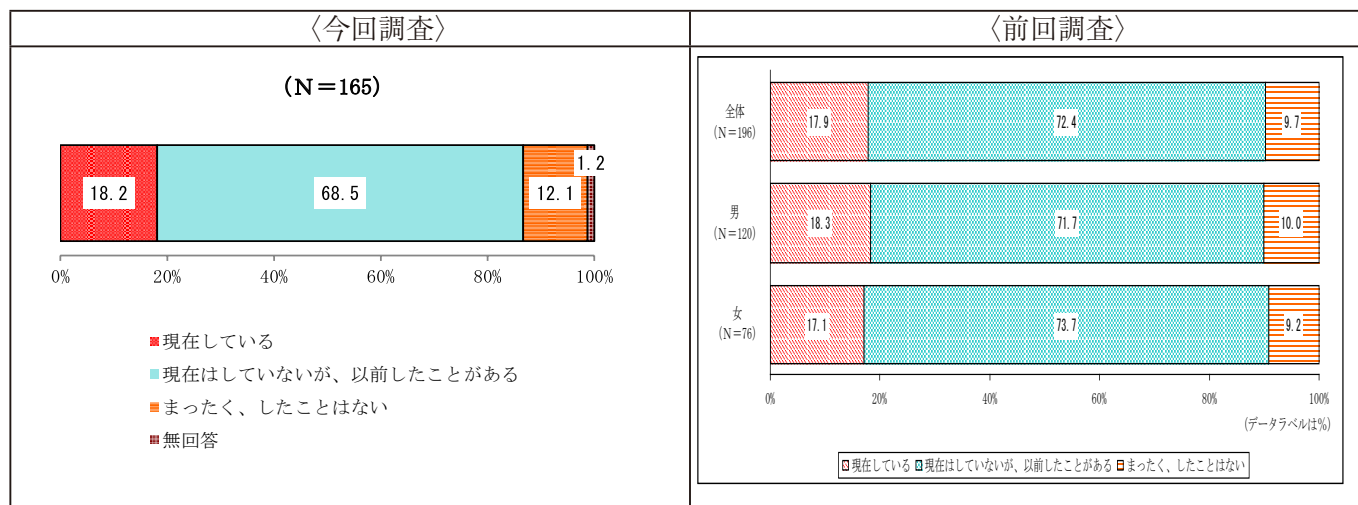
まず、福祉対象で見ると、対象を限定し捉える者が25%、限定しない者が76%であり、福祉対象を広くすべての国民として捉える傾向がうかがえた。次に、福祉主体および福祉サービスで見ると、「国や自治体が最低限度の生活を保障する制度」が22%に対して、「すべて協力して取り組む」が77%と多数を占め、選択肢4と回答した者が最も多く60%を超えている。

前回調査との比較

前回と大きな変化は見られないが、対象を限定する者が4ポイント上昇し、対象を限定しない者が3ポイント低下している。

問8 あなたは、「福祉活動」や「ボランティア活動」をしたことがありますか。

1. 現在している 2. 現在はしていないが、以前したことがある 3. したことはない



「現在している」「現在はしていないが、以前したことがある」を合わせると80%以上が、活動経験があると回答している。

前回調査との比較

前回と比較して、活動経験者の割合は4ポイント低下し、活動未経験者が増加している。

問8-1 それはどんな活動ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）
- イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動
- ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動
- エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動
- オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動
- カ. 趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動
- キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動
- ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動
- ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動
- コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動
- サ. その他

〈今回調査〉			〈前回調査〉	
項目	件数	%	項目	%
全 体	165	100.0	ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）	35.0
ア. 社会福祉施設や病院での活動（美化、話し相手、介助、訪問、学習、交流など）	44	26.7	イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動	11.3
イ. 高齢者や障がい児（者）・病人のいる家庭での支援・訪問活動	13	7.9	ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動	7.3
ウ. 手話・点訳・朗読などの専門技術を通して、障がい児（者）との支援・交流活動	7	4.2	エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動	54.8
エ. 子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動	78	47.3	オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動	40.7
オ. 自然や環境の保全、美化・清掃などの活動	73	44.2	カ. 趣味やレクリエーション・スポーツ等の技術を生かした指導や援助の活動	33.3
カ. 趣味やレクリエーション・スポーツ等の技術を生かした指導や援助の活動	45	27.3	キ. チャリティバザー等の福祉財源づくりや募金などへの協力活動	19.8
キ. チャリティバザーや募金などへの協力活動	45	27.3	ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動	32.8
ク. 古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動	53	32.1	ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動	10.7
ケ. 国際交流・協力、地域で暮らす外国人との交流、外国への援助の活動	17	10.3	コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動	8.5
コ. 地震や自然災害による被害の復興や災害支援の活動	6	3.6	サ. その他	1.1
サ. その他	2	1.2		
無回答	0	0.0		
非該当	22	13.3		

選択率の高いものから順に「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動」が55%、「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」が51%、「古切手、ベルマーク、アルミ缶などの収集活動」37%、「趣味やレクリエーション・スポーツなどの技術を生かした指導や援助の活動」「チャリティバザーや募金などへの協力活動」がともに32%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、前回調査と同様に「子ども会・敬老会や地域の行事、地域の防犯活動や町内会活動など、地域づくりの活動」と「自然や環境の保全、美化・清掃などの活動」の順で高かった。10ポイント以上上昇した項目は、「チャリティバザーや募金などへの協力活動」のみとなっている。

問8-2 あなたは、主にどのような理由（考え）でその活動に参加されましたか。2つ以内でお答えください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ア. 何かやってみたく思ったから | イ. 余暇を有益に使いたかったから |
| ウ. 自分の生きがいになると思ったから | エ. 自分の専門や仕事と関係があったから |
| オ. 社会の一員として当然だから | カ. 友だちに誘われたから |
| キ. 人に頼まれたから | ク. なんとなく |
| | ケ. その他 |

〈今回調査〉			〈前回調査〉	
項目	件数	%	項目	%
全 体	165	100.0	ア.何かやってみたく思ったから	29.7
ア.何かやってみたく思ったから	39	23.6	イ.余暇を有益に使いたかったから	2.3
イ.余暇を有益に使いたかったから	5	3.0	ウ.自分の生きがいになると思ったから	7.0
ウ.自分の生きがいになると思ったから	15	9.1	エ.自分の専門や仕事と関係があったから	42.4
エ.自分の専門や仕事と関係があったから	61	37.0	オ.社会の一員として当然だから	37.2
オ.社会の一員として当然だから	36	21.8	カ.友人に誘われたから	8.1
カ.友だちに誘われたから	18	10.9	キ.人に頼まれたから	15.7
キ.人に頼まれたから	27	16.4	ク.なんとなく	7.0
ク.なんとなく	11	6.7	ケ.その他	2.9
ケ.その他	5	3.0		
無回答	2	1.2		
非該当	22	13.3		

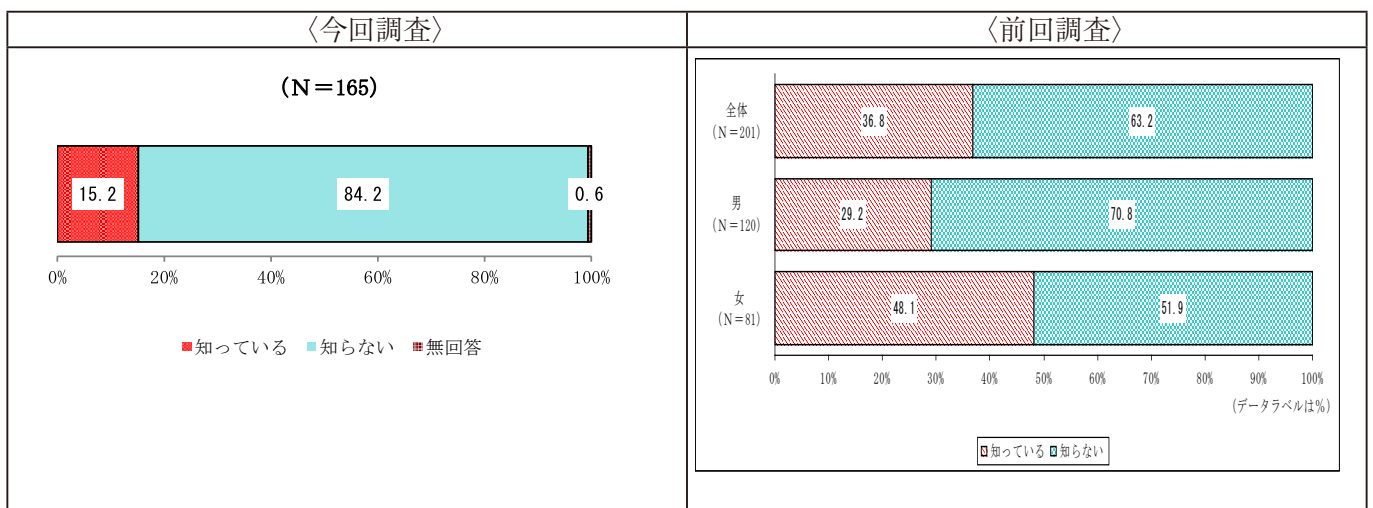
「自分の専門や仕事と関係があったから」が37%と最も多い。次いで「何かやってみたく思ったから」が23%、「社会の一員として当然だから」が21%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、前回調査同様の割合で「自分の専門や仕事と関係があったから」が最も多かったが、「何かやってみたく思ったから」が2ポイント低下し、「社会の一員として当然だから」が12ポイント低下している。

問9 鳥取県・市町村の社会福祉協議会では、「福祉教育推進校（協力校等を含む）」を指定し、児童・生徒への「福祉教育」をすすめてきました。あなたは、この事業のことを知っておられますか。

1. 知っている 2. 知らない



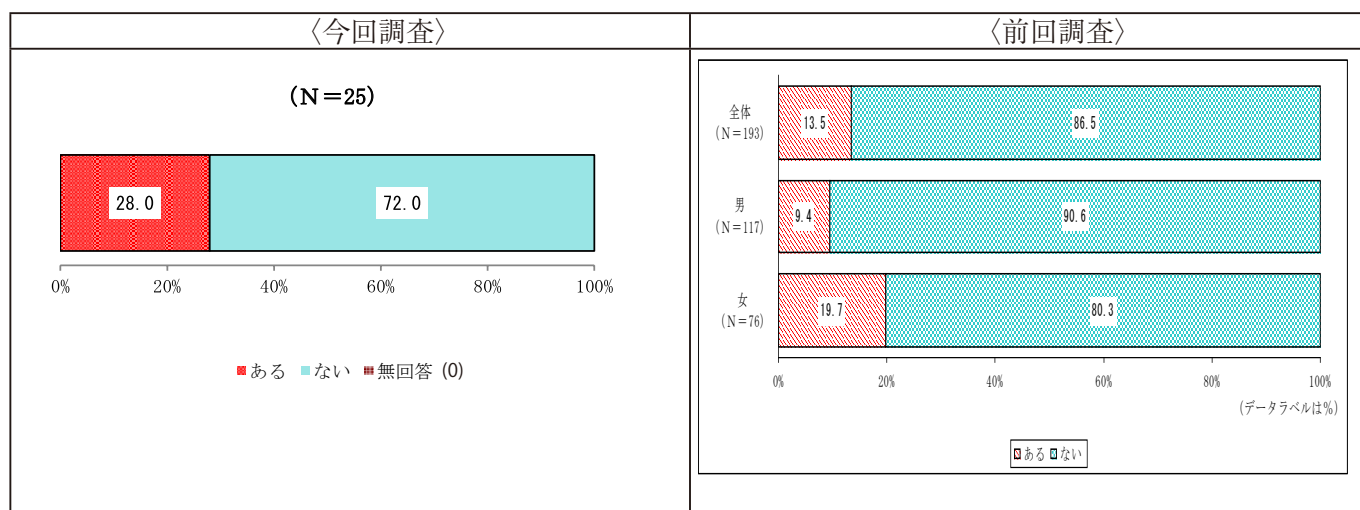
「知っている」が15%と、全体の6分の1程度にとどまっている。

前回調査との比較

前回と比較して、前回調査では「知っている」が36%であったので、今回の認知度は21ポイント低下し、その割合が半減している。

問9-1 問9で1.知っている と答えた人に、これまでに、この推進校等の指定の経験（前任校を含む）をお持ちですか。

- ア. ある イ. ない



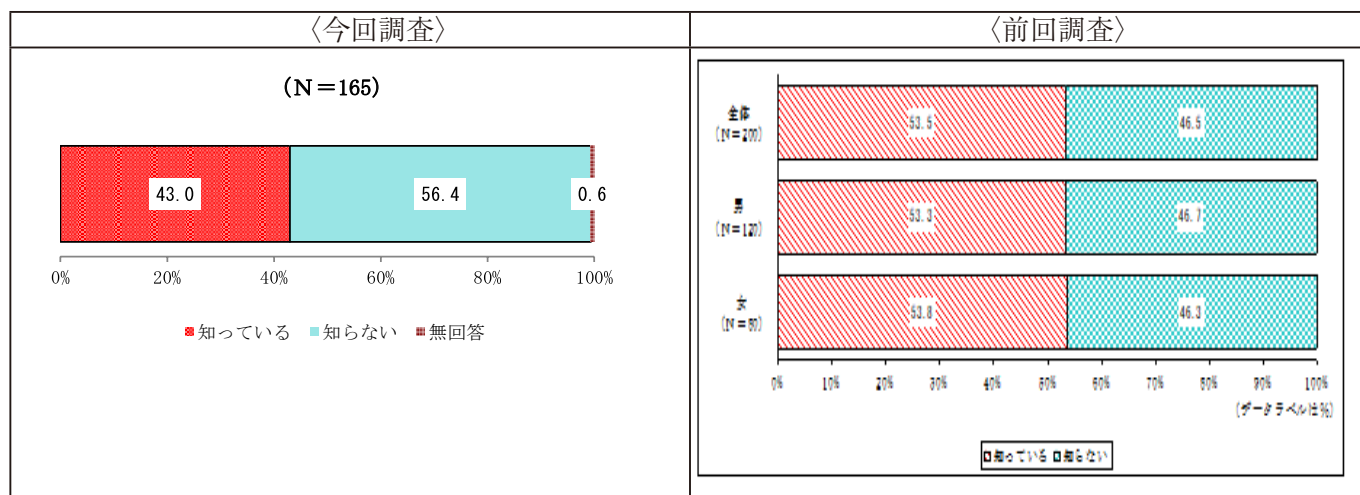
推進校等の指定経験が「ある」は28%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、「ある」は15ポイント上昇し、その割合は倍増している。

問10 鳥取県社会福祉協議会では、福祉教育読本「ともに生きる」を作成し各学校に配布しています（小学生版、中学生版、教師版、高校生版[3部作]）。あなたは、これらの読本のことを知っておられますか。

1. 知っている 2. 知らない



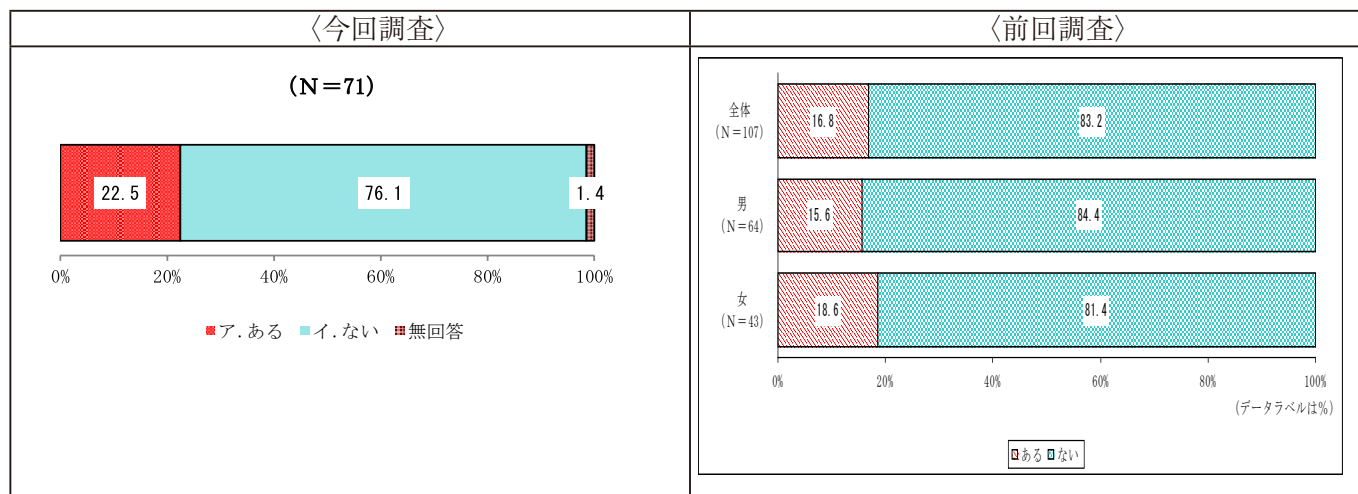
「知っている」は43%で、「知らない」が56%となり、「知らない」とする回答が上回っている。

前回調査との比較

前回と比較して、「知っている」が「知らない」を上回ったが、今回は「知っている」が11ポイント低下し逆の結果となっている。

問10-1 (「1. 知っている」と答えた人) 実際に読本を使って授業を行われたことがありますか。

ア. ある イ. ない



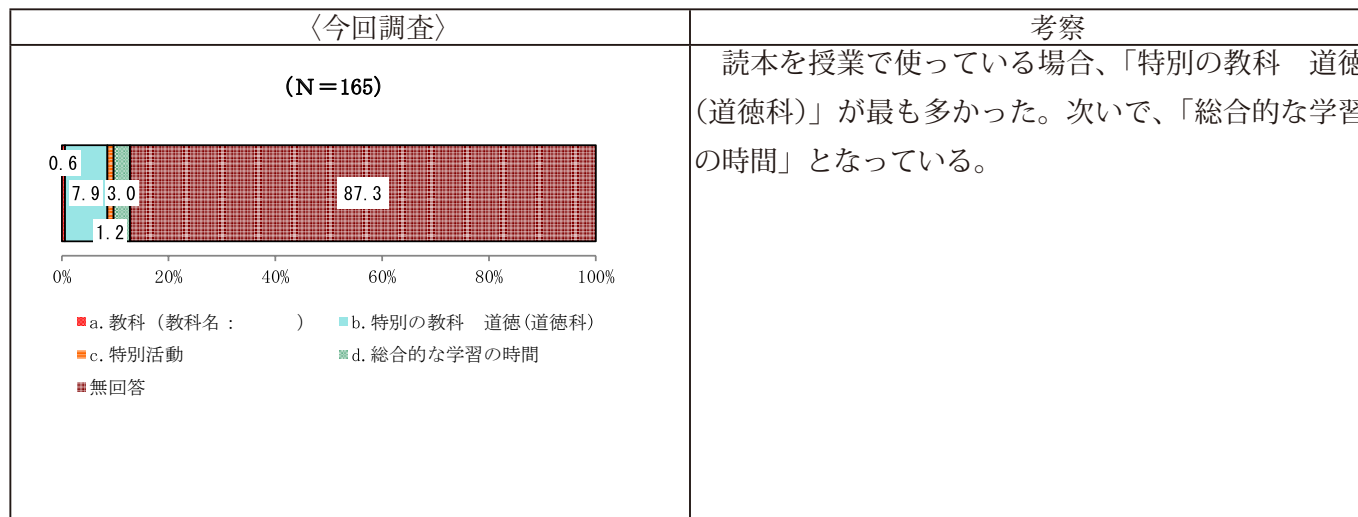
授業での読本の使用は、読本を「知っている」と回答したうちの22%が「ある」となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、授業での読本の使用は6ポイント上昇となっている。

問10-1-1 使用された教科・時間の名称

- a. 教科 (教科名:) b. 特別の教科 道徳 (道徳科) c. 特別活動
 d. 総合的な学習の時間

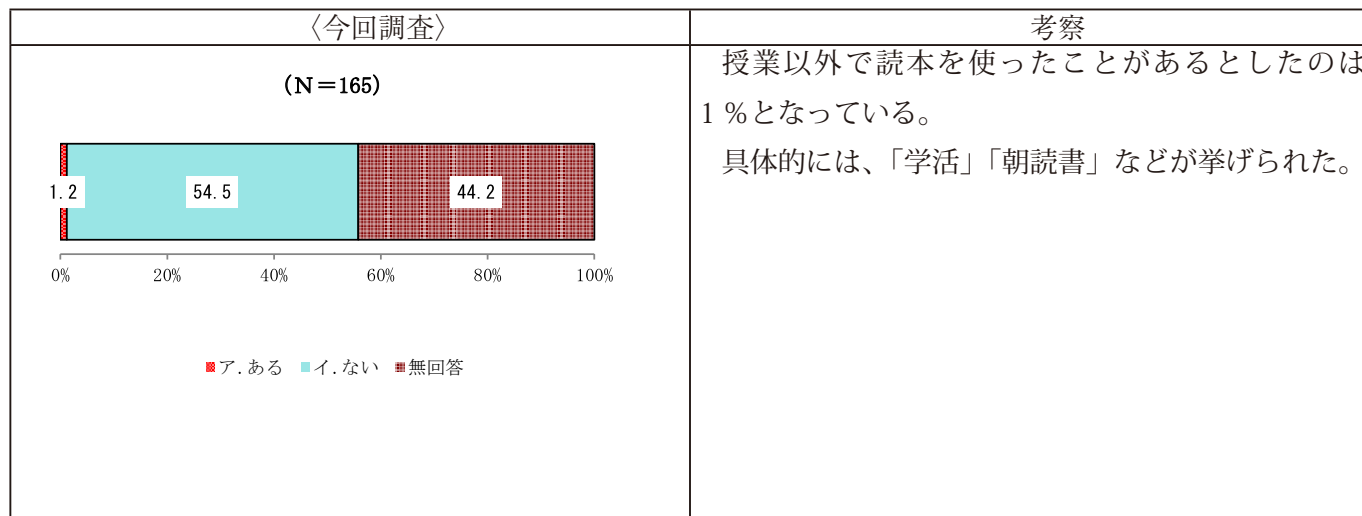


前回調査との比較

設問が変化したため比較なし。

問10-2 授業以外で読本を使ったことがありますか。

ア. ある イ. ない

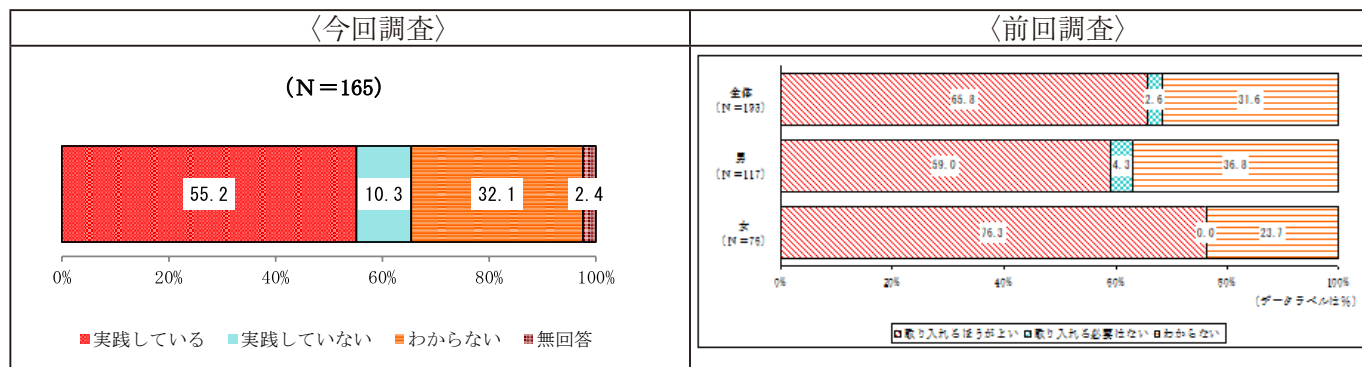


前回調査との比較

設問が変化したため比較なし。

問11 あなたの学校では「福祉教育・学習」を実践していますか。

1. 実践している 2. 実践していない 3. わからない



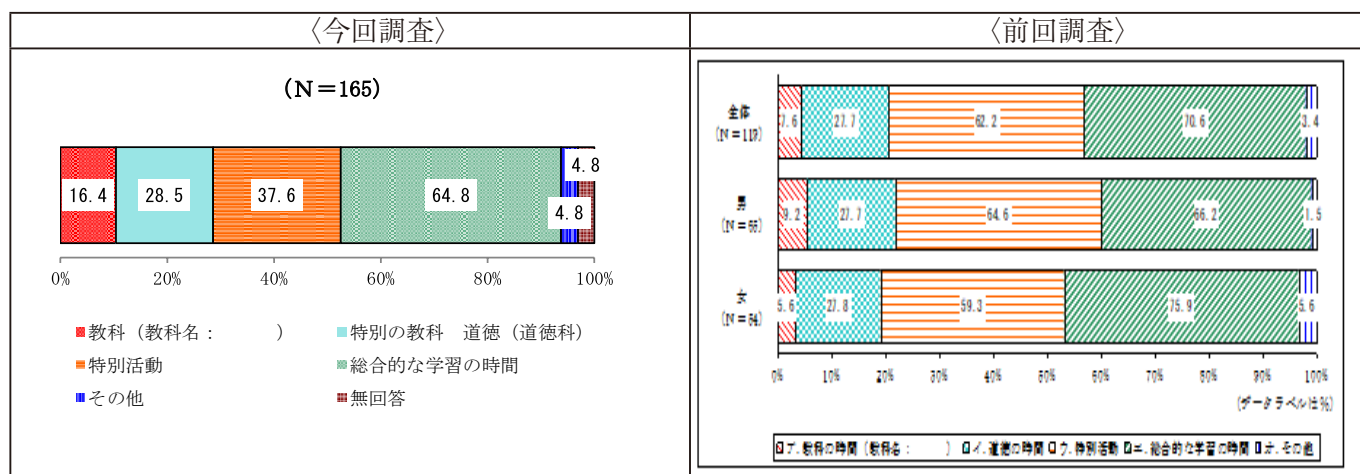
福祉教育・学習を「実践している」と回答したのは55%、「実践していない」は10%、「分からない」は32%となっている。

前回調査との比較

設問が変化したため比較なし。

問12 学校教育の中に「福祉教育」を取り入れる場合、どのような学習や教育活動の場所が特に適していると考えられますか。2つ以内でお答えください。

1. 教科（教科名： ） 2. 特別の教科 道徳（道徳科） 3. 特別活動
4. 総合的な学習の時間 5. その他



「総合的な学習の時間」が最も多く64%、次いで「特別活動」が37%、「特別の教科 道徳（道徳科）」が28%となっている。

「教科」の時間としては、「家庭科」「社会科」「公民科」「福祉」が挙げられた。

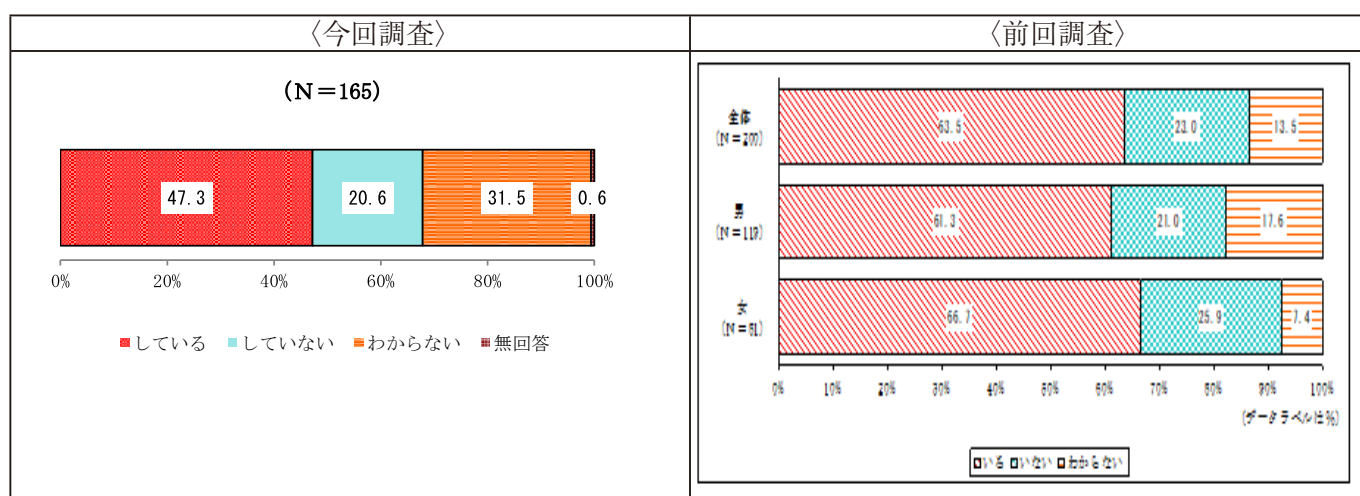
前回調査との比較

前回と比較して、前回調査では「総合的な学習の時間」が70%を占めたが、今回も同様な傾向がみられた。「教科」の回答が倍増し9ポイント上昇している。

問13 あなたの学校では校務分掌として「福祉教育」の担当者を明確にしていますか。

1. している 2. していない 3. わからない

「1. している」と答えた人は、問13-1をお答えください。



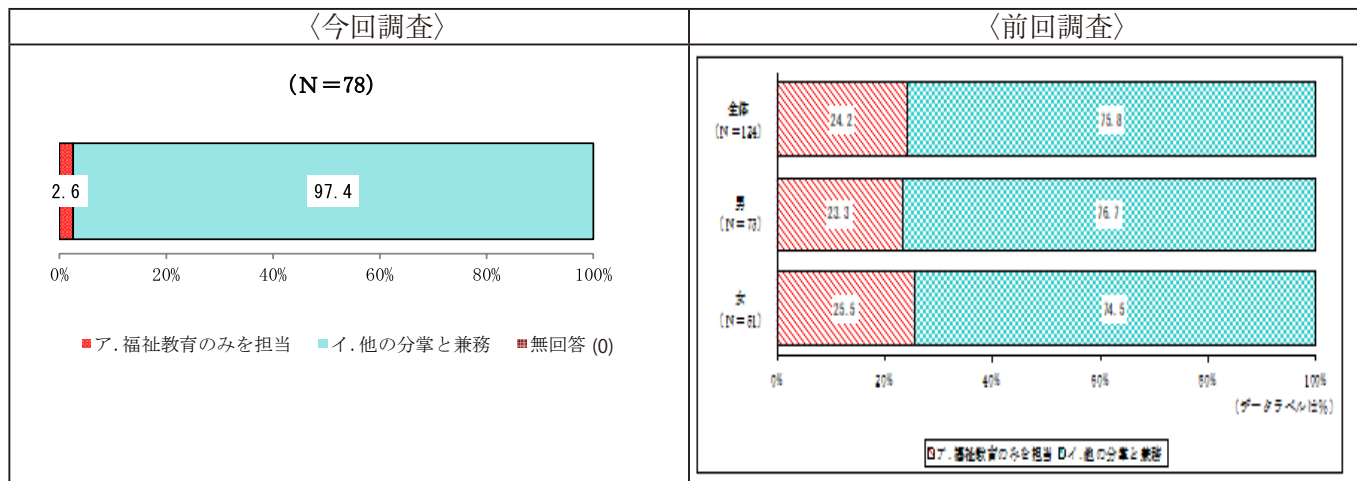
校務分掌として「福祉教育」の担当者を明確に「している」という回答は47%、「していない」が20%、「わからない」が31%となっている。

前回調査との比較

設問の語尾が若干変化しているため単純には比較できないが、今回は「わからない」という回答が18ポイント上昇し、3分の1が担当者の存在を十分に認識できていない。

問13-1 具体的にはどのような位置づけ（または兼務）の状況ですか。

- ア. 福祉教育のみを担当 イ. 他の分掌と兼務



校務分掌における「福祉教育」の担当者は、97%が「他の分掌と兼務」となっている。

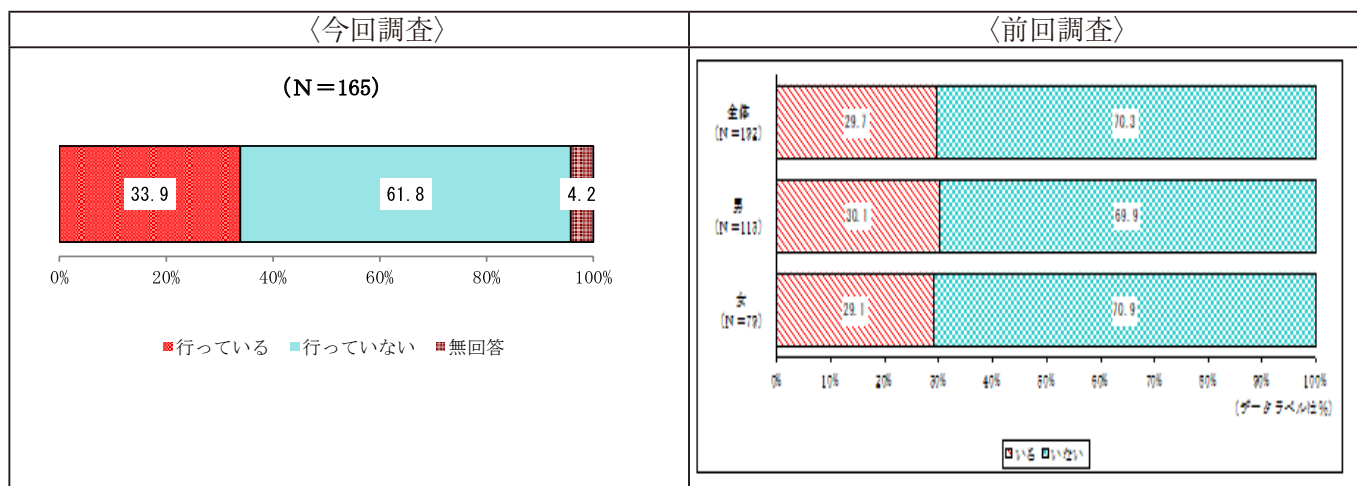
前回調査との比較

前回と比較して、「他の分掌と兼務」が22ポイント上昇している。

問14 あなたは、またはあなたの学校では「福祉教育」に関して、何か保護者に働きかけを行っていますか。

1. 行っている 2. 行っていない

「1. 行っている」と答えた人は、問14-1をお答えください。



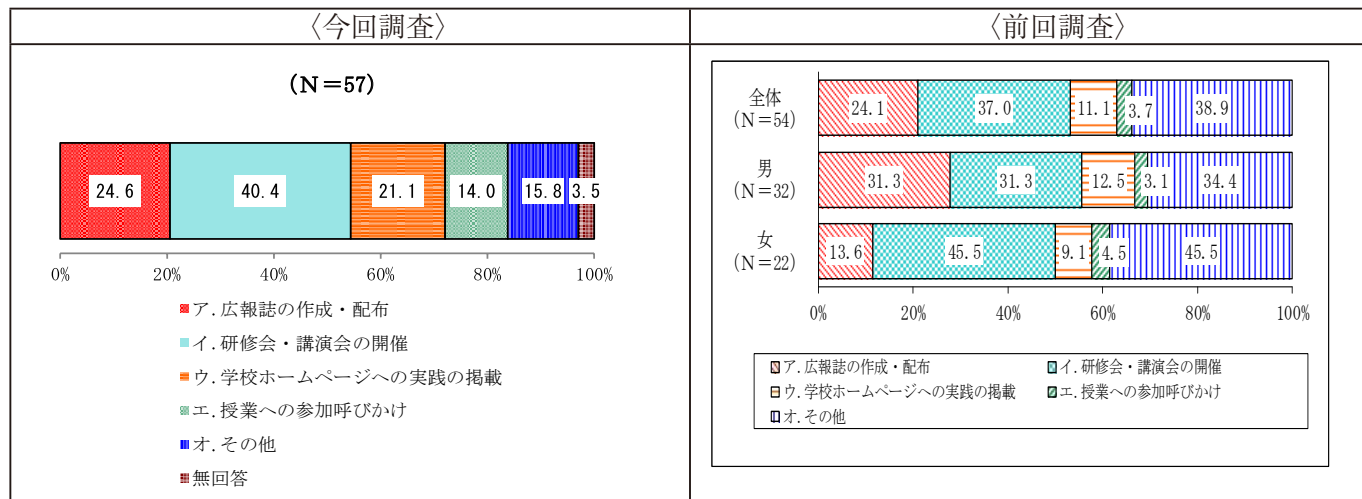
「福祉教育」に関しての保護者への働きかけは、「行っている」という回答が33%、「行っていない」が61%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、働きかけを「行っている」という回答は4ポイント上昇している。

問14-1 具体的にどのような内容・方法ですか。

- ア. 広報誌の作成・配布
- イ. 研修会・講演会の開催
- ウ. 学校ホームページへの実践の掲載
- エ. 授業への参加の呼びかけ
- オ. その他



「研修会・講演会の開催」が最も多く40%の学校で取り組まれていた。次いで、「広報誌の作成・配布」が24%、「学校ホームページへの実践の掲載」が21%となっている。

「その他」としては、「募金活動」「ベルマークの収集・仕分け」「福祉委員会の活動」などが挙げられた。

前回調査との比較

前回と比較して、「研修会・講演会の開催」3ポイント上昇、「学校ホームページへの実践の掲載」が10ポイント上昇、「授業への参加呼びかけ」が14ポイント上昇している。

問15 あなたは、福祉に関する情報・資料・教材を主にどのようなところから入手していますか。2つ以内でお答えください。

- 1. 福祉事務所や関係行政機関から
- 2. 教育委員会から
- 3. 社会福祉協議会や社会福祉施設から
- 4. 公民館・図書館などの社会教育施設から
- 5. 職場の仲間や友だちから
- 6. テレビ・ラジオから
- 7. 自治体などの広報誌から
- 8. 本や雑誌・新聞から
- 9. インターネットから
- 10. その他

〈今回調査〉			〈前回調査〉	
項目	件数	%	項目	%
全 体	165	100.0	福祉事務所や関係行政機関から	19.4
1. 福祉事務所や関係行政機関から	21	12.7	教育委員会から	11.1
2. 教育委員会から	27	16.4	社会福祉協議会や社会福祉施設から	23.9
3. 社会福祉協議会や社会福祉施設から	37	22.4	公民館・図書館などの社会教育施設から	7.8
4. 公民館・図書館などの社会教育施設から	14	8.5	職場の仲間や友人から	15.6
5. 職場の仲間や友だちから	35	21.2	テレビ・ラジオから	14.4
6. テレビ・ラジオから	18	10.9	自治体などの広報誌から	23.9
7. 自治体などの広報誌から	39	23.6	本や雑誌・新聞から	26.1
8. 本や雑誌・新聞から	30	18.2	インターネットから	28.3
9. インターネットから	41	24.8	その他	2.2
10. その他	3	1.8		
無回答	13	7.9		

「インターネットから」が24%と最も多く、次いで「自治体などの広報から」が23%、「社会福祉協議会や社会福祉施設から」が22%、「職場の仲間や友だちから」が21%となっている。

前回調査との比較

前回と比較して、多様なルートから情報を得ていることが読み取れる。特に、「職場の仲間や友だちから」が6ポイント上昇している。逆に「本や雑誌・新聞から」が8ポイント低下し、「福祉事務所や関係行政機関から」が7ポイント低下している。

調査結果（単純集計）の特徴点

調査結果（単純集計）の特徴点

今回の調査結果（単純集計）の中から特徴的な内容を報告。

1 学校や地域での交流、ボランティア活動

「障がいのある人との交流」を質問した。小学生76%、中学生59%、高校生64%が「ある」と回答している。前回と比較して、小学生が少し上昇している一方で、中学・高校生は20ポイント程度低下している。高校生に対する質問項目は前回と変わっているため単純に比較はできないが、中学生も含めて地域の中で障がいのある人と交流する機会が少なくなっていることが考えられる。

続いて質問した「ボランティア活動の経験」では、小学生58%、中学生60%、高校生85%が「ある」と回答している。前回と比較して、高校生が少し上昇している一方で、小・中学生は7ポイント低下している。

また、特別支援学校高等部生は「ボランティア活動の経験がある」45%、「地域で他の高校生とかかわったことがある」48%、となっている。

2 定着した「協働的な社会福祉」イメージ

高校生、特別支援学校高等部生、保護者、特別支援学校高等部保護者、教員を対象に、社会福祉のイメージについて、①福祉の対象を『限定する』もしくは『すべての国民』として捉えるのか、②取組み主体を『行政』もしくは『行政+住民等』とするかという二つのカテゴリーの組み合わせにより質問した。

今回調査も、高校生は『限定する』×『行政+住民等』と捉えているのに対し、教員及び保護者は『すべての国民』×『行政+住民等』と理解している。また、特別支援学校高等部保護者は『限定する』×『行政+住民等』、特別支援学校高等部生は『限定する』×『行政』という結果となり、福祉の対象を『限定する』回答が60%を超えている。

取組み主体を『行政+住民等』と捉える者は、高校生、保護者、特別支援学校高等部保護者、教員ともに70%前後と高く「協働的な社会福祉」のイメージがさらに定着している傾向がうかがえる。

3 将来の生き方・願い、福祉の仕事

高校生、特別支援学校高等部生、保護者、特別支援学校高等部保護者を対象に「将来の生き方」（保護者には子どもの将来）について質問した。「健康で楽しい生活を送りたい」回答がいずれも多く40%程度となっている。次いで回答が多かったのは、高校生と保護者は「人のために役立つ生き方」20%台であるのに対して、特別支援学校高等部生は「好きな人と結婚して楽しく暮らす」27%、特別支援学校高等部保護者は「自分で自立してほしい」29%、であった。前回と比較して、この傾向は同じであった。

続いて高校生、特別支援学校高等部生に質問した「福祉の仕事」では、福祉の職場への就職を考慮している回答が、高校生40%、特別支援学校高等部生30%という結果となり、前回と比較して、この傾向は同じであった。ある一定程度の人材確保が見込める状況であるといえる。福祉の職場への就職を「考える」理由では「人のためになり、社会的に意義のある仕事」の回答が、高校生43%、特別支援学校高等部生30%である。一方で、「考えない」理由では「自分の適性に合わない」の回答が高校生34%、特別支援学校高等部生46%、また、「別の方向に決まっている」の回答が高校生49%、特別支援学校高等部生33%であった。

このことから、福祉関連の職業が若者にとって魅力的な職業として受け入れられるよう、よりいっそう広報・啓発の取組みを進める必要性がうかがえる。

福祉教育研究委員会委員名簿

任期：平成30年7月24日～平成31年7月23日

区分	氏名	所属・役職	作業部会
社会福祉協議会の役職員	日 野 育 子	大山町社会福祉協議会 ボランティアセンター長	
社会教育施設等 機関・団体の役 職員	尾 崎 真理子	鳥取県人権文化センター 次長・上席専任研究員	○
	○ 石 亀 政 道	児童養護施設 因伯子供学園 園長	
関係行政機関の 職員	本 間 厚 子	鳥取県教育委員会事務局 小中学校課 指導主事	○
	中 井 暁 子	鳥取県教育委員会事務局 特別支援教育課 指導主事	○
	伊 藤 浩 志	鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 指導主事	○
	田 中 恒 治	鳥取県教育委員会事務局 社会教育課 社会教育主事	○
	松 井 貴 宏	鳥取県教育委員会事務局 人権教育課 指導主事	
	坂 口 淳 悟	鳥取県福祉保健部 ささえあい福祉局福祉保健課 地域福祉推進担当係長	
学識経験者	東 根 ち よ	鳥取大学 地域学部地域政策学科 講師	○
	◎ 國 本 真 吾	鳥取短期大学 幼児教育保育学科 准教授	○ (座長)

◎委員長 ○副委員長

平成30年度実施

福祉に関する意識・実態調査報告書

—小・中学生、高校生、特別支援学校高等部生、
保護者、特別支援学校保護者、教員—

平成31年3月発行

編集・発行／社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
福祉教育研究委員会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5

電話 (0857) 59-6344

FAX (0857) 59-6340

赤い羽根共同募金助成事業



平成30年度実施
福祉に関する意識・実態調査報告書